OPEN FACTORY

REPORT 2.0

はじめに

＜本紙の位置づけ＞

関西（本事業においては、「関西」を福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の２府５県と定義する）では、中小企業が主役となる地域一体型のオープンファクトリーが各地で誕生している。これらオープンファクトリーを地域で一体となって取り組む中で様々なイノベーションが生まれ、それらを創出する鍵となるキーパーソンが存在する。

これまでの調査から明らかとなった各地の取組内容やその特徴、キーパーソンを紹介するほか、共に取組を支える CO-LEADERS や事務局も紹介する。また、今年度実施してきた「Local X Forum」や「知見融合会議」の開催結果、今年度調査のまとめについても紹介する。

＜本紙で取り扱うオープンファクトリーとは＞

地域一体型オープンファクトリーとは、ものづくりに関わる中小企業や工芸品産地など、一定の産業集積がみられる地域を中心に、企業単独ではなく、地域内の企業等が面として集まり、生産現場を外部に公開したり、来場者にものづくりを体験してもらう取組を示す。

なお、本紙において紹介する事例については、以下の要件を満たすものを前提とする。

①業種や従来の商習慣の枠組みを超えた、「多様なプレイヤー」が「主体的」に取り組むもの。
②取組において、共通として共有される目的や理念（コアバリュー）が存在すること。
③リアルの現場（工場 / 工房や付加価値を生み出す現場）(※1) を実際に五感で体感する仕組みとなっていること。

(※1) 特定の場所に企業が集合して実施するポップアップ型オープンファクトリーにおいても、近隣に他の地域一体型オープンファクトリーが存在し、当該イベントとの相乗効果が想定されるものは満たすものとする。

＜地域区分について＞

本紙で掲載する地域一体型オープンファクトリーの地域区分は、経済産業省各経済産業局の管轄区域で区分している。
各経済産業局と管轄区域は以下のとおり。

経済産業局名	管轄地域
北海道経済産業局	北海道
東北経済産業局	青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県
関東経済産業局	東京都、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県
中部経済産業局	富山県、石川県、岐阜県、愛知県、三重県
近畿経済産業局	福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国経済産業局	岡山県、広島県、山口県、島根県、鳥取県
四国経済産業局	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州経済産業局	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
内閣府沖縄総合事務局経済産業部	沖縄県

※地域内の都道府県名は順不同

INDEX

I. 全国の地域一体型オープンファクトリー

MAP 4

TIMELINE 6

Meet up Furniture Asahikawa（あさひかわデザインウィーク） 8

遠野しごと展 10

360°よねざわオープンファクトリー 12

OPEN FACTORY KORIYAMA 14

すかがわ TEC ツアーズ 16

かぬまオープンファクトリー 18

彩の国オープンファクトリー 20

浅草エーラウンド 22

台東モノマチ 24

スミファ すみだファクトリーめぐり 26

おおたオープンファクトリー 28

かつしかライブファクトリー 30

あやせ工場オープンファクトリー 32

燕三条 工場の祭典 34

五泉ニットフェス 36

やまなし Jewelry Week 38

ハタオリマチのハタ印 40

ニラサキオープンファクトリー 42

共生 Shizuoka Craft Week 44

ファクハク 静岡工場博覧会 46

市場街（高岡クラフト市場街） 48

GEMBA モノヅクリエキスポ 50

関の工場参観日 52

ひつじサミット尾州 54

こもガク 56

RENEW 58
千年未来工藝祭 60
DESIGN KYOTO ／ DESIGN WEEK KYOTO 62
大正・港・西淀川オープンファクトリー 64
大阪 靴と皮革の祭典 O-Round（オーラウンド） 66
FactorISM 68
泉州オープンファクトリー 70
不器用 FACTORY 72
みせるばやお 74
ワークワクワク河内長野 76
だいとうオープンファクトリー　CONTACT 78
こーばへ行こう！ 80
開工神戸 -KOBE OPEN FACTORY- 82
CRAFT VILLAGE 84
SG ストリート NARA 86
和歌山ものづくり文化祭 88
黒江るるる 90
つやまエリアオープンファクトリー 92
瀬戸内ファクトリービュー 94
えひめさんさん物語 96
オープンファクトリー　CRASSO 98
NEXTRAD 100

II . その他 各地の取組について 103
～職人探訪～十日町きもの GOTTAKU、OSAKA 町工場 EXPO

III .「Local X Forum」開催結果 106

IV .「知見融合会議」開催結果 110

V . 集積のあり方の多様化 111

I. 全国の地域一体型オープンファクトリー MAP

北海道
Meet up Furniture Asahikawa (あさひかわデザインウィーク)
北海道旭川市、 東川町、 東神楽町、 当麻町、 美瑛町
五泉ニットフェス
新潟県五泉市
燕三条 工場の祭典
新潟県三条市、 燕市
かぬまオープンファクトリー
栃木県鹿沼市
彩の国オープンファクトリー
埼玉県さいたま市、入間市、久喜市、
加須市、川越市、狭山市、草加市、
秩父市、坂戸市、本庄市
遠野しごと展
岩手県遠野市
東北
ニラサキ
オープンファクトリー
山梨県韮崎市
OPEN FACTORY
KORIYAMA
福島県郡山市
やまなし
Jewelry Week
山梨県甲府市
すかがわ TEC ツアーズ
福島県須賀川市
ハタオリマチのハタ印
山梨県富士吉田市、 西桂町
ファクハク 静岡工場博覧会
静岡県静岡市
市場街（高岡クラフト市場街）
富山県高岡市
共生 Shizuoka Craft Week
静岡県内
スミファすみだファクトリーめぐり
東京都墨田区
台東モノマチ
東京都台東区
浅草エーラウンド
東京都台東区
かつしかライブファクトリー
東京都葛飾区
GEMBA モノヅクリエキスポ
石川県小松市
あやせ工場オープンファクトリー
神奈川県綾瀬市
中部
おおたオープンファクトリー
東京都大田区
関の工場参観日
岐阜県関市
関東

TIMELINE - 全国の地域一体型オープンファクトリータイムライン表 -

本タイムラインは、2023 年度の開催日に基づいて作成（2023 年度に開催していない場合は、直近の開催日を記載）。年により開催時期が変更となる可能性がある。

2023

開催月	都道府県	イベント名	2023 年度開催日
4月	愛　媛	えひめさんさん物語	4/20-11/24 (※2019 年開催)
5月	東　京	台東モノマチ	5/26-28
6月	奈　良	SG ストリート NARA	6/12 (※2021 年開催)
	北海道	Meet up Furniture Asahikawa（あさひかわデザインウィーク）	6/21-25
7月	神奈川	あやせ工場オープンファクトリー	7/22, 29（吉岡・早川・さがみ野・小園）
	岡　山	つやまエリアオープンファクトリー	7/21-22
8月	山　梨	ニラサキオープンファクトリー	8/18-22
	福　井	千年未来工藝祭	8/26-27
	京　都	DESIGN KYOTO/DESIGN WEEK KYOTO	8/27-9/3
9月	神奈川	あやせ工場オープンファクトリー	9/2, 9（上土棚・与蔵山下・綾瀬工業団地）
	山　形	360°よねざわオープンファクトリー	9/15-16
	富　山	市場街（高岡クラフト市場街）	9/16-18
10月	福　井	RENEW	10/6-8
	東　京	浅草エーラウンド	10/20-22
	山　梨	ハタオリマチのハタ印	10/21-22
	新　潟	燕三条 工場の祭典	10/26-29
	大　阪	FactorISM	10/26-29, 11/2-4
	東　京	かつしかライブファクトリー	10/28
	愛知・岐阜	ひつじサミット尾州	10/28-29
	三　重	こもガク	10/28-29
11月	石　川	GEMBA モノヅクリエキスポ	11/2-5
	広　島	瀬戸内ファクトリービュー	11/2-3 (※2019 年開催)
	大　阪	だいとうオープンファクトリー　CONTACT	11/3
	山　梨	やまなし Jewelry Week	11/3-12
	大　阪	大阪 靴と皮革の祭典 O-Round（オーラウンド）	11/4-5

2024

11月

大　阪	不器用 FACTORY	11/4-5
和歌山	黒江るるる	11/5
栃　木	かぬまオープンファクトリー	11/10-11
埼　玉	彩の国オープンファクトリー	11/10-11
大　阪	大正・港・西淀川オープンファクトリー	11/10-11
大　阪	こーばへ行こう！	11/10-11, 11/17-18
兵　庫	CRAFT VILLAGE	11/11-12
福　島	すかがわ TEC ツアーズ	11/15, 22
岐　阜	関の工場参観日	11/16-18
大　阪	泉州オープンファクトリー	11/16-19
静　岡	ファクハク 静岡工場博覧会	11/17-19
佐　賀	NEXTRAD	11/17-18
岩　手	遠野しごと展	11/18-19
福　島	OPEN FACTORY KORIYAMA	11/18
東　京	スミファ すみだファクトリーめぐり	11/18-19(※2022 年実績)
新　潟	五泉ニットフェス	11/18-19
大　阪	ワークワクワク河内長野	11/22-24
香　川	オープンファクトリー CRASSO	11/23-25
東　京	おおたオープンファクトリー	11/25
静　岡	共生 Shizuoka Craft Week	11/25-26

12月

和歌山	和歌山ものづくり文化祭	12/2-3

1月

兵　庫	開工神戸－KOBE OPEN FACTORY－	1/12-13

2月

大　阪	不器用 FACTORY	2/3, 10, 17（現地）

3月

大　阪	みせるばやお	常設

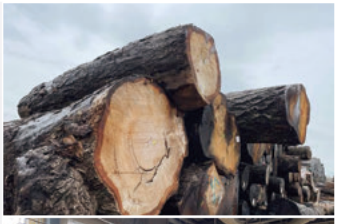
2015 年〜

北海道旭川市、東川町、東神楽町、当麻町、美瑛町

Meet up Furniture Asahikawa / 2022

ASAHIKAWA DESIGN WEEK

Meet up Furniture Asahikawa（あさひかわデザインウィーク）



CORE VALUE

家具に出会う。
産地で、会う。

EVENT DATA

開始年　：2015 年
開催回数：8 回
開催期間：例年 6 月中下旬
参加企業：20 社（2023 年）
来訪者数：約 8,900 人（2023 年）
主催　：旭川家具工業協同組合

FEATURES

新時代の産地展

2015 年に「旭川家具産地展」から名称を変更し「ASAHIKAWA DESIGN WEEK」としてリニューアル。「Meet up Furniture Asahikawa」は、2022 年から旭川市民へ向けて家具以外の地域の団体も参加するイベントへと発展をした「あさひかわデザインウィーク」とともに開催されるプログラムである。世界に誇る木製家具産地としての総合インフラをフル活用した「ものづくりの現場」を舞台に開催。家具やインテリアをキーワードに集う多くの方々と木製家具の未来を共創することを目的とした新時代の産地展である。2022 年は、オープンファクトリーや産地バスツアー等 7 つのコンテンツが実施された。

FUTURE

さらに満足度を高めるための企画へ

参加者のオープンファクトリーの満足度は高いものの、課題として、各社の見どころを見せることと、所要時間が長い点の 2 点がある。前者については、参加企業が同じ木工機械を使用しているので、見学の際に似たような印象を受けるという声も聞く。各社の見どころや特徴をうまく監修し、変化をつけながらコース作成等の企画をしていきたい。後者については、道外からの訪問者は 1 泊 2 日で来られることも多い。ショートコース等、短時間で満足度の高い内容を提供できるように企画していきたい。

INNOVATION

デザイナーとのネットワークから生まれる新たな繋がり

Meet up Furniture Asahikawa には、異業種が協働する「大雪の大切プロジェクト」が参加する。「大雪の大切プロジェクト」は、参加企業である（株）大雪木工が家具デザイナーである小泉誠氏やグラフィックデザイナー等と立ち上げた、モノづくりを続けるために大切なコトを探求し続けるプロジェクト（2015 年スタート）である。

こうしたプロジェクトの活動を続けながら、（株）大雪木工と小泉氏はゆるやかに連携してきており、他産地の異業種事業者との繋がりもできた。

実際、小泉氏のもと、カキモリ（東京・蔵前の文具店）や、坂爪スプリング製作所（新潟・三条の金属）と（株）大雪木工のコラボ商品が生まれている（今後販売予定）。また、Meet up Furniture Asahikawa 開催期間中は、小泉氏とコラボ商品を生み出した 3 社でライブセッションも実施した。（一部オンライン）

元々、旭川家具では、デザイナーを始めとする外部パートナーとの連携が多く、他地域との連携にもつながっている。その背景には、もともと 1990 年から旭川独自のデザインコンペを行っていたことがある。コンペに向けてコラボ製品をつくるなど、長年培われたデザイナーとのネットワークがあり、これは旭川家具の大きな強みでもある。「東京では会えない（会わない）人に、旭川では会える」という声も聞く。デザイナー同士でも互いに時間がなくて東京ではなかなか会えないが、旭川 (Meet up Furniture Asahikawa) に参加することで、ゆっくり話す時間を設けられる等、交流を深める機会になっている。

●事務局連絡先
旭川家具工業協同組合 事務局
〒 079-8412　北海道旭川市永山 2 条 10 丁目 1　35
TEL 0166-48-4135

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

SOMEYA NORIYOSHI
染谷 哲義 氏
株式会社カンディハウス
代表取締役社長
ADW（ASAHIKAWA DESIGN WEEK）
初代プロジェクトリーダー

1996 年 株式会社インテリアセンター（現 株式会社カンディハウス）に入社し、企画部長を経た後、2013 年に同社の取締役マーケティング本部長に就任。2016 年に取締役 企画本部長、2020 年 専務取締役 営業本部／企画本部 統括、2021 年 3 月に代表取締役社長に就任。2015 年にリニューアルを行なった「ASAHIKAWA DESIGN WEEK」プロジェクトチームの初代リーダーに就任し、積極的にイベントを推進した。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

藤田 哲也 氏
株式会社カンディハウス　代表取締役会長
旭川家具工業協同組合　理事長
あさひかわデザインウィーク実行委員会　副会長

1982 年に株式会社インテリアセンター入社。営業・販売業務を経験した後、1998 年株式会社カンディハウス横浜を起業。2007 年取締役営業本部長として同社復帰後、2013 年に代表取締役社長、2021 年に代表取締役会長に就任。旭川家具産地の成長と発展を目指し、ASAHIKAWA DESIGN WEEK 等を推進。旭川家具を通して地域の活性化に貢献している。

旭川家具工業協同組合
次の森を育てながら家具をつくるという想いのもと、41 社の組合員で活動する。活動内容は、共同展示場事業・共同購買事業・共同受注事業・共同物流事業等。

旭川家具
ASAHIKAWA DESIGN

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

2代目プロジェクトリーダー
佐々木 雄二郎 氏

Meet up Furniture Asahikawa リーダー
小助川 泰介 氏

あさひかわデザインウィーク担当
茂木 雅人 氏
旭川市

ともにあゆむ

OTHERS

北日本木材株式会社
高原 昌央 氏
旭川市にある木材会社として積極的にオープンファクトリーを実施。イベント期間中には業界関係者や市民向けに木材の製造過程を公開しており運営に協力。

合同会社ココ企画
（産地バスツアー企画）
以前から、木工への理解を深めながらキャンプを行うツアーを企画・開催。2022 年の産地バスツアー企画・運営に協力。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

2014 年までは「旭川家具産地展」として長年、プロユーザー向けに家具展を開催していた。旭川家具産地の価値をもっと高めていきたいという思いから生まれたのが「ASAHIKAWA DESIGN WEEK」である。イベント活性化の為、プロジェクトチームを発足させ、経営者以外の若い人もメンバーに入れるとともに、今まであったイベントを再編成した。こうして新しい視点や若い世代の意見を取り入れることにより、これまでの「旭川家具産地展」が進化した経緯がある。また、2019 年にユネスコ創造都市ネットワークのデザイン部門に旭川市が加盟してから2021年に「あさひかわデザインウィーク」としてイベントが発展をしている。

TOPICS

初開催！旭川木工技能競技大会

新しい核となるコンテンツをつくろうという考えから生まれたのが「旭川木工技能競技大会」。最終形態の家具製品にスポットが当たりがちだが、技術力が旭川家具の強みでもある。これまで製品のコンテストはあったが技術に注目する場がなかったため、技術者にもスポットを当てたいという想いから企画が生まれた。企画内容は限られた時間（1 時間）で課題に取り組み、木工技能を競うもの。予選から 30 名近くが参加、10 名が決勝戦進出。決勝戦は家族含め参加できるよう、Meet up Furniture の最終日である日曜日に開催した。今年初の取り組みであるが、とても盛り上がり、現場のモチベーションに繋がるなど可能性を感じている。

（写真）Meet up Furniture Asahikawa 当日の様子、旭川木工技能競技大会の様子等

2022 年〜

岩手県遠野市

遠野しごと展

遠野しごと展
TONO WORK GUIDE

CORE VALUE

遠野ではたらく、たのしく暮らす

EVENT DATA

開始年　：2022 年
開催回数：2 回
開催期間：例年 11 月頃／2 日間
参加企業：20 社、1 団体（2023 年）
来訪者数：約 510 人（2023 年）
主催　　：遠野市

FEATURES

遠野の「しごと」と「くらし」に出会う

製造業、保育・福祉、工務店、観光、農業など遠野で“求人中”の様々な企業が市役所に集まり、企業 PR のブース、ワークショップ、トークイベント等を通じて遠野の「しごと」を知ることができるイベント。

また、市民との交流を目的としたまちなか散策ツアーなど遠野の「くらし」も知ることができ、求職者だけでなく、子どもから高校生、市民や市外の方、誰もが楽しめる内容となっている。

2023 年は、イベントとは別日程で、地元の中高生、求職者、一般の方を対象に、各企業が事業所や工場を開放し、自社の魅力を発信する企業見学バスツアーを開催した。

FUTURE

企業が互いに成長できる場へ

遠野しごと展は、オープンファクトリーの要素を取り入れた、採用・人材育成の課題解決に向けたプロジェクト。

遠野は 25,000 人の小さな町。地域企業全体のスキルアップやマインドの向上に繋がるよう、研修や全体プロモーションに今後も力を入れて取り組む。

遠野で働く一人一人が、仕事に向き合い「働くこと」について考え、地域企業が互いに学びあい、高めあい、成長できる場になることを目指す。

将来的には、採用・人材育成の課題解決だけでなく、遠野しごと展をきっかけに、地元企業によるまちづくりや地域活性化の活動への広がりが期待される。

●事務局連絡先
株式会社富川屋
〒 028-0523　岩手県遠野市中央通り 10-1
info@tomikawaya.com
https://www.tomikawaya.com/

INNOVATION

若手人材の成長・シビックプライドの醸成へ

遠野しごと展開催に向けて、計 4 回の研修を開催。各社から若手を中心に 3〜5 人ずつが参加した。参加企業が集合して研修を開催することで、他社がどこをターゲットに、何を PR しているか等、お互いに学び合う場とすることで、全体の底上げを目指した。

トークイベントにも企業の若手社員が出演し、ご当地芸人と掛け合いながら、自社のことを大勢の人前で話す経験を積んだ。

こうして、若手社員が前面に登場する場を設けることで、当初から目標とされていた「若手人材の成長」が大きな成果の 1 つとなっている。様々な気付きや、「やらなきゃ・変わらなければ」という気持ちを起こすためには、外的な圧力が必要となる。そのためクローズドな説明会ではなく“たくさんの人に対して説明する、その必要に迫られる舞台”を用意した。そこで得た経験・反省点が前向きな改善につながっている。

他の成果として、参加企業間で既に取引があるケースも多かったが、研修への参加や協業する中で、取引面以外でお互いをより深く知ることにもつながった。福利厚生など、互いの企業の良い取組を知り、社内に取り入れることを検討するなど互いに刺激し合っている。

イベントに参加した地域の方々からも、「遠野に誇りを持てた」「親が働いている企業がこんなにすごい企業だったんだ」「来年は孫を連れてくる」等の声が上がっており、シビックプライド醸成にも繋がっている。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

TOMIKAWA GAKU
富川　岳 氏
株式会社富川屋
代表
プロデューサー

1987 年、新潟県長岡市生まれ。都内の広告会社でプロデューサーとして勤務した後、2016 年に岩手県遠野市に移住。文化・観光を中心に様々なプロデュースを手掛け、2018 年には岩手 ADC グランプリを受賞。現在はアーティストやクリエイターと共に創作活動に力を入れ、土地の文化をアップデートした新たなカルチャーを生み出している。遠野市観光協会理事。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

田仲　美季 氏
株式会社富川屋　ディレクター
2021 年に岩手県遠野市に移住。遠野しごと展では主にメインディレクターとして活動。参加企業向け研修の担当も行う。

宮本　拓海 氏
株式会社富川屋　ディレクター
岩手県奥州市出身。ディレクター、ライターとして活動。遠野しごと展では広報・映像制作を担当。

小田切　大輝 氏
株式会社富川屋　ディレクター
2020 年に岩手県遠野市に移住。遠野しごと展ではディレクターとして主にイベント、ツアー企画を担当。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

・デザイン担当

合同会社グラムス
デザイナー
山内　稜平 氏

のはら
デザイナー
阿部　拓也 氏

・主催　遠野市産業部商工労働課

ともにあゆむ

OTHERS

参加企業・団体

SMC（株）
（有）オーパーツ
（株）オーレックス
（株）クライン
賛光精機（株）
（株）立石工務店
筑波ダイカスト工業（株）
社会福祉法人遠野市保育協会
社会福祉法人とおの松寿会
（株）遠野ふるさと商社
丸順工務店（有）
農事組合法人宮守川上流生産組合
（株）ワイ・デー・ケー
（株）栄組
河本化成工業（株）
（株）鈴陶
遠野市役所
で・くらす遠野
日東ユメックス（株）
（株）丸山製作所
介護老人保健施設やまゆりの里

TRIGGER & STORY
誕生秘話

遠野市内の企業で「人材不足」が大きな課題となっており、市の担当者が「FactorISM」統括プロデューサー松尾氏の講演を聞き、「企業が主体的に会社の魅力を発信できる場をつくりたい」という思いから、オープンファクトリーの要素を取り入れた採用・人材育成課題解決に向けたプロジェクト「遠野しごと展」が動き出した。

企業の募集時は、「企業の皆さんに参加いただけるかが、一番心配だった」と振り返る富川氏。企業に直接説明して回り、企業自ら魅力を発信することの大切さに賛同した１９社の企業・団体（2022 年）が集まった。

開催当日まで、研修等を通じて自社を見つめ直すことに多くの時間をかけ、若手社員の成長に全力を注いだ。そして、まちを挙げて発信力と集客力のあるイベントを開催することで、市内企業の認知度向上から求職者の母数拡大を目指した。

TOPICS
文化やくらしを知って、遠野をもっと好きになる

遠野市は、柳田國男の『遠野物語』で知られる民話や 60 を超える郷土芸能など地域文化が残っている。近年では、ホップ栽培面積日本一という強みを活かし、ビールを軸に新たなまちづくりにも取り組んでいる。こうした遠野の魅力に惹かれ、移住者も多い。

遠野しごと展では、郷土芸能「しし踊り」のステージ、市民とジンギスカン（遠野のソウルフード）を食べながらの交流ランチ、地元の老舗菓子店などを巡るまちなか散策ツアーなどを開催し、遠野の「文化」や「くらし」を知ることができるのも大きな魅力の1つ。

さらに、移住促進や関係人口づくりにも力を入れており、仙台市内の大学生や東京圏に住む若者を対象に、出張版・遠野しごと展を開催。地元企業による仕事の話に加え、民話や郷土芸能、ビールの話など、カジュアルに遠野を知って、遠野のことを好きになってもらえる内容となっている。

（写真）上段・中段：遠野しごと展メインイベントの様子。下段：企業見学バスツアーの様子。

2023年～

山形県米沢市

360°よねざわオープンファクトリー

360°
Yonezawa Open Factory

CORE VALUE

米沢をひらく。

EVENT DATA

開始年　：2023年
開催回数：1回（2023年）
開催期間：毎年9月頃
参加企業：18社（2023年）
来訪者数：約2,400人（2023年）
主催　　：360°よねざわオープンファクトリー実行委員会

FEATURES

美盆地が育んだモノづくりの現場を360°満喫

「山々に囲まれた美盆地」であり、上杉家の城下町である米沢。街並みと、この土地で古くから育まれてきた伝統的なモノづくりの現場を360°余すことなく見学・体験して、自然・歴史・匠・食の全てを満喫できる地域一体型のオープンファクトリーを2023年に初開催。製品だけでなく、米沢という街そのものを知ってもらい「米沢ファン」を増やすべく、米沢織関係・発酵食品関係・大学・飲食店など、業種を超えた企業が輪となって米沢の魅力を発信するイベントとなっている。

FUTURE

みんながもっと好きになる「米沢」へ

当初の予想を上回る約2,400名が来訪した初開催の2023年を経て、来年以降はさらに業種を拡大し、様々なモノづくり企業に参画いただきながら継続開催を予定。2年目以降もぶれない軸として大切にしているのは、モノづくりに従事してる現場の人々が仕事と米沢の街をもっと誇れること。そして、その職人の想いが来場者にも伝わるような熱のあるイベントにすること。インナーブランディングが、職場環境の改善や若者取り込みに繋がるようにすること。また、新たなイノベーションの創出を目指して、多種多様な業種に参加してもらえるよう市内の仲間づくりと内容拡充に取り組み、街をあげての一大イベントを目指す。

●事務局連絡先
360°よねざわオープンファクトリー実行委員会事務局
〒992-0039　山形県米沢市門東町1-1-87 米沢繊維協議会内
TEL　0238　23　3525

INNOVATION

価値の再発見と可能性への期待

2023年は、初開催ということで何もかもが手探り、参加企業の中でも、初めての試みに慎重な姿勢のところもあり、当日までは不安な思いがあった。しかし、フタをあけて見れば、予想を上回る約2,400名もの来場があった。

「こんなところに見に来る人がいるはずない」「お客さんが喜ぶだろうか」と不安を感じていた現場の人間も、多くの人が訪れ、真剣な眼差しで説明を聞き、作業を見ながら驚いた表情を覗かせるのを見て、パッと明るくなり背筋が伸びた。従事者が自身の仕事の価値を再発見し、モチベーションが向上したと、参加企業の多くがインナーブランディング効果を感じている。

また、若者にモノづくりの現場に触れる機会を作りたいと、地元の高校などへの呼びかけのほか、学生向けのバスツアーや学生ボランティア起用を実施した。若者を巻き込むことで地域への愛着を育み、ひいてはそれが、地元での就職という選択に繋がることを期待する。

そして、最も大きな可能性を感じているのは、企業間交流によって生まれる相乗効果である。事前に行った参加企業間を巡るキャラバンや交流会で他社のアイデアに触れることで、お互いに刺激を受け、自社の取り組みに落とし込み、また新しい発想に繋がった。特に今まで交流がなかった異業種との交流から生まれる発想は、未知の可能性に溢れている。今後、継続していく中で生まれるだろうイノベーションの芽が育ちつつある。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

360°よねざわオープンファクトリー実行委員長
KONDO　TETSUO
近藤 哲夫　氏
近賢織物有限会社　代表取締役

京都での10年間の修行を経て、家業の近賢織物に入社。米沢繊維協議会の会長を務めながら、街の伝統産業の活性化を目指す。

企画担当
MIYAJIMA　HIROAKI
宮嶌 浩聡　氏
プラットヨネザワ株式会社　代表

米沢出身。海外、首都圏でのキャリアを経て2017年に米沢へUターン。2022年にまちづくり会社「プラットヨネザワ㈱」を創業し、観光を中心とした持続可能なまちづくりに従事。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

副実行委員長
鈴木 健太郎　氏
株式会社 nitorito

副実行委員長
小嶋 千夏　氏
株式会社小嶋総本店

副実行委員長
新田 真有美　氏
株式会社新田

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

クリエイティブ担当
青山 浩子　氏
株式会社トナリ
クリエイティブディレクター

SPECIAL THANKS

運営サポート
ボランティアの皆様
市民の方、地元学生さん

ともにあゆむ

OTHERS

米沢市産業部商工課

工業労政主査　**大沼 咲子 氏**
主事　**岩手 潤子 氏**

運営に関する様々な取り組みに対し、行政の立場でバックアップを行った

米沢商工会議所

参事　**髙橋 大輔 氏**
総務企画部　**後藤 ちひろ 氏**

市内産業高校や企業へのイベント周知、大学生向けバスツアーの実施で集客に貢献

TRIGGER & STORY

誕生秘話

上杉家ゆかりの城下町・米沢は、山々に囲まれ、豊かな水と美味しい食材に恵まれた歴史と伝統文化が根付く街であり、米沢織などに代表されるモノづくりも盛んに行われている地域である。そんな米沢のモノづくりの素晴らしさを街の魅力のひとつとして伝えたい。その想いを具現化する手段が、オープンファクトリーである。東北地方で実施している事例は少ないが、モノづくりの現場を見てもらってこそ、作られるモノの価値を伝えることができる。まさに求めていたものだった。もちろん、初の試みに慎重な企業もあったが、中心メンバーの熱意が伝わり、最終的には18社もの企業の参加が叶い、山形県内初のオープンファクトリーの実現となった。

TOPICS

360°楽しむオープンファクトリー

◆360°その1：「楽」

米沢織を使ったブローチ作り、ティーマット作り、がま口作り、リース作り、紅花染め体験、織り体験などバラエティに富んだワークショップを各社で開催。参加者は、モノづくりを見るだけでなく、体験してその楽しさを実感することができる。

◆360°その2：「知」

2023年は、期間中にトークイベントも開催。外部の作り手やアーティストとのクロストークで、360°あらゆる視点でモノづくりを考える知的満足度を満たす催しとなった。

◆360°その3：「食」

発酵・醸造企業による利き酒や味噌の食べ比べ、蔵めぐりなど食を楽しめる内容が充実。また、参加飲食店がオープンファクトリーのために考案したオリジナルメニューでオープンファクトリーを盛り上げた。

2022 年～

福島県郡山市

OPEN FACTORY KORIYAMA

CORE VALUE

「結～ゆい」ものづくりでつながる輪

EVENT DATA

開始年　：2022 年
開催回数：計 2 回
開催期間：8 月上旬、10 月上旬、11 月中旬（本開催）
参加企業：10 社
来訪者数：約 836 名
※オープンファクトリー以外も含めたイベント全体での人数
主催　：オープンファクトリー KORIYAMA 実行委員会

FEATURES

年間を通してオープンファクトリー関連のイベントを展開

昨年度福島県で初めてオープンファクトリーを実施した。福島県郡山地域の町工場が集まり、普段は見せることのできない工場を公開する「工場見学」や各社ならではの「ものづくり体験」を提供する。11 月の本開催のほかに、「町工場と自由研究をしよう」と題して夏休みに小学生向けのワークショップを実施したり、地域の高校生を受け入れ、工場見学等を実施した。

FUTURE

節目の３回目の開催に向けて

オープンファクトリーの実行委員会を立ち上げた時に、「とりあえず３年間活動してやってみよう」とはじまったわけだが、来年度が節目の３回目の年となる。本年度は、新しい企業が参加したり、こおりやま産業博というイベントに実行委員会でブース出展をしたり、郡山駅前で展示会やワークショップを企画するなど精力的に活動できた。「参加する企業がそれぞれにビジョンを持ち、オープンファクトリーを通してそのビジョンを実現する」という目的はぶれずに継続して活動していきたい。

反省点として、企画数が多かった分、それぞれの企画の内容を深めて詰めていく作業が足りていなかった点や広報不足で当日の集客が少なかった点などがあげられるため改善していきたい。

●事務局連絡先
オープンファクトリー KORIYAMA 実行委員会　事務局
〒 963-0115
福島県郡山市南二丁目 52 番地（公益財団法人郡山テクノポリス推進機構内）
●問い合わせ先　郡山市産業創出課（TEL 024-924-2271）

INNOVATION

参加企業の意識の変化

昨年度は、オープンファクトリーを開催することが一番の目標であったため、そこに全力を注いできたが、今年は開催するための準備の中で自社の技術を魅せるための新たな製品やオブジェを制作した企業もあった。ただ、展示をする際に詳細な説明や解説のカードなどを設置しなかったため、お客様に製品を通して上手く技術力を伝えることができていなかったところがあったが、ほかの参加企業が「このように PR したほうが技術力が伝わるのでは」と提案する場面もあり、参加企業の意識の変化や参加企業同士の良い関係性を多く感じることができた。

また、これまで社長が 1 人でオープンファクトリーの活動に参加していた企業が、社員を巻き込み、当日の工場見学やワークショップの運営等をすべて任せたり、社員から新たなワークショップの提案をするなど、企業内部の変革があった企業も出てきている。

学生との連携

本年度も学校法人国際総合学園 FSC カレッジリーグ国際ビジネス公務員大学校の学生と連携を図り、昨年度一緒に活動してくれた 2 年生に 1 年生が加わり、総勢 19 名の学生たちとオープンファクトリーの活動を共にした。各社の工場訪問から始まり、様々な企画のアイデア出しや各種イベントの運営など協力的に活動してくれた。2 年生は今年で卒業してしまうが、卒業後も様々な形でオープンファクトリーの活動に参加してもらいたい。

「郡山駅西口駅前広場での製品展示・WS の様子」

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

WATANABE TAKUMI
渡辺 拓美 氏
日ノ出工機株式会社　代表取締役
OPEN FACTORY KORIYAMA
実行委員長

2019年日ノ出工機入社。それまで自身が持っていた町工場へのイメージが変わる機会・人・仲間に出会い、そのすべてを多くのひとに伝える場所を作るため、2022年に「OPEN FACTORY KORIYAMA」を立ち上げる。これからも郡山を中心に、ものづくりのおもしろさや町工場の力を広く発信し、郡山産業の新しい時代を共創することに尽力する。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

副実行委員長
黒田 容 氏
株式会社羽田工業所　代表取締役

副実行委員長
横山 竣平氏 氏
株式会社横山鋼業　専務

プロデューサー
高橋 学 氏
マナブデザイン株式会社
代表取締役 / プロデューサー / デザイナー

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

参加企業
参加企業全社が実行委員として企画・運営を行った。

パートナー
郡山市産業創出課
郡山地域テクノポリス推進機構

実行委員会の様子

ともにあゆむ

OTHERS

学校法人国際総合学園
FSG カレッジリーグ
国際ビジネス公務員大学校
（JO-BI）

本開催の会場設営やJO-BIブースの運営はもちろんのこと、参加企業のワークショップのサポートやSNS等での情報発信、本開催終了後の清掃活動などJO-BIの学生の皆さんには様々な面で協力していただいた。

TRIGGER & STORY
誕生秘話

実行委員長である渡辺氏は、日ノ出工機株式会社に入社前は、製造業に対してややマイナスイメージを持っていた。同社に入社し、「郡山テックブートキャンプ」で自社製品を作ったことをきっかけに、自分が欲しいモノを形に出来る技術が自社にあることを実感し、仕事への熱量が高まりつつあった。ちょうどその頃、テックブートキャンプに参加した数社で燕三条工場の祭典を視察することとなった。工場の祭典に参加する企業が純粋にかっこよく、大きく感化され、社内外でPRする機会がほしいと考えた。共に視察したメンバーも同様に皆大きく感化され、企画が立ち上がった。

TOPICS
EXPO 酒場郡山店の開催

2025年に開催される大阪万博を支援する団体demo!expo様との連携を図り、demo!expo様の企画の1つであるEXPO酒場を郡山店として開催した。

参加企業の横山鋼業の第一工場を会場とし、参加企業や関係者、多くのゲストの方々にお越しいただいた。当日は、鉄板の溶断による演出の開店宣言から始まり、バンドによる生演奏やゲストの方のトークセッション、レジェンドトークと題した郡山のものづくりの歴史を知る方々が参加したトークセッションなど工場内は盛り上がりを見せた。

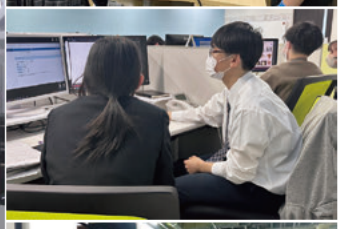
2025年の大阪万博に向け、製品開発等の活動を活性化させ、何らかの形で万博に絡んでいきたい。

（写真）工場見学・ワークショップ体験の様子等

2023 年～

福島県須賀川市

すかがわ TEC ツアーズ



CORE VALUE

「すかがわ」が好きな すべての人と企業へ

EVENT DATA

開始年　：2023 年
開催回数：1 回
開催期間：11 月頃
参加企業：15 社（2023 年）
来訪者数：約 500 人（2023 年）
主催　　：すかがわ TEC ツアーズ実行委員会

FEATURES

須賀川をもっと好きになってもらいたい

すかがわ TEC ツアーズは、須賀川市の地元企業が市と連携し、「企業」が主体的に「コミュニケーション」の起点となり、「一人でも多くの人や企業がつながり、須賀川がもっと元気になってほしい」という想いが込められたオープンファクトリー。

食品、通信機械、電子機器、化学、プラスチック加工、段ボール、精密機械、IT、金属加工、農業、飲食と幅広い業種の 15 企業が参画。

初開催の 2023 年度は、「須賀川に誇りを持ち、須賀川をとにかく好きになってもらいたい」と、地元の 3 校の高校生約 500 人を対象に、現場見学バスツアーを実施。見学に加え、段ボールの筆箱づくり、腕時計の組み立て、米粉麺の試食、ごぼうの調理など、多様な業種だからこそできる様々な体験を通して、須賀川のものづくりの魅力を発信。

FUTURE

「人と人」「人と企業」「企業と企業」をつなぐ

2024 年度以降は、参画企業を増やすことも視野に入れつつ、対象を学生に限定せず、地域、そして全国へ、「コミュニケーションの輪」の拡大を目指し、次なるチャレンジを構想中。

企業が点在しているという立地的なハードルを乗り越え、地域活性化に向けて地元企業が共創する仕組みをつくり、「毎年、新たなチャレンジを取り入れていきたい」と意気込む。

将来的には、地域とともに「すかがわの未来」を創造すべく、「人と人」「人と企業」「企業と企業」をつなぐオープンファクトリーに成長させていきたい。

●事務局連絡先
須賀川市商工課（すかがわ TEC ツアーズ実行委員会事務局）
〒 962-8601　福島県須賀川市八幡町 135 番地
TEL 0248-88-9142

INNOVATION

イノベーションの源泉は「仲間との信頼」

すかがわ TEC ツアーズは、市の公募で集結した 15 の企業が、実行委員会に参画し、運営チーム、広報チーム、デザインチームを編成。実行委員会は、「まずはやってみよう」、「予算がないなら工夫しよう」と前向きな言葉が飛び交い、楽しい雰囲気に包まれている。開催に向け、議論を繰り返しながら、各社のリソース、技術、ノウハウをフル活用し、様々な企画に取り組んできた。

ロゴ、HP、企業 PR の冊子の作成には、参加の印刷会社や IT 企業が中心となって取り組んだ。また、高校生への企業紹介の活動として、高校を訪問してのプレゼンテーションや各社で自社 PR 動画を作成。さらに、企業の日常の様子も届けたいと、各社リレー形式での Instagram 配信や、当日の様子もタイムリーに投稿するなど、参画企業が主体的に企画・運営を行っている。今後は、参加企業間で突撃取材を行い、他社紹介の発信を行うという企画もスタートする予定。

「すかがわ TEC ツアーズの強みは『参画企業の結束』。やるときにはしっかりやる、素晴らしい企業ばかり。実行委員会を開催するたびに、信頼関係が育まれていった。お互いを知らなかった企業同士で 1 つのことを一緒に成し遂げたのは大きな成果。」と神田実行委員長は語る。

オープンにすることで生まれた変化

参画企業の社員にも変化が生まれた。「ここ掃除しておいた方がいいですかね」、「学生にはこれを見せた方がわかりやすいですかね」など普段静かな社内で自然と会話が生まれるように。また開催後も「意外と面白かった」、「すごいって言われて嬉しかった」と、社員のモチベーションに繋がった。

オープンファクトリーが、社内の雰囲気の向上、働くことへの誇りややりがいを得られる機会となり、小さいかもしれないが、現場の社員や職人たちに良い変化が生まれ始めている。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

すかがわ TEC ツアーズ実行委員長

KANDA　MASAHIKO

神田 雅彦 氏

神田産業株式会社　代表取締役

1960 年生まれ

1981 年神田産業株式会社に入社

1997 年代表取締役に就任

地域の皆さまに育てられた経験から、これからの地域の発展や地域の在り方を模索中

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

副実行委員長

樽川　千香子　氏

アルファ電子株式会社　代表取締役社長

1980 年須賀川生まれ。2015 年に家業である同社に入社。2023 年に三代目社長に就任。須賀川の地域資源を活用した事業への取り組みもスタートしている。

会計担当

細井　潤　氏

株式会社クラフト　代表取締役社長

関東の IT ベンダー勤務を経て、2005 年 10 月にソフトウェア開発を主業とする株式会社クラフトに入社。2020 年 7 月に同社代表取締役社長に就任。須賀川市に会社がある意義を考えながら、人財採用活動に注力する。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

すかがわ TEC ツアーズ実行委員

岩通マニュファクチャリング株式会社
エスケー電子工業株式会社
大内新興化学工業株式会社　須賀川工場
笠原工業株式会社
株式会社吉城光科学
東京工装株式会社　福島工場
トキワ印刷株式会社
林精器製造株式会社
株式会社福島タネセンター
株式会社プラスふぁーむ
武蔵野精機株式会社
和田装備株式会社

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

すかがわ TEC ツアーズ実行委員会事務局

須賀川市経済環境部商工課
公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構
須賀川商工会議所

TRIGGER & STORY

誕生秘話

須賀川市の企業の課題として「人材確保が困難」という声が多く、市では「雇用の確保」を目的に、若年層へ企業の知名度を上げるためオープンファクトリーの実施を検討。

一方で、企業側としても、地域の人口減少が進む中で、地元に魅力ある企業があることを地域の人に知ってもらう機会を模索していたところ、東京都墨田区「スミファ」浜野実行委員長の講演（市主催）に気づきを得て、オープンファクトリーが課題解決の手段となり得ると実感。

このような経緯から「すかがわ TEC ツアーズ」は誕生し、行政と企業の共通の問題意識のもと、「官」と「民」がこれまでにない近い距離感で連携し、取組が推進していく。

※ TEC には Technology、Ecology、Energy、Company などの意味が込められている。

TOPICS

やればできる！自分たちでつくった企業 PR 動画

オープンファクトリー当日を迎えるまでに、限られた予算の中で、何ができるか議論の末、各社で動画編集アプリを活用し、企業 PR 動画を作成。

会社の歴史、事業紹介、若手社員等の生声を盛り込んだ内容や、ドローン撮影など各社で工夫を凝らした個性溢れる動画が完成した。中には、再生回数が 1,000 回に迫る動画や社内 YouTuber が誕生した企業も（笑）。

実は、各社、これまで動画作成の経験がなく、実行委員会では戸惑いの雰囲気が・・・。そこで参画している IT 企業が動画編集の講師となり講習会を実施することに。その結果、個性溢れる動画が無事完成。メンバーの力を合わせれば、やればできるというマインドが醸成され、動画作成を契機に、すがかわ TEC ツアーズのメンバー間の結束力が高まった。

公式 Instagram　公式 YouTube　公式 HP

（写真）工場見学やワークショップの様子

2018 年～

栃木県鹿沼市

かぬまオープンファクトリー

CORE VALUE

来て見て感動！
技術と伝統 新発見！

EVENT DATA

開始年　：2018 年
開催回数：3 回
開催期間：11 月頃
参加企業：30 社（2023 年）
来訪者数：約 500 ～ 600 人
主催　　：かぬまオープンファクトリー実行委員会
　　鹿沼商工会議所

FEATURES

日光の歴史深い職人の技に触れる

江戸時代、徳川家康を祀る東照宮の造営にあたり、良質な木材資材のある鹿沼に、全国の腕利き宮大工が集まり宿場町として栄え、今なお家具や製材など「木工の町」と知られる。その特性を活かし、工場をはじめとする製造業の現場を開放するイベントを実施。普段見ることのできない職人技やクラフトマンシップに触れられる他、製作体験やワークショップを行い、地元の子どもたちを中心に、優れた職人技やものづくりの楽しさを体感しながら知ることができ、鹿沼のモノづくりへの愛着と誇りを育むことが狙いとなっている。

FUTURE

オープンファクトリーの魅力のさらなる共有

新型コロナウイルス感染症の影響が長引くなか、約 4 年ぶりに、第 3 回目となる、かぬまオープンファクトリーを開催することが出来た。かぬまオープンファクトリーを定着させ、オープンファクトリーの表に出てこない効果を一つひとつ丁寧に拾いながら、今後参加する企業、継続参加する企業に届けながら、参加企業を増やし、人があふれるオープンファクトリーとしていきたい。

INNOVATION

作り手たちの意識が変わる

オープンファクトリーを進める側が楽しみながら取り組むこと、そのことを大切に、かぬまオープンファクトリーは展開されている。工場にお客さんが来ることで高まる従業員のモチベーション。従業員もより深く考えるようになり、日頃から 5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）を心がけ、工場が綺麗になったという声も多く聞かれるようになった。

木工、金属加工、園芸の協業が生んだ新ブランド

オープンファクトリーを通じて知り合った会社同士での新たな受発注も拡がるとともに、鹿沼独自の産業の技術力を結集し、鹿沼らしさを伝える新ブランドとして世にでる商品も生まれている。

鹿沼市の基幹産業である木工、金属加工、園芸がコラボレーションしたリラクゼーションブランド「KINOMA」。KINOMA プロジェクトチームを構成するのは、木製品製造メーカーの星野工業株式会社と有限会社前田額縁店、機械製造金属加工の株式会社マルイテクノ、皐月盆栽を扱う楽樹園。プロデュースを担う有限会社セメントプロデュースデザインが加わり、新たなライフスタイルを提案する商品として、2022 年 10 月にお披露目された。

受賞アワード

2019 年度「全国商工会議所きらり輝き観光振興大賞」奨励賞　受賞

●事務局連絡先
かぬまオープンファクトリー実行委員会（鹿沼商工会議所内）

〒 322-0027 栃木県鹿沼市睦町 287-16
TEL 0289-65-1111

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

かぬまオープンファクトリー実行委員長
HOSHINO EIICHI
星野 詠一 氏
星野工業株式会社 代表取締役

1945 年に桶屋として創業以来、日本古来より親しまれ愛され続ける木製品を一筋に作る木工メーカーの３代目。かぬまオープンファクトリーのネットワークの中心。

MIZUKOSHI KEIGO
水越 啓悟 氏
鹿沼商工会議所 経営支援課 課長

携わる地元の皆様を第一に考えたうえで、東京から 100㎞圏にある恵まれた立地を活かして、ものづくりの面白さ、楽しさを核とした鹿沼ならではのブランディングを進めます。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

ミツワ精機有限会社
吉田 純二 氏

株式会社山口製作所
山口 典孝 氏

有限会社前田額縁店
前田 裕之 氏

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

鈴木 陽介 氏
星野工業株式会社

板山 健 氏
ミツワ精機有限会社

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

鹿沼木工団地協同組合、栃木県木材業協同組合連合会鹿沼支部、鹿沼機械金属工業協同組合などの支援も得ており、オール鹿沼でものづくりのまちを PR します。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

きっかけは、鹿沼商工会議所による「産業観光」プロジェクトの検討。当初は工場を巡るモニターツアーが考えられたが、先進地である「おおたオープンファクトリー」を視察し、子どもたちが目を輝かせて参加する姿に感銘を受け、その可能性を感じた。オープンファクトリーや産業観光自体の理解を得るところからの準備期間は 4 ヶ月という短期間。商工会議所の事務局と連携し、星野氏を中心としたモノづくり企業の仲間の熱意が一気に昇華して実現した。

目的は各社それぞれである点も、かぬまスタイル。目的を一つに絞らず、幅をもたせたオープンファクトリーの狙いを説明し、初回から多くの企業の参加を得た。いわば、各社が描く夢のための土俵を提供しているのが「かぬまオープンファクトリー」である。

TOPICS

サイクルツーリズムなど、まちづくりとの連携

鹿沼商工会議所では、様々なまちづくり活動に取り組んでおり、オープンファクトリーとも組み合わされながら展開されている。地場産業を担う企業との連携によるサイクルスタンドの設置や、地元店の食べ歩きも楽しめる本格的なサイクリングマップの制作、また技能実習生向けにベトナム語版・英語版も発行した。オープンファクトリーとの連携が効果を発揮し、魅力向上や滞在時間の延長につながっている。

（写真）上段：異業種のコラボによって生まれた新ブランド「KINOMA」。
左・右中段：工場見学の様子。下段右：サイクリングツアーも企画に盛り込んだ。

2018年～

埼玉県さいたま市、入間市、久喜市、加須市、川越市、狭山市、草加市、秩父市、坂戸市、本庄市

彩の国オープンファクトリー

CORE VALUE

彩りいろいろ

EVENT DATA

開始年　：2018年
開催回数：計6回（2023年）
開催期間：11月
参加企業：約50社
来訪者数：約300名
主催　　：彩の国工業団地連携協議会

FEATURES

工業団地の多彩な交流と体験の促進

主催している「彩の国工業団地連携協議会」の工業会が自分の色を出して「彩の国オープンファクトリー」を形成するのが特徴。2023年のテーマ「交流」に沿って、オープンファクトリーの「相互訪問」を通じて、各工業会や賛助会員間の交流を促進した。賛助会員も実際に工業会のオープンファクトリーに出店するなど、有意義な交流の機会を提供した。

「岩槻工業団地事業協同組合として、今年で5回目となります、彩の国オープンファクトリー2023 i n岩槻を11月10日11日に【ふれて・かんじる】リアル工場見学と【みて・かんじる】リモート工場見学のふたつのテーマで開催しました。参加企業数は２７社（過去最多）、リアル見学の参加者は１５８人（金曜日８２人土曜日７６人）。リアル見学は１０日平日で企業向けの内容、１１日土曜日は「はたらく車大集合」と称して団地内で活躍する産業用の車を展示体験できる企画を開催し、子供向け・親子連れが多く参加してくださいました。リモート工場見学ではリポーター役を地元さいたま市内の中学生に体験してもらい、興味を持ってもらう工夫を実践しました。」（石倉氏）

FUTURE

若手リーダー主導の新たな展望と地域連携

新たに参画した工業会や賛助会員は、若手リーダーたちの思いによって実現した。彼らの力は、イベントだけでなく、地域や自社の魅力づくり、さらには人材の魅力向上にも繋がると期待されている。

「令和５年11月20日　彩の国オープンファクトリー2023 in 秩父が秩父宮記念市民会館けやきフォーラムにて開催されました。秩父機械電気工業会　石川浩会長の開会挨拶ののち　秩父市長　北堀 篤様よりご挨拶いただきビジネス交流会 スタートしました。今回の参加は16社＋1大学。各社展示ブース長机1机。約10分の自社紹介ＰＲタイムが設けられ、理化学研究所& VCADシステム研究会から始まり、各社のＰＲが行われました。途中、西武文理大学によるトークショー『中小企業に学生を呼び込むには』が行われ、参加企業の代表も参加し、『Z世代と持続可能な共存を目指して』との興味深く、勉強になる時間を過ごすことができました。予定の4時間をオーバーしてしまいましたが、各社、大変有意義な時間を過ごし懇親会へと移動しました。」（新井氏）

「『埼玉県を人材育成の観点から盛り上げたい』と思い、彩の国社会人インターンシップを開催しました。今回は20～30代若手リーダーを対象に『横の繋がり』を構築できる機会になったと思います。今後は更に自社の魅力を発見できる取組みにしていきたいです。」（安田氏）

INNOVATION

アートと産業の融合によるイノベーション

アートとデザインが地域や企業、人に加わることで生まれる付加価値の向上に注目し、特別講演や「さいたま国際芸術祭」とのコラボレーションを通じて、イノベーションの新たな道を開拓した。

「社会が成熟化し、モノが満ちあふれるようになった今日、差別化の源泉はアートにあると語る山口周氏。豊富な事例をもとに、圧倒的な説得力で基調講演を終えた。続くパネルディスカッションでは、アートの立場、ものづくりの立場を交え、答えのない問いに向かって対話が弾んだ。」（土田氏）

●事務局連絡先
彩の国工業団地連携協議会事務局
〒346-0028 埼玉県久喜市河原井町19番地
（（株）久喜菖蒲工業団地管理センター内 3階）
TEL 0480-48-7202

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

MATSUURA HIRONOBU
松浦 広展 氏
彩の国工業団地連携協議会
理事兼事務局長

日本も世界もオープンファクトリーを通して国際交流が始まりました。共通は地域・企業・人が輝くことです。
" 世界の仲間同士とオープンファクトリーを楽しみましょう "(^^ ♪

SATO　KEIKICHI
佐藤 恵吉 氏
彩の国オープンファクトリー　プロジェクトリーダー

自動車業界のプロマネ経験を活かしてコンセプトの立案からプランの推進まで担いました。「彩りいろいろ」なステークホルダーの足並みを揃えて進むためには、オープンファクトリーに適したプロマネ手法の確立が必要だと感じています

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

石田　嵩 氏
彩の国工業団地連携協議会　会長
（川越狭山工業会　顧問）

小澤　日出行 氏
彩の国工業団地連携協議会　副会長
（岩槻工業団地事業協同組合　理事長）

寺園　智樹 氏
彩の国工業団地連携協議会 副会長
（入間市工業会　会長）

石川 浩 氏
彩の国工業団地連携協議会　監事
（秩父機械電気工業会　会長）

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

石倉 啓安 氏
（株）イシクラ
専務取締役

新井 利幸 氏
（株）新井精密
代表取締役

土田 浩 氏
ぶぎん地域経済研究所

安田 光治 氏

小林 美穂 氏
狭山市ビジネスサーポート
センターSaya Biz　センター長

中谷 勇介 氏
西武文理大学
教授

濱地 雄平 氏
（株）Himawari
取締役

川上 和宏 氏
彩の国工業団地連携
協議会　顧問

佐藤さかえ 氏
彩の国工業団地連携
協議会　事務局

田邊 幸裕 氏
（株）Tabeo
代表取締役

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

岩槻工業団地事業協同組合
加須工業会
久喜市清久工業団地連絡協議会
(株)久喜菖蒲工業団地管理センター
東埼玉テクノポリス協同組合
吉野原工業団地連絡協議会
入間市工業会
川越東部工業会協同組合
川越狭山工業会
狭山工業団地工業会
秩父機械電気工業会
富士見工業団地工業会
児玉工業団地

（賛助会員（32 企業、2023 年 1 月時点））

R&C（株）
（株）井上鉄工所
大塚ウエルネスベンディング（株）
キリンビール（株）
コカ・コーラボトラーズジャパン（株）
五大工業（株）
（株）求人ジャーナル
（株）グロ　ナーズ
グルーバルゲート（株）
（株）サイサン
（社）埼玉県人材開発協会
埼玉縣信用金庫
（株）埼玉新聞社
（株）埼玉りそな銀行
（株）サイホー
（株）ジェイコム埼玉・東日本
（株）JTB
新日本輸送（株）
住協建設（株）
（株）全日警
第一生命保険（株）
大栄不動産（株）
（株）テレビ埼玉
TT彩たま（株）
東京ガス（株）
東京電力エナジーパートナー（株）
（株）日刊工業新聞社
日東商事（株）
日本生命保険相互会社
飯能信用金庫
東日本電信電話（株）
富士フイルムビジネスイノベーションジャパン（株）
（株）プリントワークス
マレリ（株）
（株）武蔵野銀行
明治安田生命保険相互会社大宮支社
リコージャパン（株）

TRIGGER & STORY
誕生秘話

埼玉県内の工業団地工業会や工業団地連絡協議会などを正会員とし、また多くの協賛企業を賛助会員として、彩の国工業団地連携協議会が 2016 年に設立。各工業団地が抱える「人材採用」「人材育成」「販路拡大」といった課題解決をミッションとし、連携協議会では工業団地間の活発な情報交換、セミナー、インターンシップ等のプログラムを展開。魅力ある工業団地づくりにも繋がるオープンファクトリーに注目し、「燕三条 工場の祭典」を視察、実行委員長を招くなどして、各工業会のやる気を高めていきながら、2018 年よりオープンファクトリーを開始した。

TOPICS
教育的役割と大学生の参加

オープンファクトリーは、学びの場としても重要な役割を担い、五感を通じて働く場を体験する機会を提供した。特に、大学生の参加は教育的な価値を高め、実践的な経験をもたらした。

「今回トークショーの企画運営に大学生が挑戦しました。若手経営者と大学生との対談でしたが、失敗を恐れずチャレンジさせていただき学生たちは大きく成長できました。教育の場としてのオープンファクトリーの魅力を大いに感じました。」（中谷氏）

（写真）岩槻工業会・秩父機械電気工業会・特別企画

2013 年〜

東京都台東区

浅草エーラウンド

CORE VALUE

浅草・奥浅草を回遊する革とモノづくりの祭典

EVENT DATA

開始年　：2013 年
開催回数：17 回
開催期間：春：5 月、秋：10 月、冬：12 月頃
参加企業：春・冬 10 店、秋 35 組（2022 年）
来訪者数：春 500 人、秋 3,000 人、冬 500 人（2022 年）
主催　　：エーラウンド実行委員会

FEATURES

150 年続く「革のまち浅草」を巡る

革のまちとしての浅草の意外な一面を楽しみながら知ってほしい、そんな想いから始まった浅草エーラウンド。春と冬は、ポップアップスタイルで、都立産業貿易センター台東館が会場の東京レザーフェアとの同時開催。

秋は、まちなかを巡る回遊型で、モノづくりだけでなく飲食店も加わり、奥浅草の魅力を発信する。そのベースは「革と靴」を軸に様々な産業の蓄積と、近世から続くエンターテインメントもモノづくりと捉えたエリアの文化力。普段は非公開の革靴づくりの現場を巡る工房見学、街の飲食店、小売店で展開されるワークショップやマーケット、まち歩き企画等、魅力満載のコンテンツで、モノづくりの DNA が息づく街の魅力を伝えている。

FUTURE

より深く、浅草のモノづくりを伝えていく

初回開催から 10 年が経過し、体験コンテンツであるワークショップも本格的なものへと進化しつつあり、その人気も高い。浅草エーラウンドも、より深く、質を重視したブランディングを目指していく。皮革業界では環境が変わり新たな業界や海外への転換が進みつつある。これからも浅草エーラウンドを通じて、素材や技術をベースにチャレンジしていける精神を育んでいければと思っている。

●事務局連絡先
エーラウンド実行委員会　事務局
〒 111-0032　東京都台東区浅草 6-20-6 聖天会館内
TEL 03-3873-6564

INNOVATION

革のモノづくりのための実験場「TOKYO L」

浅草エーラウンドを起点として、革のモノづくりの新たなチャレンジの場が生まれている。

革についての確かな技はあるものの、マーケットへのアクセスやデザインについてのノウハウが不足していた浅草地域。浅草エーラウンド実行委員会は、メーカー・職人と一線で活躍するデザイナーがコラボレーションし、革のデザイン・プロダクトを開発するプロジェクト「TOKYO L」をプロデュース。2014 年から現在までに、デザイン会社 h concept（アッシュコンセプト）や著名デザイナーとのコラボにより生まれた試作品は 30 を超えている。未来の浅草のイメージづくり、そして東京の革を素材とした実験的で実践的な、これからの皮革製品開発のためのプラットフォームとして機能している。また、皮革のモノづくり技術を分解して素材とともに伝える展示会「革の技術の因数分解 展 by TOKYO L」を外部との新たなアイデアと結びつけることを狙って開催するなど、発信とともに、外とのコラボレーションのきっかけが生まれている。

また、浅草エーラウンドをきっかけとして、オリジナル・ブランドを立ち上げたり、従来の革業界だけにとどまらず、自動車、家具・インテリアといった新しい業界に向けた用途につながるコラボレーションなど、地域の事業者の仕事の形も自然なかたちで変化を見せている。

ONE TEAM

企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

浅草エーラウンド 発起人代表

TOMITA TSUNEKAZU
富田 常一 氏
富田興業株式会社 代表取締役

浅草エーラウンドの立上げに向けて、2ヶ月という短期間のうちに、浅草エーラウンドに対する思いを伝えて歩き、発起人や100社近い出店者を集めた。

浅草エーラウンド 発起人

HONMA YASUYUKI
本間 康之 氏
浅草エーラウンド '21,'22 シーズンディレクター

発足当時から出店者をくまなくまわり、リレーションを取っている。そこで得られた信頼をベースに、プレイヤーの姿を職人目線でSNS発信している。

浅草エーラウンド 発起人

NAGASAKA MORIYASU
長坂 守康 氏
長坂染革株式会社 代表取締役

浅草エーラウンド発足当時、東京皮革青年会 会長として、浅草エーラウンドの実現に尽力。スタッフやボランティアの革製ネームタグも毎回作成。

浅草エーラウンド 発起人

IMAMURA HIROYUKI
今村 ひろゆき 氏
まちづくり会社ドラマチック 代表社員

立上げ当初から、浅草・奥浅草のまちづくりの観点からのアプローチにより、浅草エーラウンドに携わっている。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

事務局

聖天会館

幹事・進行管理・メインビジュアルアートワーク・広報担当、交流拠点「SNAP」を運営

株式会社クオーターバック

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

台東区
- 文化産業観光部 産業振興課
- 都市づくり部 公園課

経済産業省
- 製造産業局生活製品課

ボランティアの皆さん

TRIGGER & STORY
誕生秘話

一般には知られていない浅草のモノづくり。海外の革製品の流通が拡がるなか、エリアのブランド、作り手の熱量をきちんと伝えていこうと考えた。東京皮革青年会の90周年にあたる2013年、その記念事業として、浅草に強い想いを持つ仲間たちが発起人となり、浅草独自の靴や革といった産業の特徴を生かした独自のオープンファクトリーを展開すべく「エーラウンド」を発足。「A（エー）」には、浅草のA、アルチザン（職人）のA、アートのA、ＡＢＣのA（初心）という思いを込めた。

台東モノマチ、スミファなど、近隣で展開されていたオープンファクトリーの運営メンバーとの交流も大きな後押しになったという。

TOPICS
つながりをデザインする奥浅草の交流拠点「SNAP」

都心から奥浅草へとオフィス移転してきたクリエイター集団・（株）クオーターバックが2022年9月に開設したSNAP。「つながりをデザインする場所」をコンセプトに、元々倉庫だった空間をリノベーションして誕生した奥浅草の交流拠点。オープンファクトリー開催期間中は、ツーリスト・インフォメーションとして活用され、革小物などの展示・販売も行われた。

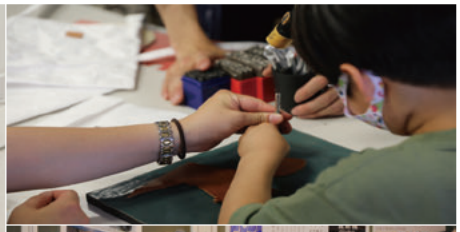
クリエイターからも注目を集める奥浅草のプレゼンス・アップを象徴する出来事の一つでもある。モノづくりにクリエイティブな感性が吹き込まれることで、新たな変化が生まれる期待も高まる。

（写真）上段：マーケットの様子。中段左：革でどうぶつをつくる人気のワークショップ。中段右：靴製作のワークショップ。下段：つながりをデザインする交流拠点「SNAP」。

2011 年〜

東京都台東区

台東モノマチ



CORE VALUE

モノづくりのマチづくり

EVENT DATA

開始年　：2011 年
開催回数：14 回（2023 年）
開催期間：5 月下旬
参加企業：116 店（2023 年）
来訪者数：約 6 万人（2023 年）
主催　　：台東モノづくりのマチづくり協会
（台東モノマチ協会）

FEATURES

モノづくりでマチづくりを

全国のオープンファクトリーの先駆け的存在である「台東モノマチ」。古くから財布やカバン、ファッション雑貨などの製造・卸の集積地として歴史をもつ東京の下町、台東区南部・御徒町〜蔵前（カチクラ）エリアを歩きながら「街」と「ものづくり」に触れられるイベントである。「台東モノづくりのマチづくり協会」が主催する代表的なイベントで、多くのモノづくり企業やショップ、職人、クリエイター、飲食店等が参加している。産業振興にとどまらず「モノづくりのマチづくり」をテーマに掲げていることも特徴。2km 四方のエリアを回遊してもらえる仕掛けとして考えたコラボ企画（複数の参加店を巡る体験ワークショップ）も好評で、毎回趣向を凝らした企画が展開されている。

FUTURE

モノマチが持続可能であるために

「モノづくりのマチづくり協会」では、オープンファクトリー開催時だけでなく年間を通しての情報発信の強化を目指し、一店一店、取材した参加店のルーツやモノづくりへのこだわりなど、より深い情報の発信をオウンドメディアで進めている。

またモノマチが持続していくために良い意味でのスリムな運営のあり方、そして次の世代への引き継いでいく世代交替を見据えた新しいオープンファクトリーのかたちを模索している。

INNOVATION

モノマチがマチを変えた

モノマチを通じて、マチに様々な変化が現れている。エリアの最大の魅力である、多くのクリエイターの存在もそのひとつ。モノづくりの町の魅力に惹かれて、工房を構えるデザイナーやクリエイターのアトリエが増加した。モノづくり企業との協業、クリエイター同士の交わりにより新しいブランドが生まれている。モノマチの波及がマチの変化を生み、その変化が、モノマチを変えていく。若い人が集まるマチへと変貌を遂げ、モノマチがあったからマチが変わったと言えるほど、モノマチは大きなインパクトをもたらしている。

企業とマチをアクティベートする「磁場」として

複数の参加店によるコラボ企画やクリエイターとの協業による商品開発、B to B 企業の B to C 事業への新たなチャレンジ等、モノマチを機に様々なコラボレーションが生まれている。ボタン加工のメーカーはモノマチでのお客様との接点やクリエイターや異業種との繋がりを機に、小売業を営みはじめた。パッケージや店舗内装などクリエイターが身近にいることが大きな推進力となったという。

モノマチの魅力は「モノマチは企業とまちをアクティベートする磁場」と捉えている。地域でモノづくりを営む人・店・企業を刺激し触発する、明日に向かってアクティベートしトランスフォーメーションを促す「磁場」となっている。

●事務局連絡先
台東モノづくりのマチづくり協会（台東モノマチ協会）

〒111-0056　東京都台東区小島 2-9-10
モノマチ公式サイト ：monomachi.com　email：info@monomachi.com

ONE TEAM

企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

モノマチ 2024 実行委員長
津久井 大輔 氏
株式会社コンポ

ビジュアルデザイン担当
進士 遙 氏
Haruka Shinji Illustration

台東モノづくりのマチづくり協会 副会長
佐藤 正裕 氏
株式会社リアライズ

台東モノづくりのマチづくり協会 副会長
片岡 清高 氏
有限会社ファッションメイト片岡

台東モノづくりのマチづくり協会 理事
大井谷 猛 氏
株式会社プラス

事務局
前島 昭美 氏

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

台東モノづくりの
マチづくり協会 会長

吉田 昌充 氏
株式会社ラモーダヨシダ

ライター・広報担当

三田村 蕗子 氏

広報担当

西澤 真由美 氏
やさしいガーゼ オブラブ

ともにあゆむ

OTHERS

台東デザイナーズビレッジ 村長 鈴木 淳 氏
台東区 産業振興課 地域産業担当の皆様
モノマチ参加店とボランティアの皆さん

TRIGGER & STORY

誕生秘話

「台東デザイナーズビレッジ」の鈴木村長が、モノづくりに関心がある消費者を呼び込み地域活性化を目指すイベントを構想。地元企業等に呼びかけ、2010 年にモノマチの前身となる「台東ファッションザッカエリア」を、翌年 5 月には佐竹商店街を舞台に初回「台東モノマチ」の開催に至った。第 5 回以降「台東モノづくりのマチづくり協会」を立ち上げ体制強化を図りつつ、参加店やボランティア、モノマチに共鳴する地域市民が中心となり、運営を行っている。

TOPICS

参加店の個性とまちを探検する楽しみ「モノマチ ZINE」

2022 年に発行した「モノマチ ZINE」は、参加店自らが原稿をつくり制作する。お店を巡り手にいれたページをファイリングすることで、参加者一人一人のオリジナルなガイドブックができあがる。内容もレイアウトも各参加店の個性が滲みだし人間味が感じられるのも意外な魅力になっている。

モノマチは、情報がわかりやすいところにないことで、却って宝探しのようなワクワク感が生まれ、マチを探検するような楽しみ方が魅力となっている。2024 年開催のモノマチでも、参加店を紹介するページの原稿を自らつくりガイドブックを製作する。

写真（中段左）モノマチマップ、（下段左）モノマチ ZINE。

Photo ©2022 taro hosokawa

2012 年〜

東京都墨田区

スミファ すみだファクトリーめぐり

CORE VALUE

いでよ、スミファのそこぢから
おいでよ、すみだのファクトリー

EVENT DATA

開始年　：2012 年
開催回数：11 回（2022 年）
開催期間：11 月中旬
参加企業：36 社（2022 年）
来訪者数：約 6,000 人（2022 年）
主催　　：スミファ実行委員会
※ 2023 年は休止

FEATURES

スミファという場で、それぞれの想いを実現

昔から住宅街や商店街の中に町工場が立ち並ぶ墨田区。まちを巡り、工場の職人と話し、技術に触れ、ものが作られていく " 現場 " を肌で感じることのできるイベント。2022 年は、2012 年の開催から 11 回目を迎え、2 年ぶりの現地開催。「底力」をテーマに工場見学、ツアー、ワークショップ、お買い物を楽しめる。PR 用のウェブサイトも楽しい現場感を連想させ、スタンプラリーも 2022 年は「かるた」で巡る楽しさを演出。来ていただいく方に楽しみながら墨田のものづくりを知っていただきたいのはもちろんだが、参加する工場に「学びの場」を提供することが大きな狙い。実行委員会は、スミファをそれぞれの工場の成長の機会と捉えて場づくりを進めている。

FUTURE

世界へ、未来へ、進化し続けるスミファ

より深い " 技 " の世界のコンテンツ化、地域のさまざまな団体やグループとの連携、インバウンド向けコンテンツの充実と平行し、「江戸から続く職人のまち」という地域の歴史と「現代」を融合させ、形にとらわれず進化していきたい。

INNOVATION

BtoBのツアー企画も。実感される参加企業の変化

「スミファ」の目玉の一つと言えるのがツアー企画。実行委員会がツアーを企画し参加企業を募り開催している。「すみだの達人とめぐる充実！満喫！発見！ツアー」「ものづくりは創造する人暮らしツアー」など、個性豊かなツアーコンダクターがディープな墨田のものづくりとそのベースにあるまちと人の魅力を伝える。

参加企業の PR につながる公開ツアー以外にもクローズドなツアーも開催。モノづくりの開発エンジニア、デザイナー、バイヤーが工場をめぐるもので、単なる秋祭り的なイベントではなく、本業につながる機会になればという思いから取り組んでいる。

さらに、この 10 年で参加企業の「変化」が強く実感されるという。運営側が立てる企画への協力だけでなく、参加企業自ら考える部分が増えている。これまで少なかった異業種のコミュニケーションの場を提供しているのが「スミファ」であり、他のオープンファクトリーと比較して、こぢんまりとした規模感がより密なコミュニケーションを生む土壌となっている。他の会社を覗きに行ったり、異業種で連携し商品を企画したり、本業でも加工のお願いをしたり、スミファ参加企業の間で次々と連携が生まれている。

●事務局連絡先
スミファ実行委員会事務局（墨田区産業振興課内）

〒 130-8640 東京都墨田区吾妻橋　丁目 23 番 20 号
TEL 03-5608-1437

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

HAMANO KEIICHI

浜野 慶一 氏

株式会社浜野製作所 代表取締役 CEO
スミファ実行委員会　実行委員長

1962 年東京都墨田区生まれ。大学卒業後、都内の精密板金加工メーカーに就職。1993 年株式会社浜野製作所代表取締役に就任。町工場が直面する量産加工の厳しい環境から脱却するため事業構造を見直し、自社の強みを活かした様々なプロジェクトに挑戦。産学官連携としての電気自動車「HOKUSAI」、深海探査艇「江戸っ子一号」、異業種連携としてアウトオブキッザニアによる工作教室、ベンチャー企業を支援する「Garage Sumida」とその取り組みは多岐に渡る。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

スミファ実行委員会

「スミファ」は、一般の方どなたでも墨田区の町工場を巡り、職人と会話し、その技術に触れ、ものが作られていく“現場”を肌で感じることのできるイベントです。
主役はもちろん、町工場で働く人たち！
ものづくりの多様な技術は、ジャパンメイドのブランドを”縁の下の力持ち”として支えています。
スミファは、そんな町工場の声に応えられるような”すてきな出会い”をつくります。あのときの出会いがあったから、今がある―。町工場の方にも、そして見に来てくださるお客様にもそう思っていただけるように、未来につながるキッカケを提供したいと考えています。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

第 11 回参加企業（50 音順）

- 吾嬬製作所
- 東屋、袋物博物館
- 石宏製作所
- 岩井金属金型製作所
- 小倉メリヤス製造所
- オレンジトーキョー（MERIKOTI）
- 片岡屏風店、屏風博物館
- カミカグ
- 慶文堂
- コトモノミチ
- サトウ化成
- サンコー
- サンワ
- 城東労働協会
- 島田商店
- 墨田革漉工業
- 大東印刷工業
- ちいさな硝子の本の博物館
- 地方独立行政法人 東京都立産業技術研究センター墨田支所
- T.M.Y' s
- DJ　Robotics
- 東商ゴム工業
- totokoko
- 東北紙業社
- NEORIGINAL
- 浜野製作所
- HIS-FACTORY
- 暇と梅爺
- ホリゾン
- マイスターズグリット
- 松山油脂
- 丸和繊維工業
- ミヨシ
- 望月印刷
- Round Table
- ワモノと雑貨キセカエ

TRIGGER & STORY

誕生秘話

2011 年におおたオープンファクトリー（大田区）とモノマチ（台東区）が相次いで始まり、墨田区役所から、モノづくり企業の若手後継者を中心とした一般社団法人配財プロジェクトに「墨田区でもやれないか？」と話があった。先行していたオープンファクトリーとの横の繋がりも元々あり、イベントの様子を見て、お客様も楽しそうで工場の方も生き生きしていたのを見て、やってみることに。当初は、工場の方は会議自体に慣れていない方も多かったが、始めてみると、自ら他地域のイベントに参加し、アイデアを出し、自分の身の丈にあわせて工夫をしながら積み重ねてきた。今では、多くの企業が PR 動画を自作するまでに。

TOPICS

「プレスミファ」や勉強会が生む学びと交流

スミファでは、「プレスミファ」として、参加企業向けの本番前の工場見学会の研修イベントを企画。目が肥えたお客さんにも満足してもらえるよう、自分自身が体験し、何を聞いたらわかりやすく、どういう見せ方をすればよいか、お客さんの見たいものを見せられるか、お客さんの関心をひくためにどういう準備が必要か、オープンファクトリーの魅力を高めるための実践知を学んでいただき交流する場となっている。

（写真）右中段：2022 年のスタンプラリーは「かるた」で遊ぶ。工場や同時開催イベントの会場を巡って、台紙（取り札）にスタンプを集めて素敵なプレゼントをゲット。読み札とセットにすれば、スミファのあとも楽しめる仕掛けに。

2012 年〜

東京都大田区

おおたオープンファクトリー

OTA OPEN FACTORY

CORE VALUE

大田の技に会いに行こう！

EVENT DATA

開始年　：2012 年
開催回数：13 回（2023 年）
開催期間：例年 11 月頃
参加企業：56 社（2023 年）
来訪者数：約 3,200 人（2023 年）
主催　　：おおたオープンファクトリー実行委員会

FEATURES

モノづくり、まちづくり、観光の連携イベント

小さな町工場の集積地である東京都大田区。機械金属加工を中心とした B to B の工場がその多くを占めている。おおたオープンファクトリーは、そうした町工場の中を一般向けに公開し、モノづくりの技術や職人と触れ合う見学・体験ができるイベントとして、2012 年にスタートした。運営は「おおたクリエイティブタウンセンター」、「大田観光協会」、「工和会協同組合」からなる産学官連携の実行委員会が中心に担い、モノづくり、まちづくり、観光の 3 本柱とする「おおたクリエイティブタウン構想」を実現するプロジェクトとして「おおたオープンファクトリー」（以下、OOF）が展開されている。

FUTURE

ファクトリップ｜FACTORY × TRIP｜

オープンファクトリーの次の展開として、工場見学の通年化、収益化、集客の広域化を目指し、日本屈指の技術力・ネットワークをもつ、モノづくりのまちで、子ども達に「学ぶ」「発見する」「探究する」を叶える様々なトリップを提供開始。①町工場で SDGs を学ぶツアー、②工場廃材を生かした工作体験 -SCRAP-、③モノづくりを教材とした探究学習プログラム、④モノづくり関連施設見学／ガイドツアーなど、小中高校生向けの教育旅行・教育プログラムの企画に挑戦している。

受賞アワード

2013 年　第 7 回「産業観光まちづくり大賞」 金賞受賞
2017 年　第 3 回 ジャパン・ツーリズム・アワード地域部門賞受賞
2018 年　第 4 回 ジャパン・ツーリズム・アワード地域部門賞受賞
2019 年　厚生労働省 令和元年度「地域発！いいもの」に選定

INNOVATION

職人ネットワーク「チーム仲間まわし」

もともと大田区では、金属の曲げ、穴あけ、溶接、磨きといった独自の加工技術をつなぎあわせ一つの最終製品が製造されてきた。そのプロセスを一般のお客さまにわかりやすく体験してもらい、伝えようと始まったのが、この「チーム仲間まわし」だ。

当初は OOF のイベント企画として取り組まれたが、続けるうちに若い職人達がつながる新しいコミュニティが誕生した。2021 年からはデザイナーユニットや IoT システム開発技術者も仲間に加わり、「アンプ Project」に取り組んでいる。

おおたクリエイティブ拠点との連携

大田区では近年、町工場のまちのポテンシャルを活かしたアートやまちづくりのための拠点、クリエイターの活動や新たな創造的な活動を推進しているクリエイティブな施設がここかしこに生まれてきている。

OOF では、これらの施設を「おおたクリエイティブ拠点」と呼称し、連携を図っている。2022 年には、羽田イノベーションシティ、ART FACTORY 城南島、KOCA、六郷 BASE にてアート作品やスタートアップ企業の展示などを同時開催し、大田区全域に OOF を展開した。

●事務局連絡先

おおたオープンファクトリー実行委員会　事務局

一般社団法人 大田観光協会内
〒 144-0035　東京都大田区南蒲田 1-20-20 大田区産業プラザ 2F
TEL 03-3734-0202

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

HIROSE　YASUHIRO
広瀬 安宏 氏

おおたオープンファクトリー実行委員会 委員長
工和会協同組合 理事長
株式会社伊和起ゲージ 代表取締役

1970年、私が生まれた大田区の下丸子と呼ばれる地域では、まちにヒーローがあふれていました。学校帰りの道中、工場の中にいたヒーローたちは、錆びた鉄を削り、鉄同士をビビっと光らせ合体させ、銀ピカの製品を作りあげていました。そのような大人たちに憧れ、私も職人になりたいと思い、気がつけば町工場のおやじになっていました。今度は私たちがヒーローに変身し、子供たちに「モノづくり」の良さや楽しさ、喜びを伝えていきたいと思い、オープンファクトリーへの参加を決めました。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

一般社団法人大田観光協会
大田区の持つ地域力を活かした観光まちづくりの推進を目指す一般社団法人。OOFの事務局を担い、大田区と連携しOOFの事業を推進する。また、オープン工場の窓口を担う。

一般社団法人おおたクリエイティブタウンセンター（OCTC）
「公×民×学」がそれぞれ活動しながら連携して豊かな「クリエイティブタウン」を生みだすためのプラットフォームとして設立された一般社団法人。全体調整、各種プログラムの企画、広報などに携わる。

工和会協同組合
大田区矢口、下丸子地域を中心として活動する中小事業主の事業協同組合。OOFの工場側の取りまとめ役として、各工場への参加呼びかけや、各種企画への協力を行う。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

大学生（横浜国立大学＆東京都立大学）

OOF開始当初から「モノづくりのまち」を広めるため各種企画を担っている。

ねじまき隊

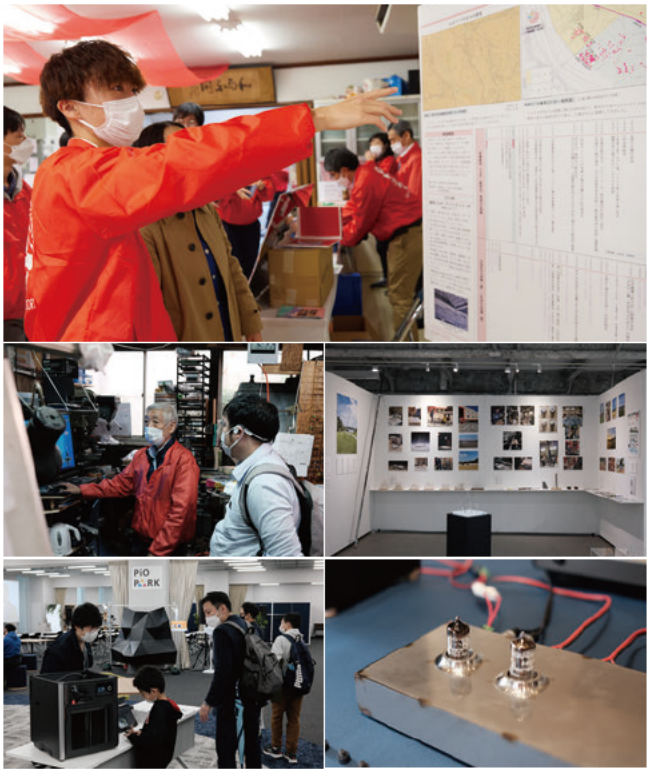
OOF当日の来訪者の案内誘導や、各工場での案内の補助を担っている。

TRIGGER & STORY
誕生秘話

住工混在のまちでありながら、BtoB製品の製造が多く、どのような製品が作られているのか知られていない大田区の町工場。大田観光協会から東京都立大学・横浜国立大学に、＂秘めた町工場＂を観光資源として活用できないかと話を持ち掛けられ、オープンファクトリーの企画へとつながった。初動期には、大学生のパワーが地元の工場を巻き込みながら進められ、若い感性でのツアー企画や体験プログラムなど、新たな観光コンテンツが誕生した。

TOPICS
おおたクリエイティブタウン構想

「おおたクリエイティブタウン構想」とは、大田区のまちの豊かさを次世代にまで受け継ぎ続けるために、これまでの地域のアイデンティティでもある「モノづくり」の力を、地域の重要な資源として生かしながら、新しい価値を生み出すための創造性も採り入れ、これを暮らしの中に落とし込んでゆくための総合的な都市再編（エリア・コンバージョン）構想である。特に、①「技術」（モノづくりの力）×②「創造」（クリエイティブな力）×③「生活」（地域の力）を重ね合わせることで、大田区ならではの、地域価値を豊かに育むことができるような将来像を描いている。



（写真）上から右回り：学生企画の様子、ART FACTORY 城南島「OPEN STUDIO 2022」、「チーム仲間まわし」の「アンプ Project」、「START UP FES in OOF '22」（羽田イノベーションシティにて開催）、工場オープンの様子

2019 年～

東京都葛飾区

かつしかライブファクトリー

CORE VALUE

ものづくりって、
エンターテインメント。

EVENT DATA

開始年　：2019 年
開催回数：5 回（2023 年）
開催期間：10 月下旬
参加企業：10 社（2023 年）
来訪者数：124 人（2023 年）
主催　　：かつしかライブファクトリー実行委員会

FEATURES

ものづくり体験型オープンファクトリー

小規模なオープンファクトリーながら、葛飾のものづくり文化を体験できるワークショップ中心の工場見学イベント。「かつしかライブファクトリー」という名に込められた「葛飾町工場の生きる（LIVE）姿を、実際に（LIVE）見て、体験してほしい」という願いに共感する 9 社がそれぞれ企画する工場見学やワークショップを実施している。イベントでは実際に職人が立ち合い、加工のノウハウ・勘所や難しい点のアドバイスなど、リアルなコミュニケーションも楽しめる。制作した作品は持ち帰れることも LIVE 感へのこだわりで、例年、参加者の満足度も非常に高い。

FUTURE

ものづくりとともに、葛飾のまちづくりを

住工混在地域である葛飾で展開される「かつしかライブファクトリー」が見据える未来は葛飾区域全体の活性化。自分たち工場のことだけを考えるのではなく、「三方良し」を基本に市場や地域が良くなることが大切だと考え、地域の財産である工場を活かしながら、地域の産業観光につなげることを目指している。

その一歩として飲食店の紹介ツールを企画予定だという。地域の人たちオススメの飲食店や地域のお土産なども紹介したいと構想が膨らむ。

INNOVATION

顧客接点での自信から新商品へチャレンジ

オープンファクトリーをきっかけに地域の参加企業のマインドも変化している。「下請けで受注した仕事をこなすだけ」という受け身の姿勢から、自らアイデアを出し企画を考えるなど、積極さが増している。また、企業間で互いに仕事をお願いしたり、自分ができない仕事を仲間へ紹介したりと横の連携も強まっている。

ワークショップの参加者から技術とアイデアを評価されたことをきっかけに、新しく自分たちで売れるものを自社製品として開発し、ビジネスとして展開しようという企業が生まれ始めている。期間限定で「メイドイン葛飾★自動販売機」（まいぷれ葛飾セレクション）で販売も行った。

小さく、深い。本格派コラボレーション企画

このコラボレーション企画は「異業種がお互いにできることを合わせて、一つの作品を作りたい」という参加企業からの発案で企画された。革の染色体験、椅子張りの工場で椅子や時計を製作など、参加者にも好評であった。

今は数社内での取り組みだが、好評だったコラボ企画はほかの企業も取り入れる動きがあり、オープンファクトリーが参加企業同士、より濃く、深くつながる、良い機会となっていることは確かだろう。

●事務局連絡先

かつしかライブファクトリー実行委員会　事務局

株式会社ミヨシ
〒124-0025　東京都葛飾区西新小岩 5-19-14
TEL 03-3692-0662

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

SUGIYAMA KOUJI

杉山 耕治 氏

株式会社ミヨシ 代表取締役
かつしかライブファクトリー発起人
かつしかライブファクトリー実行委員長

大学卒業後、三造環境エンジニアリング就職。ゴミ処理プラントの補修工事監督業務に従事した後、家業を継ぐために株式会社ミヨシ入社。金型設計、金型製作、射出成形の技術を習得し、10年間工場で加工業務に従事。2012年技術士を取得。同年、代表取締役に就任。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

かつしかライブファクトリー参加企業

有限会社アズ池田
新越精機株式会社
有限会社坪川製箱所
有限会社長沢ベルト工業
有限会社山崎精工
有限会社海鴻社
有限会社立花製作所
長坂染革株式会社
株式会社日新鉄工建設
株式会社ミヨシ

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

事務局担当

黒崎 かおり 氏

株式会社大黒商工

デザイン担当

小池 隆夫／DIVE

デザインスタジオ

ともにあゆむ

OTHERS

NPO法人たのしいまなびとあそびの研究所

参加者が移動時間も楽しめる、トゥクトゥクの提供、運転に協力。

まいぷれ葛飾

WEB広報を行う。葛飾のイベントを掲載しており、横のつながりの創出にも寄与。
(https://katsushika.mypl.net/)

青和信用組合

地域密着型の金融機関。開催当日は職員が案内や受付など、一緒に地域活性を推進している。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

発起人の杉山氏（株式会社ミヨシ代表）が2014年「燕三条工場の祭典」の体験に感動し、モノマチ、浅草エーラウンド、スミファなどにも参加し開催を決意。2017年に自社のみでオープンファクトリーをスタートした。

近隣の「モノマチ」関係者から運営のアドバイスを受け、試行錯誤しながら回を重ねるうちに、徐々に葛飾区内企業からの理解も得られ、参加企業も集まった。また、その頃「スミファ」実行委員会にオブザーバーとして参加しながら運営手法を学んだという。こうした支えと杉山氏の強い想い、さらに方向性を同じくする企業が集まったことで2019年の第1回かつしかライブファクトリー実現へと導いた。

TOPICS

東東京地域のオープンファクトリー間の連携

かつしかライブファクトリーは、オープンファクトリーが盛んな東東京の中では後発イベントである。「モノマチ」「スミファ」「浅草エーラウンド」といった先行していたオープンファクトリーとのかかわりも深い。

運営ノウハウを教えてもらったり、イベントにも参加したりといった、先輩後輩のような人間らしい関係性がそこにはある。2022年5月には、モノマチのスペースで4団体でのコラボイベント「東とうきょう物造会」も開催。東東京地域が一体となって地域を盛り上げるべく、連携を強めている。

（写真）オープンファクトリー、体験ワークショップの様子等。

2019 年～

神奈川県綾瀬市

あやせ工場オープンファクトリー

CORE VALUE

来て、見て、触って
町工場と繋がろう。

EVENT DATA

開始年　：2019 年
開催回数：4 回
開催期間：7 月、9 月／4 日程（2023 年）
参加企業：4 エリア 延べ 59 社（2023 年）
来訪者数：延べ 3,990 人（2023 年）
主催　　：あやせ工場オープンファクトリー実行委員会

FEATURES

"繋がり"から地域産業を活性化させる

中小製造企業が数多く立地する「ものづくりのまち」綾瀬市だが、地域住民や従業員の家族、子ども達など、一般の方との接点はほとんどなかった。一般の方を対象にした工場見学イベントを町工場一丸となって企画し、人と人、人と企業、企業と企業の"繋がり"を創出することを目指し開催している。2019 年、綾瀬工業団地の 50 周年記念を皮切りに単独開催を重ね、第 4 回目の 2022 年からは、市内全域に拡大し、市内に点在する 4 エリア（吉岡エリア、早川・さがみ野・小園エリア、上土棚・与蔵山下エリア、綾瀬工業団地エリア）、4 日程で開催した。

FUTURE

学校とも連携し、子ども達がいつも訪れる工業地帯に

地元の小中学生が社会科見学の一環で訪れる「毎日がオープンファクトリー」と言えるような地域に根づいたすがたを想像している。全国いろいろな地域から人びとが訪れる非日常的なオープンファクトリーと、地域の子ども達が授業や学校帰りに訪れる日常的なオープンファクトリーという、2つの形の共存を目指している。綾瀬の町工場での、ものづくり体験が子ども達の記憶に残り、来年もまた行きたい、さらに将来ここで働くことも選択肢の一つになるような、未来の"繋がり"を生んでいく場。そんなオープンファクトリーとしていきたい。

INNOVATION

"距離"を縮めるオープンファクトリーで未来へ繋がる

自動車部品となる機械や金属加工の工場が集積する綾瀬の工場団地のオープンファクトリーは、「来て、見て、触って」がコンセプト。よく知らないがゆえに、「危ない」と思われている工場に対する先入観とのギャップを埋めたいという思いから、オープンファクトリーをスタートした。

火花の散る溶接体験やプレス加工、板金からつくるプラモデルなど、子ども達が楽しみながら、本物の技術をすぐそばで体験できるのが大きな特徴になっている。普段は黙々と作業する職人たちも、お客さんに一生懸命、説明をし、その笑顔を見ることで自分も笑顔になっていく。子ども達に体験してもらうために、安全感覚が高まり、日頃の環境や作業での改善にもつながっていく。

工業団地の各工場は、もともとライバル関係に近かったが、オープンファクトリーをきっかけに、お互いが顔見知りになることで仲間意識も生まれている。同じ悩みを抱える後継ぎ同士だけでなく、その下の若い社員もオープンファクトリーを通じて、初めて他社の同世代を知り、繋がっていく。一緒にやる楽しさを実感し、そこから輪が広がり、横同士の繋がりから仕事が生まれていることに驚かされることもあり、若い社員の成長の舞台の一つになっていると感じている。

また、オリジナル焚火台を作る体験からは、参加者からの依頼でオリジナルデザインの焚き火台を OEM で生産・販売する例も生まれている。

●事務局連絡先
あやせ工場オープンファクトリー実行委員会
〒252-1108　神奈川県綾瀬市深谷上 8　21　25
神奈川県綾瀬工業団地協同組合 綾瀬工業団体連合会内
TEL 0467-78-8383

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

あやせ工場オープンファクトリー
実行委員長

MARUYAMA YUJI
丸山 裕司 氏

神奈川県綾瀬工業団地協同組合 理事長
綾瀬工業団体連合会 会長
有限会社光製作所 代表取締役社長

県内でも有数のプレス加工、金型製作を手掛ける有限会社　光製作所の代表取締役の同氏は、大手外食チェーンの黎明期の中核メンバーとしての経験を活かし、「製造業はサービス業」という理念のもと、製造業の手法にとらわれない挑戦を続けている。

自社の課題は、業界全体の課題としてとらえ、同業者、行政、支援機関を巻き込みながら、中小製造企業の未来のための革新を続けている。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

吉岡エリア長

高崎 将二 氏
株式会社 KYOEI

早川・さがみ野・小園エリア長

嶋 知之 氏
旭工業有限会社

上土棚・与蔵山下エリア長

梶 宏朗 氏
株式会社ニチゲン

綾瀬工業団地エリア長

今 寿義 氏
株式会社ナウ産業

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

初開催時から実行委員会の中心メンバーとして、企画・財務・広報活動や各エリアの調整など、イベント全体を統括・支援。

野口 裕 氏
株式会社野口製作所 代表取締役社長

大原 浩志 氏
有限会社大原鈑金工業 代表取締役社長

ともにあゆむ

OTHERS

綾瀬イノベーション推進委員会
市内企業の経営者等で組織された団体で、実行委員の多くが同委員会出身。中小製造企業の課題解決や、新たな価値創造にむけ、セミナーの開催・行政への施策提案・他地域団体との連携を図る。

あやせものづくり研究会
市内企業４社で組織された団体。調理器具などのBtoC製品の共同開発、体験イベントを通し、ものづくりへの興味喚起や“ものづくりのまち あやせ”をブランディングを行い、オープンファクトリーの運営にも参画。

あやせ工場 営業部長（綾瀬市長） 古塩 政由 氏
綾瀬市が行う中小企業振興プロジェクト『made in Ayase あやせ工場プロジェクト』では、市全体を一つの工場（＝あやせ工場）に見立て、官民共同で様々な事業を展開。同プロジェクト内では、綾瀬市長は“あやせ工場営業部長”として“ものづくりのまち あやせ”をトップセールス。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

お客さんとの距離が遠いものづくりにおいて、顧客の感謝や笑顔に直接的に触れる機会は少なく、ものづくりの現場では、その意味、やりがい、素晴らしさを忘れてしまいがち。ある日、子どもたちの工場見学を受け入れた丸山氏は、町工場の日常に驚き、楽しむ子どもたちの様子に、「町工場の日常はエンターテイメントになる」と確信。同時に、普段、寡黙な職人が誇らしげに話す姿を見て、工場見学が見る側・見せる側双方に相乗効果をもたらすと認識した。2019年、丸山氏が理事長を務める神奈川県綾瀬工業団地協同組合の創設50周年を機に、これまでを振り返るだけではなく、ものづくりの未来に繋がるオープンファクトリーを組合員に提案。実行委員と行政が一丸となって意識醸成を図り、『工場の日常、あなたの非日常』をテーマに初回を開催。普段は寡黙な職人が、若手が、町工場が、団地が、一般の方が、そして行政の目の色が変わる“ものづくりのまち あやせ”の大きなターニングポイントとなった。

TOPICS

ものづくり技術を楽しく、競う「ミニ四駆グランプリ」

ミニ四駆を題材に、気軽・楽しくものづくりに触れる機会の創出を目的に開催されたワークショップ。『遊び心でものづくりと繋がってみよう』をコンセプトに、企業の職人や一般の方が参加可能。エリア予選を経て決勝戦が最終日に開催され、優勝者が決まっていく。同市の合同入社式でも取り入れられていた「ミニ四駆グランプリ」は、その取り組みやすさとともに、競いあうことで本気度も仲間の結束も高まるワークショップとして、盛り上がりを見せている。

（写真）工場見学・ワークショップ体験・ミニ四駆グランプリの様子等。

2013 年〜

新潟県三条市、燕市

燕三条 工場の祭典

CORE VALUE

“ 開け、KOUBA ！”

EVENT DATA

開始年　：2013 年
開催回数：11 回
開催期間：例年 10 月頃
参加企業：87 社（2023 年）
来訪者数：29,773 人（2023 年）
主催　　：（公財）燕三条地場産業振興センター

FEATURES

オープンファクトリーの先駆け的存在

金属加工の産地である新潟県燕三条地域とその周辺地域の工場が一斉に「KOUBA」を開放し、ものづくりの現場を見学体験できるイベント「燕三条 工場の祭典」は 2013 年が初回。毎年 10 月の数日間、“ 開け、工場！ ” をキャッチフレーズに、ものづくりを行う「工場」、農業を営む「耕場」、それらの物品を購入できる「購場」という 3 つの KOUBA が多くのお客様をお迎えしてきた。印象的なビジュアルデザインを生むクリエイターチームとも連携。2019 年には、100 を超える KOUBA が参加するイベントへと成長し、全国のオープンファクトリーに取り組もうとする地域の一歩先を行く「憧れ」の存在となっている。

FUTURE

「祭典」から「聖地」へ、脱皮のときを迎える「工場の祭典」

全国のオープンファクトリーの憧れの存在である「燕三条 工場の祭典」は、11 年目の今年、大きな転機となった。2023 年のテーマは「WHAT IS KOUBA?」。機械加工の “ 工場 “ だけではなく手仕事の “ 工房 “ だけでもない、多様なものづくりが重なり合う「KOUBA」の本質を探求し、” 知ってもらう ” から ” 使ってもらう ” KOUBA を目指す。キービジュアルを一新し、多様な視点でものづくりや職人の活動を紹介する「ものづくりの聖地」を目指していく。

受賞アワード

2014 年　グッドデザイン賞、第 18 回 ふるさとイベント大賞 選考委員 特別賞、
　　第 8 回 産業観光まちづくり大賞 経済産業大臣賞
2016 年　第 64 回 日本観光ポスターコンクール総務大臣賞
2017 年　Red Dot Design Award：Brands & Communication Design Winner
　　第 8 回 地域再生大賞 優秀賞
2019 年　German Design Award 2019
2021 年　第 13 回 観光庁長官表彰
2022 年　Red Dot Design Award：Brands & Communication Design Grand Prix

INNOVATION

インナー・ブランディングが最大の効果 20 を超える企業で工場見学が常設化

オープンファクトリーの最大のポイントは、経営者やスタッフも含め、見られている側の意識が変わること。それが、次の発案、提案につながっていく。エンドユーザーの直接の言葉はパワーになり、それが地域に溜まることで全体の発信力や推進力が強化される。「燕三条 工場の祭典」の時以外にも、通路を整え、配布物を準備するなど、年間を通じて工場見学が可能な企業が増加。現在では、20 を超える企業となった。

「本祭」と「部活」、好サイクルを生む活動体

「燕三条 工場の祭典」は、秋の 4 日間のイベントを「本祭」、それ以外の国内外での展示や実演、製作体験からなるパッケージでの活動を「部活」と称している。「部活」はメディアにも取り上げられ、次の「本祭」につながる好循環を生んでいる。パッケージにあわせて動ける人が動き、時には全く別の見え方をするアメーバのようなゆるい「活動体」として存在する。

エキシビションを通じた、内外の新たなつながり

英国ロンドン、ミラノ、台湾、スイス、シンガポールをはじめ、国外でのエキシビションにも早くから積極的に取り組んできた。展覧会は、地域の人々とともに燕三条のものづくりの力や歴史をあらためて見直し、次代につなげていく機会となっている。また、地域外とは、デザインを学ぶ学生など商業ベースの催しではなかった新たな繋がりが多数生まれている。

●事務局連絡先
（公財）燕三条地場産業振興センター 燕三条ブランド推進部 企画推進課
〒 955-0092 新潟県　条市須頃 1-17　TEL 0256-36-4123

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

「燕三条 工場の祭典 2023」
実行委員長

SAITO KAZUYA
齋藤 和也 氏

株式会社ドッツアンドラインズ
代表取締役
有限会社ストカ 専務取締役

三条市で溶接業を営みながら、2019年から「燕三条 工場の祭典」実行委員長を務める。2020年㈱ドッツアンドラインズを設立。職人としての経験とリーダーシップで燕三条地域の企業へ革新的なソリューションを提供するほか、2023年JR燕三条駅にオープンしたビジネスマッチングの拠点を目指す地方創生型ワークプレイス「JRE Local Hub（ローカルハブ）燕三条」の運営を担う。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

「燕三条 工場の祭典 2023」
全体監修

KATATA YOSHIHITO
堅田 佳一 氏

KATATA YOSHIHITO DESIGN 代表

現場主義のデザインやものづくりを心がけ、業務プロセスの改善やブランディングに取り組む「KATATA YOSHIHITO DESIGN」を2014年に設立。新潟市内を拠点に、北海道から沖縄まで全国で決算書の読めるクリエイターとして事業全体を見据えたクリエイティブコンサルティング業務を中心に、プロダクトや空間のデザイン業務も行う。「Red dot design award」「iF design award」「Good design award」など受賞。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

実行委員長　齋藤 和也　氏
（株式会社ドッツアンドラインズ）
副実行委員長　安達 拓未　氏
（有限会社いづみ商会）
副実行委員長　長谷川 貴一　氏
（株式会社長谷弘工業）
副実行委員長　捧 開維　氏
（燕物産株式会社）

全体監修　堅田 佳一　氏
（KATATA YOSHIHITO DESIGN）
アートディレクター　村上 雅士　氏（emuni）
コミュニケーションデザイン　土屋 学　氏
WEBデザイン　中野 浩明　氏（three inc.）
WEB開発　松山 拓未　氏
写真・動画　井上 昌明　氏
PR　村上 晴香　氏、山本 真澄　氏
プロジェクトマネジメント　坂井 小夜香　氏

TRIGGER & STORY

オープンファクトリー誕生秘話

三条市が2007年から開催していた「越後三条鍛冶祭り」での生産現場を見てみたいという要望を受け、市の「後継者育成事業」を通じて method 山田 遊氏らとのつながりからオープンファクトリーの企画が進行。一方、燕市でもツアー形式の工場見学に取り組む工場もあり、当時の初代実行委員長・曽根忠幸氏のリーダーシップや行政職員の尽力もあり、両市合同のオープンファクトリーとして一気に企画が進んだ。

TOPICS

オンライン配信と「Tsubame-Sanjo Factory Museum」

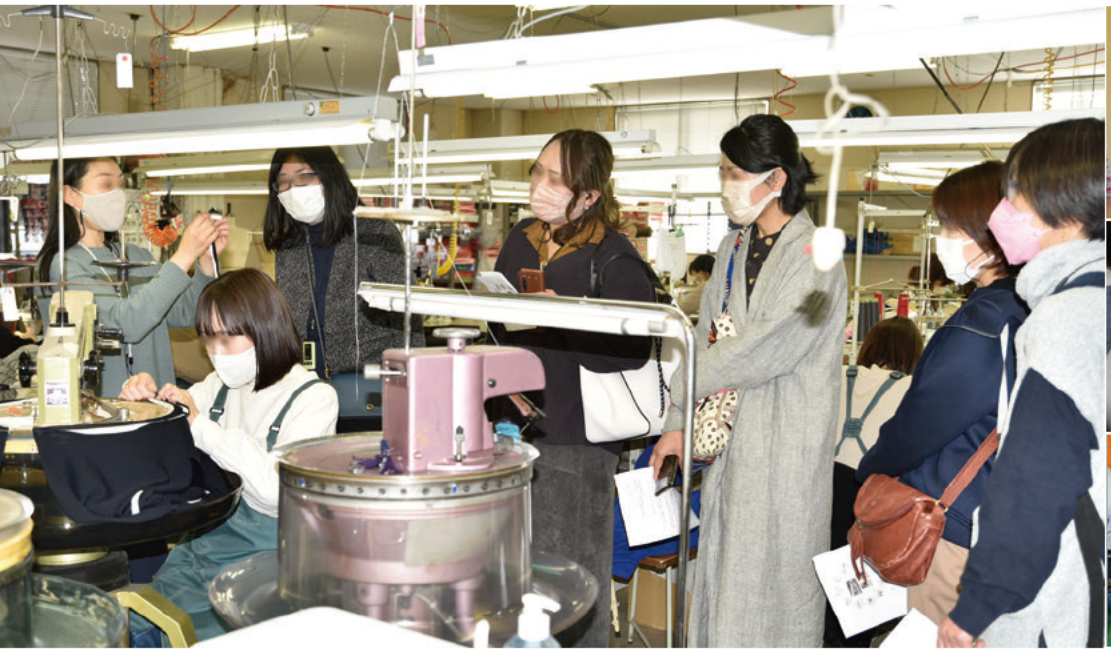
コロナ禍にあった2020年は23日間に及ぶオンライン配信イベントを開催。オンラインとリアルの世界の融合を見据え、現場を伝えるライブ配信を継続し、アーカイブも進めている。2021年は、廃工場（旧野水機械製作所 工場）を会場に、集合形式の展覧会「Tsubame-Sanjo Factory Museum」を開催。燕三条というエリア全体を俯瞰しながら、職人の技による高品質な製品、歴史文化、「燕三条 工場の祭典」の歩みを紹介した。この展覧会は世界三大デザイン賞の一つとされる「Red Dot Design Award: Brands & Communication Design Grand Prix」を受賞した。

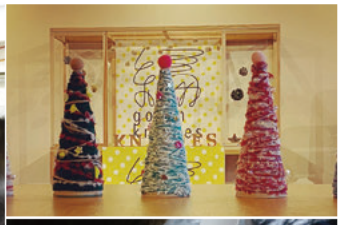
（写真）上中段：“工場”と“プロダクト”を前面にイメージしたキービジュアルに一新。
下段：会期中に実施したトークショーやKOUBAツアーの様子。

2016年～

新潟県五泉市

五泉ニットフェス





CORE VALUE

つむぐ・つどう・つながる

EVENT DATA

開始年　：2016年
開催回数：9回
開催期間：例年11月頃
参加企業：9社
来訪者数：5,039人（2023年）
主催　　：GOSEN KNIT FES 実行委員会

FEATURES

五泉のまちをつなぐニットフェス

日本一のニット産地である五泉市で、普段は見ることのできない五泉ニットのものづくりの技術を間近で見学できる貴重な機会。9社による工場見学・体験・製品販売のほか、お客様との交流・情報発信を目的としたベースキャンプ、体験ワークショップ、残糸・残反をリメイクしたマルシェなどいろいろなイベントを企画するアンバサダー企画、街ガイドが添乗する無料巡回バス等、多彩な催しが展開され、ニットでつながる五泉のまちを存分に楽しめる内容となっている。

FUTURE

オープンファクトリーから作り手の思いを伝える場へ

回を重ねることで、五泉ニットの認知度は徐々に高まってはきたが、これからさらに参加企業を増やし近隣地域とも連携しながら、全国的に知れ渡る五泉ニットフェスにしていくことを目指している。同時に、ニットフェスは、様々なチャレンジを重ねる実験の機会ともなっており、ニットフェスの期間以外も多くの人が訪れる仕組みを考えていく。そのキーワードが「産業観光」であり、教育旅行も視野にいれながら、ニットに興味のある人が集う場とし、実際の現場見学から作り手の思いを感じ共感してもらうことで、五泉ニットのファンを増やしていくことにつながると考えている。

●事務局連絡先
五泉ニット工業協同組合 事務局
〒959-1824 新潟県五泉市吉沢1-1-10
TEL 0250-42-2156

LOOP & LOOP
五泉ニット複合施設
ニットでつながる、みんなのスペース

INNOVATION

作り手と、地域と、応援してくれる人々（ファン）とつながる

「五泉ニット地域ブランド化事業」は、人材育成、地域活性化、販路市場開拓、広報・PRと4つの分科会に分かれ、五泉ニット産地の活性化事業として取り組まれている。五泉ニットフェスは、その地域活性化事業に位置づけられ、地域創生や産業観光とつながっていく。

まちの大きな変化の一つは、オープンファクトリーをきっかけにOEM100%の業態から、自社ショップを立ち上げるなど、B to Cに注力する企業がいくつも生まれていること。2021年9月に組合事務所をリノベーションして誕生した複合施設LOOP & LOOPは、ニットでつながるみんなのスペースとして開設。五泉ニットの取組とともに、各社のオリジナル商品を発信するアンテナショップ、イベントホール、コワーキングスペース、カフェなど、一般消費者とのタッチポイントの場となっている。

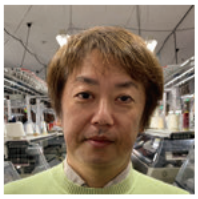
五泉ニット産地では、消費者をターゲットに直販を強化する企業もあれば、OEM事業を極めていく企業もあり、目指す成長のかたちは様々だが、「五泉ニットフェス」をそれぞれの取組強化の機会として活用している。

こうした活動のベースにソトとのつながりがある。様々な年齢、業種、地域の人が集まり、ニットフェスではアンバサダーとして参画している。2022年の「あむあむステーション、CRAFT MARCHE」をはじめとして、地域だけでは出てこなかった斬新なアイデアから多くの企画が生まれている。その存在は、ニットフェスを盛り上げるうえで大きな財産となっている。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



五泉ニットフェス実行委員長（初代）

KAWASHIMA MIKIO

川島 幹生 氏

株式会社川島 代表取締役社長

五泉ニットは世界の有名ブランドにも採用されるほど、世界基準の技術力を有している。それほど誇れるものだということを再認識する機会になればよいし、一般の方にも見ていただきたい。五泉ニットフェスは、単なるイベントではない。私たちの産業や五泉市を活性化する上で大事な機会であり、ナカで働く従業員たちのモチベーションを高め、ソトからも働きたい人を増やすことに繋がっていけばよいと考えている。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

高橋 慶至 氏

五泉ニットフェス実行委員会（2代目）

高橋ニット株式会社 代表取締役社長

梅田 大樹 氏

五泉ニット工業協同組合 青年部会 会長

オープンファクトリー リーダー

株式会社ウメダニット 代表取締役社長

桜井 洋一 氏

高校生プロジェクト リーダー

有限会社桜井メリヤス工場 取締役専務

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

アンバサダー企画等プロデューサー

山本 一樹 氏

Idea partners 代表

事務局

高橋 正春 氏

五泉ニット工業協同組合 事務局長

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

アンバサダー企画

高校生プロジェクト（五泉高校）

TRIGGER & STORY

誕生秘話

日本一のニット産地の五泉ニットだが、若い世代を中心とした身近な市民にさえ、ものづくり産地であることが浸透していないのが課題。染色、整理、刺繍、プレス、二次加工等、ニット技術が一地域に揃っていること、未来を担う若い世代の存在が産地の強みと捉え、五泉ニットを広く一般消費者に認知してもらい、次世代へと継承していくことを目標に掲げて取組はスタートした。ちょうど産地の経営者の代替わりのタイミングで、五泉ニット産地の危機感を共有した若い世代を中心に、横につながりながら、手弁当でオープンファクトリーに取り組みはじめた。フェスを継続することで、当初想定した以上の地域活性化の動きが次々と生まれている。

TOPICS

高校生プロジェクトがフェスを盛り上げ

地元、五泉高校との連携企画「高校生プロジェクト」は授業内の実践活動として、先生方の指導・協力のもと長年続けられている。来訪者に喜んでもらえるよう、その企画から製作・準備、当日の配布まで、楽しみながら取り組み、先輩から後輩へと引き継がれている。毎年趣向を凝らした企画は、高校生の自由な柔らかい発想から生まれており、ニットフェスを大いに盛り上げている。

（写真）工場見学・ワークショップ体験・高校生ノベルティ企画・マルシェの様子。

2022年～

山梨県甲府市

やまなし Jewelry Week

甲府宝石のまち JEWELRY KOFU

CORE VALUE

ホンモノに出会う場所、宝石のまち甲府

EVENT DATA

開始年　：2022年
開催回数：2回
開催期間：毎年11月頃
参加企業：70社（2023年）
来訪者数：のべ4,000人（2023年）
主催　　：山梨ジュエリープロジェクト委員会

FEATURES

甲府でしかできない体験

やまなし Jewelry Week は、日本が世界に誇るジュエリー産業の集積地である山梨県・甲府市でジュエリーを核とした様々な産業やお店を体験し、ジュエリー産業をはじめ、各種地場産業やクラフトマン、ショップなどに興味を持ってもらうことを目的としたプロジェクト。普段開放していないジュエリー工房・企業の見学やジュエリーに関する様々な体験をすることができるジュエリーツーリズムを中心に、富士吉田織物や甲州印伝、甲州ワインなど県内地場産業がコラボレーションした YAMANASHI Product Fashion-show 等11個のジュエリーを核とした体験イベントを約10日間開催している。

FUTURE

新たな文化の醸成を目指して！

甲府市のジュエリー産業は、ジュエリー関連企業の集積数の多さや加工技術の高さ等によりジュエリー業界内では世界的にも知名度があるが、一般消費者にはほとんど知られていないのが現実だ。本イベントを通し、一般消費者における甲府市のジュエリー産業の知名度を向上させ、毎年11月上旬には甲府市にジュエリーに触れに来る環境や、子供のうちからジュエリーに触れることで日常にジュエリーがある環境を醸成したい。

INNOVATION

ジュエリー産業だけでない、宝石のまち甲府へ

本事業の運営は、ジュエリー業界関係者に加え、放送事業者や WEB 事業者、NPO 法人で行っている。また、事業実施にあたっては、富士吉田織物業者や甲州印伝業者といった」地場産業業者や山梨県、甲府市、山梨大学、山梨県立宝石美術専門学校、県内に本支店がある5つの金融機関などの機関とも連携している。

ジュエリー、織物、印伝と県内にはファッション関連の地場産業があるが、これまでは単独にプロモーションをしてきた。本事業ではトータルコーディネートとしてのプロモーションを行い、将来的にはジュエリーを核としたファッションの先進地を目指していく。

また、NPO 法人が担当するマルシェエリアでは、アマチュアクラフトマンや県内産品を使用した飲食ブースの出店など本イベントに出店することで、県内で活躍する多くの方に光が当たった。

さらには、テレビ山梨が本事業に係わったことで系列 BS 局にてジュエリー番組が制作・放送されたり、山梨中央銀行ではジュエリー産業 PR チームが発足するなど、本イベントを通し、各所で活発なイノベーションが起きている。

※ジュエリーツーリズムの様子

※キッズジュエリーツーリズムの様子

●事務局連絡先
やまなし Jewelry Week 事務局
〒400-8512　山梨県甲府市相生2-2-17
TEL　055-233-2241

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

山梨ジュエリープロジェクト委員会　委員長
MATSUMOTO KAZUO
松本 一雄　氏
株式会社光新 代表取締役

協同組合山梨県ジュエリー協会前理事長。理事長在任時にジュエリー業界のプロモーションとして、やまなしジュエリーウィークを企画。現在は山梨ジュエリープロジェクト委員会委員長として、宝石のまち甲府を県外・海外へ発信するべく様々な事業に取り組んでいる。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

やまなしジュエリーウィークリーダー
古屋 貴司　氏
株式会社古屋 代表取締役

やまなしジュエリーウィーク事務局
鈴木 重正　氏
甲府商工会議所中小企業振興部
産業振興観光課 課長補佐

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

ジュエリー事業者の仲間たち

柳本 力 氏
（協）山梨県ジュエリー 協会 理事長

恩田 はるみ 氏
（協）山梨県ジュエリー協会 事務局長

鈴木 竜樹 氏
（株）鈴峯 代表取締役

秋山 裕太郎 氏
（株）秋山製作所 代表取締役

清水 宏晃 氏
（株）清水 代表取締役

詫間 康二 氏
（株）詫間宝石彫刻 代表取締役

ともにあゆむ

OTHERS

異業種の仲間たち

保坂 ひとみ 氏
（有）ﾒﾃﾞｨｱ ｱｲ ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 代表取締役

早川 亜希子 氏
NPO 法人マンマメルカート 理事長

原野 飲司 氏
（株）テレビ山梨 営業局営業部長

楠 彩華 氏
（株）ホワイトボード WEB ディレクター

TRIGGER & STORY

誕生秘話

甲府商工会議所では 2003 年～ 2004 年に通年型オープンファクトリーであるエブリデイジュエリー・ファクトリーセールを実施していた。当時は根付かなかったが、約 20 年の歳月を経てジュエリーのオープンファクトリーが復活した。復活にあたっては、様々な要因があるがその一つにジュエリー協会青年部が富士吉田織物のオープンファクトリーに影響を受けたということがある。

ここ甲府でしかできない体験ということもあり回を重ねるごとに参加者が増えている。

TOPICS

キッズジュエリープログラム初開催

国内のジュエリー市場は縮小傾向にあり、若年者層へのヒアリング調査では「ジュエリーを購入したことはない」という回答が年々増加傾向にある。この状況を打破するために、子供のうちからジュエリーを身近に感じてもらい、これから訪れる人生の大きなタイミングでジュエリーを選択してもらえるような環境づくりのために 2023 年にはキッズジュエリープログラムを初開催した。

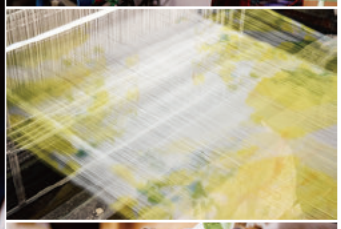
本プログラムでは、まずジュエリーワークショップでジュエリーを製作、その後自らが製作したジュエリーをお気に入りのファッションとコーディネートして、ランウェイを歩いてもらうというもの。ファッションショー参加者は世界で活躍するファッションモデルのウォーキングレッスン等を受けられるとういこともあり好評を得た。

※ジュエリーツーリズム、キッズジュエリープログラム、ゆめ・きら・マルシェの様子

2016 年〜

山梨県富士吉田市・西桂町

ハタオリマチのハタ印



CORE VALUE

イトとヒトがいきかうマチづくり

EVENT DATA

開始年　：2016 年
開催回数：通年
開催期間：通年
参加企業：約 40 社
来訪者数：約 35,000 人（2022 年）
主催　　：ハタオリマチのハタ印プロジェクト

FEATURES

産地の今を伝える、これからの 100 年の「ハタ印」

「ハタオリマチのハタ印」は 1000 年以上続いた山梨県富士吉田市・西桂町の織物産地にさまざまなヒトがいきかい、新たにモノやコトが生まれる活き活きとした産地を、次の 100 年に継承させるためのプロジェクト。その意思表示として「ハタ印」を掲げ、地域の異業種や行政間が連携しながら勉強会や新たな施策を展開。織物の魅力をお客様に直接伝える「小さな工場めぐり」は、毎月第 3 土曜日に開催。織物工場見学やワークショップに加え 2022 年にはガイド付きツアーとしてバージョンアップ。機屋さんと作り手を繋ぐマッチングサイト「MEET WEAVERS」を運営する他、機屋さんが中心に活動する「ヤマナシハタオリトラベル MILL SHOP」や富士吉田のまちなかで開催される「ハタオリマチフェスティバル」と連携し、作り手とユーザーを繋げる場となっている。

FUTURE

高付加価値化とマッチング・ツアーにも注力

富士吉田・西桂はハイブランドにも採用されるテキスタイルが生産される織物産地。一般の観光客にとっては高価に捉えられかねないが、モノの価値がわかる購買力のある層、その技術を学びたいと考える層へのアプローチを強化していきたい。また、サイト「MEET WEAVERS」を発展させ、ビジネスマッチングの成果を加速させるため、業界向けの産地生地展「MEET WEAVERS SHOW」を開催。これまでは山梨での展示会を行ってきたが、これからは東京での開催にも注力していくつもりだ。

受賞アワード

第 12 回 産業観光まちづくり大賞（山梨県富士吉田市）

INNOVATION

皆で挑戦を重ね、ブランドやサービス開発を強化

産地の後継者たちの強い危機感が根っこにある「ハタオリマチのハタ印」。産学コラボ「フジヤマテキスタイルプロジェクト」や織物事業者が最終製品の販売を行うプロジェクト「ヤマナシハタオリトラベル」による売場での経験、産地に人を呼び込むイベントやまちづくりが自然発生的に生まれ、その都度、課題を解決しながら、トライアンドエラーで挑戦し続けている。

「ハタ印」の会議は、メンバーたちの課題を共有する場にもなっており、課題を抱える事業者に対して、みんなが協力しながら新たな事業を生み出すサポートも行われる。黒染め加工の体験会や自社の看板となる黒染めサービスの開発に取り組んだ染色工場・丸幸産業もその一例で、こうした皆がつながり協力しあえる関係性が育まれている。

また、渡邊織物の三代目が展開するブランド Watanabe Textile は、その世界観を伝える場としてオープンファクトリーへの参加を重ね、このイメージとコラボしたいと考えるブランドブティックも多く訪れるようになり、ダブルネームでの商品企画も動き出しており、各工場のファクトリーショップの存在も街の新たな魅力となっている。ファクトリーブランドを持つ織物事業者同士が独自で運営する「ヤマナシハタオリトラベル MILL SHOP」をはじめ、各企業で展開される工場併設のファクトリーショップも街の大きな魅力となり、大事な顧客との接点を生んでいる。

●事務局連絡先
ハタオリマチのハタ印プロジェクト
〒 403-0005　山梨県富士吉田市上吉田 2-5-1
TEL　0555-22-2164
（ハタオリマチ案内所／山梨県絹人繊織物工業組合）

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

TAKASUKA KATSURA

高須賀 活良 氏

東京造形大学テキスタイル専攻領域
専任教員
「ハタオリマリのハタ印」
総合ディレクター

東京造形大学でテキスタイルデザインを学ぶ。日本各地を旅し、その土地にある素材にインスピレーションを受け作品を制作。モノづくりの始まりは「土」からであるというコンセプトのもと、原始布の研究。2011 年 修士号取得。アーティストとして国内外で作品の発表の他、織物産地でのテキスタイルデザイン、ファクトリーブランドの立ち上げ、アートディレクターとして活動。2016 年「ハタオリマチのハタ印」総合ディレクターに任命。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

高須賀 文子 氏
株式会社トリッキー 代表取締役
企画・運営を担当

毛利 朋子 氏
株式会社トリッキー 取締役 デザイナー
アートディレクションを担当

富士吉田商工会議所（繊維部会）
富士吉田織物協同組合
西桂織物工業協同組合

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

水越 欣一氏
富士吉田市役所

小野 雄一氏
富士吉田商工会議所

五十嵐 哲也氏
山梨県産業技術センター

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

富士吉田市 産業観光部 商工振興課
西桂町役場 産業振興課
富士吉田商工会議所
山梨県産業技術センター
山梨県絹人繊織物工業組合
富士吉田織物協同組合
西桂織物工業協同組合
ふじよしだ定住促進センター
富士吉田市役所 産業観光部 富士山課
ハタオリマチフェスティバル
（年 2 回、2 万人参加）
FUJI TEXTILE WEEK
（年 1 回、1.3 万人参加）
B TAN MARKET
（年 3 回、2 千人参加）
特定非営利活動法人かえる舎

TRIGGER & STORY

誕生秘話

はじまりは、織物メーカー数社と東京造形大学テキスタイルデザイン専攻領域との産学協同で 2009 年に発足した「フジヤマテキスタイルプロジェクト」。それを機に、二代目世代が中心となって新たなチャレンジが模索されていった。

OEM 生産に頼っていた当産地では、海外生産への移行や諸外国で作られた安価な織物の流通により、自社ブランド商品の企画開発や販路開拓の課題が顕在化。産学協同事業がきっかけでファクトリーブランドを立ち上げた織物事業者を中心に「ヤマナシハタオリトラベル」として全国を巡り展示販売の売場に立つ新たなビジネスモデルを確立。その後「ヤマナシハタオリトラベル」に参画した 11 社（当時）が地域の中で中心となり、同プロジェクトのディレクションを行っていた高須賀活良氏に企画立案を依頼し、地方創生の一環で観光産業と情報発信に注力する「ハタ印」プロジェクトがスタートした。

TOPICS

取引直結する機屋情報サイト「MEET WEAVERS」

クリエイターをつなぐ役割を担う。そのページは、概要や生産されるテキスタイルの情報だけでなく、織物工場の成り立ちや特徴や代表者の考え方等が記載されており、更には織機の情報だけでなく価格やロット、納期の情報まで、具体の発注を考える上で参考になる情報が公開されている。アイテムや技術、デザインなどのキーワードやイメージからの検索性にも優れているのも特徴。各社の問合せフォームからコンタクトできる。

（写真）工場見学・ワークショップ体験・産地バスツアーの様子。

2019年～

山梨県韮崎市

ニラサキオープンファクトリー

ニラサキ
オープンファクトリー

CORE VALUE

ぼくらのまちは、想像以上。

EVENT DATA

開始年　：2019年
開催回数：4回
開催期間：8月18日～22日/5日間（2023年度）
参加企業：16社、ガイドブック掲載協力8社
　　合計24社（2023年度）
来訪者数：567人（2023年度）
主催　　：ニラサキオープンファクトリー実行委員会、
　　韮崎市商工会、韮崎市商工会製造業部会

FEATURES

ものづくりの知らない世界を体感する

「ぼくらのまちは、想像以上。」を合言葉に、韮崎市内の精密機器関連の機械・金属加工、食品など、身近であるのによく知られていない製造工程や機械を見学・体験できるイベント。4回目となる2023年は、16社が工場見学を実施し、世界トップレベルの生産現場を体験した。子どもたちも楽しめるよう各工場が工夫をして「はんだ付け」や「キーホルダーづくり」などのワークショップを充実。韮崎市民交流センター ニコリでは、オリジナルTシャツやトートバック、缶バッジづくりで、ものづくりに触れ合った。

参加者数も年々増加しており、4回目の今回は、新たな取り組みとして、Instagramの広告を取り入れた結果、過去の2倍近くとなる567名の参加があった。着実にものづくりの魅力を伝えるイベントへと成長を遂げている。

FUTURE

エリアを拡げ地域と関わるオープンファクトリーへ

いま以上に参加企業を増やし、工場見学の参加者もさらに増やしていきたいと考える。また子ども達や家族づれで参加できるように、開催時期や曜日も検討事項。また、韮崎市にとどまらず近隣の北杜市や南アルプス市といったエリアとも協力しながら一枚岩となった広域型でのオープンファクトリーとして盛り上げていければと考えている。さらに、製造業だけではなく、商業や観光ツアー等とも絡めながら、地域を包括し、地域をより盛り上げていけるイベントへと育てていきたい。

2023年は、コロナの5類化により2019年第1回目と同様の夏休み期間での開催が実現できたことにより、多くの子ども達に参加してもらうことができた。また、市内の仕事や歴史を知ってもらう商工会主体イベントとして、「韮崎しごと博覧会」を同時開催。市内の店主が講師としてプロの技術を学べる「まちゼミ」や市内の歴史を知る「まちなかツアー」などを開催し、市内の商工業者が多くの子ども達へ「しごとの魅力」を伝える場を創出した。今後もより多くの事業者に参加してもらい、より多くの人に魅力を伝えられるような仕組みを整えていくつもりだ。

INNOVATION

将来的な産業人材の獲得につなげる

子ども世代とのつながりを生み、隣に住んでいる市民にも工場のことを知ってもらいながら、将来的な産業人材の獲得につなげたい。そうした思いが込められたニラサキオープンファクトリー。

ガイドブックでは、子どもたちの目をひくワクワク感を伝える表紙デザインでアピールした。参加企業を紹介するページでも、若い社員が登場するインタビュー記事で、働く人びとにフォーカスした。市民や子どもたちに、より親しみをもって会社のことを知ってもらえるよう、また若い社員が活躍していることを学生さんにも印象づけたいという狙いもあった。韮崎市教育委員会や隣接市の教育委員会にも協力を受け、学校経由での広報を行った。今回はチラシに加えて、市内外の小中学校の保護者へチラシのデータ配信を実施し、幅広い子ども達に周知を行うことが出来た。参加企業からは「当たり前と思っていた仕事を外の人に見てもらい、すごいと言われることでモチベーションアップの効果が生まれている」といった声や、見学者の受け入れ前に現場の整理整頓を行うといったプラスの作用は大きい。

もともとB to Bの取引が多い工場では競合関係にある事情も抱えているが、ニラサキオープンファクトリーを通じて、企業同士の交流が生まれはじめており、各企業が連携して具体的な取組みが進むことを期待しているところだ。

●事務局連絡先

ニラサキオープンファクトリー実行委員会 事務局

韮崎市商工会
〒407-0024　山梨県韮崎市本町1-5-25
TEL 0551-22-2204
公式サイト https://nirasaki-openfactory.jp/　ガイドブック

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

ニラサキオープンファクトリー実行委員

IWASHITA　KAZUHIKO

岩下 和彦 氏

韮崎市商工会　会長

昭和産業株式会社 相談役

ニラサキオープンファクトリー実行委員会
委員長

SAITO　TSUGUKI

齋藤 嗣樹 氏

韮崎市商工会 製造業部会 部会長

ツルヤ化成工業株式会社 常務取締役

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

ニラサキオープンファクトリー実行委員

乾　亘 氏

有限会社イヌイ金属塗装工業所
代表取締役

金井 洋介 氏

キンキ製工株式会社
社員

上野 政臣 氏

コスモ株式会社
代表取締役

山本　貴人 氏

株式会社信和　社員

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

デザイン担当

陶守 いくみ 氏

BEEK DESIGN デザイナー

ニラサキオープンファクトリー実行委員

WEB 担当

高野 純矢 氏

コンパス 代表

ニラサキオープンファクトリー実行委員

事務局

仲澤 瑞基 氏

韮崎市商工会

経営指導員

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

韮崎市

「韮崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、産業人材育成に繋がる事業としてオープンファクトリー開催を支援。

韮崎市教育委員会

オープンファクトリーを「産業を知ること」「将来の選択肢」「普段できない体験の場」など教育の一環として捉え、市内小中学生に向けた広報に全面的に協力。

山梨県産業労働部

産業人材の育成に繋がるオープンファクトリーを軸に、将来的な広域的な連携に向けて、ともに推進。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

交通の要衝の宿場町として栄え商業も盛んな韮崎市。半導体関連の企業も数多く集積し、商工会の製造業部会でも熱心に活動してきた。例えば、180 社が参加する仮想工業団地「風林火山ビジネスネット」の立ち上げや合同研修の開催など。地域経済を支える製造業と自負していたが、市が実施した市民アンケートでの製造業に対する満足度が低いことに大きな衝撃を受けた。その解決策を模索するなかで、関東経済産業局が発行した「オープンファクトリーガイドブック」を 2018 年に入手し、墨田区のスミファなどを視察。そこでの体験からオープンファクトリーの意義を感じるとともに、韮崎市での実現への想いを固めた。

TOPICS

ものづくりをもっと身近に。

子ども向けに「しごと」をテーマにした一大イベント「韮崎しごと博覧会」として大きく舵をきった 2023 年度。

期間中、韮崎市民交流センターニコリ内では、実行委員会主催のオリジナル T シャツ・トートバッグ・缶バッジを作成するものづくり体験や店主が講師となり技術を教える「まちゼミ」を実施し、240 名以上の参加があった。商工業の様々な「しごと」を体験してもらうことにより、ものづくりや商業の魅力を身近に感じる機会となった。

（写真）工場見学・ものづくり体験、当日の総合受付等の様子、「NIRASAKI OPEN FACTORY 2023 SUMMER GUIDE BOOK」。

2018年〜

静岡県内

共生 Shizuoka Craft Week

共生
SHIZUOKA CRAFT WEEK

CORE VALUE

一番近くて大切な人と、今あらためて出会う。

EVENT DATA

開始年　：2018年
開催回数：6回（2023年）
開催期間：11月末〜12月頃
参加企業：90社（2023年）
来訪者数：約1万人（2023年）
主催　　：共生実行委員会

FEATURES

近くにある、小さな"ものづくり"スポット

かつて、静岡浅間神社の造営を機に、全国の職人が徳川幕府によって静岡に集められ、家具産業をはじめ、幅広い業種にわたるものづくり職人の技術が育まれた静岡市で開催される「共生 Shizuoka Craft Week」。「一番近くて一番大切な人と、今あらためて出会う。」をテーマに、身近で大切に紡がれてきた小さな"ものづくり"にスポットをあて紹介する。

初回開催は2018年。クラフトマーケットは、静岡県内で活躍する作家や、家具や染物、お菓子や雑貨などが集い、約90店舗が参加。浅間神社から駿府城公園へと会場を移し、年々規模を拡大している。オープンファクトリーは、ものづくりの現場での貴重な体験を提供し、コロナ禍の影響によるオンラインでの開催等を経て、2022年は宿泊型オープンファクトリーツアーを試行した。

続く2023年も、クラフトマーケットと貸切バスによるオープンファクトリーツアー（2コース）を実施した。

FUTURE

出会いや縁をつくるハブとなる「共生」

立上げからコロナ禍の対応まで、状況が目まぐるしく変わるなかで、あらかじめの答えを用意せず、個々の意見でぶつかり合って答えを導き出していくのが「共生」のスタイル。誰か一人の強いリーダーシップではなく、絶妙なバランスで、実行委員会メンバー13人が相互に補いあいながら、あるべき姿を探りながらトライする。「共生」自体が何かを成していくのではなく、「共生」から派生して、何かが生まれる、繋がっていく。お客さんも出店者も「共生」の一員であり、「共生」はその出会いや縁をつくっているハブだという根っこを大切にしていきたい。

INNOVATION

「木工産地における芽吹」をテーマとしたCRAFT TOURISM "KOBO NOW"

2022年に続き、2023年も開催したオープンファクトリーツアー。2023年のテーマは「木工産地における芽吹」。かつて家具・木工の産地として全国的に名を馳せた静岡県だが、時代の流れの中でその勢いは薄らいでしまった。しかし、そこには400年以上続いてきた「ものづくり」の歴史を継承してきた確かな息吹が存続している。今回のツアーは、これらを芽吹として体感し、交流する機会としてのプログラム。

ツアーの実施は、静岡県中部地域でエリアが違う2コース。どちらも、切る・削る・塗る・組み立てるというシンプルな作業が生み出す"深くて美しい情景"をじっくりと味わえるように木工や家具に関わる複数の工場を貸切バスで巡った。途中、地域ならではの食も堪能しながら、夜の全体交流会では名物居酒屋で語らい、今なお世界的な評価が高い倉俣史朗氏が設計したバーにも立ち寄った。

地元静岡をはじめ、関東・関西方面などから集まった45名の参加者の多くは、若手デザイナーやクリエイターたちだ。彼ら彼女らに「静岡」を意識してもらいながら、"新しい何か"を生み出すヒントを探りながら、次につながるBtoBの土壌づくりにつながっていければという想いで取り組まれた。

一方、ツアーに先立って開催されたクラフトマーケットは、質の高い作り手が出店するマーケットとして、市民にしっかりと定着してきた。静岡県内からの出店者に限定しているので、出店者同士のコラボレーションや共同イベントの開催などの動きにも繋がりやすくなっている。

●事務局連絡先

共生実行委員会

〒420-0839　静岡市葵区鷹匠3丁目20-23 株式会社加減乗除内
TEL 054-204-4944
公式サイト　https://kyo-sei.link/

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

ODA　YOSUKE
小田 庸介　氏
共生実行委員会プロデューサー
株式会社ワダイコ 代表

1978 年静岡市生まれ。2006 年より静岡県内で発行する地域情報誌「すろーかる」を立ち上げから行い 15 年間編集長を務める。編集業務の傍らテレビ番組のコメンテーターや地域のファシリテーターとして様々なプロジェクトに参加。2021 年には静岡市が運営する伝統工芸振興施設「駿府の工房 匠宿」の館長に就任し、同施設のリニューアルに取り組む。2022 年 8 月に（株）ワダイコを設立。レモン商材の開発など、地域をプロデュースしていくための事業を手掛ける。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

HANAZAWA　KEITA
花澤 啓太　氏
共生実行委員会ディレクター
株式会社アンノット 代表

1978 年静岡県島田市生まれ。芸術大学で油絵を学んだ後、家具メーカーに就職。家具・雑貨の企画デザインから製造までに携わる。退職後は家具産地静岡から家具産地北海道へと渡り 2 級技能士の資格を取得する。静岡に帰郷後、プロダクトデザイナーとして独立。2021 年デザイン会社（株）アンノットを設立。

もっとよくなること、伝わること、喜ばれることについてシンプルに考えていくことで、その表現は形を帯びてくるものだと考え、日々デザインワークに取り組んでいる。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

共生実行委員会メンバー

石川智規 氏（実行委員長）
松木徳夫 氏（事務局長）
亀山大樹 氏（監事）
志水竜一 氏（委員）
西田悠真 氏（委員）
岩崎泰久 氏（委員）
柴山広行 氏（委員）
影山敦彦 氏（委員）
鈴嶋康子 氏（委員） 他

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

後援 / 静岡県（地域産業課）、静岡市（産業政策課）

協賛 / セイリン株式会社、株式会社大輝、
株式会社創造舎、前田工業株式会社、
株式会社オフィス H2O、日進電機株式会社、
しずおか焼津信用金庫、静清信用金庫、
トヨタユナイテッド静岡株式会社、
東京海上日動火災保険株式会社

SEIRIN
創造舎 DESIGN OFFICE SOZOSYA

TRIGGER & STORY

誕生秘話

オープンファクトリーの立ち上げ時、静岡県の産業振興施策の一つとして、県の担当者から声がけを受けてコアメンバーが集められた。家具産業の衰退を目の当たりにするなかで、地域に恩返しをしたい強い思いを持った小田氏らの中心メンバーは、大掛かりなものではなく一人でもできること、すぐ隣にある大切なもの、いいものがあるという気づきを生むような取り組みにしたいと考え、体制とともに事業の再構築を図った。そうして、これまでの地域産業のあり方自体を根本的に見直し、新たな魅力を生み出し伝えながら地域活性化を目指す、今の「共生」のかたちができあがった。

TOPICS

自立的な運営を可能にする共生スポンサー

地域の人口減少を食い止めるには、働く場所があることが肝心で、地場産業を変えていくことが地方都市の宿命ではないか、ひいては現代の「産業革命」という考えにもつながっていく。実行委員会メンバーが喧々諤々、本気で「共生」を動かしていく土壌づくりに欠かせない仕組みの一つが共生スポンサー。資金獲得のため、実行委員会メンバーが共生スポンサーをお願いに廻る期間があり、そのおかげで「共生 Shizuoka Craft Week」は、補助金だけに頼らない、自立的な運営が可能になっている。

（写真）クラフトマーケット、オープンファクトリーツアーの様子。

2023 年〜

静岡県静岡市

ファクハク　静岡工場博覧会

CORE VALUE

人とまちと工場が出会い、ワクワクする未来をつくる

EVENT DATA

開始年　：2023 年
開催回数：1 回
開催期間：毎年 11 月頃
参加企業：25 社（2023 年）
来訪者数：約 1,000 人（2023 年）
主催　　：静岡工場博覧会実行委員会

FEATURES

徳川の時代から受け継ぐ職人魂

さかのぼること、徳川家康大御所時代、全国から優秀な職人がここ静岡（駿府）に多数集められた。静岡の町工場には、徳川の職人魂が脈々と受け継がれている。その駿府の地で、初の本格的オープンファクトリーイベントを開催した。食品、金属、木、樹脂、革、繊維等の加工業、ロボット製造業、農家等の多彩なものづくり工場、工房 25 社が、挑戦できたことは大きな一歩であった。工場見学、ワークショップ、工場直販ショップ、工場見学ツアー等を実施。初回から多数の地域の方々のご支援をいただき、総力で実現することができた。

FUTURE

地域内での認知度を高め、産業観光にも繋げる

まずは、より多くの参加企業を増やすために、今年度生まれた成果をしっかりと地域のものづくり関係者に伝えていく。併せて市民・近隣住民へ情報発信を行い、毎年 11 月の開催を楽しみにしてもらえる地域のお祭りとして定着させたい。しっかりと地域に根差したイベントとして育った後は、県外や清水港や静岡富士山空港等からの海外のお客様も迎えられるような仕掛けを考えていきたい。

●事務局連絡先
株式会社山崎製作所
〒 424-0113 静岡県静岡市清水区原 134 番地の 2
TEL　054-361-0610

INNOVATION

地域企業や学生とのコラボで、静岡が混ざり合う

イベントを盛り上げた、地域の企業や学生とのコラボプロジェクト！

●静岡鉄道×静鉄 PM × JA 静岡中央会×ファクハク

地域企業の若手社員が、社内研修の PBL（課題解決型学習）として、ファクハク参加企業をサポート。実際は「サポート」の域を越え、「圧倒的当事者意識」を持ち、見学者を受け入れる方法を考え工場のガイド役を担った。

●静岡デザイン専門学校×ファクハク

プロダクト科 3 年生の学生たちが、授業として静岡のものづくりを学び、ファクハクグッズを提案。実際にファクハク当日から販売開始。

●大学生広報チーム

常葉大学、静岡県立大学の学生が、参加企業の取材を行い SNS で発信。当日は総合案内所のボランティアスタッフとしても活躍。県立大学の有志学生によるファクハクの冊子製作も進行中。

広報担当やファクキャスとして大活躍の地元大学生たち

ONE TEAM

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

山崎 かおり　氏
㈱山崎製作所　代表取締役
「静岡愛と職人技術を次世代に繋げていかなければならない！」という使命感が行動の起点。オープンファクトリーを静岡で開催することは長年の夢だった。

長橋 健太郎　氏
ナガハシ印刷㈱　代表取締役
静岡市がデザインとものづくりであふれ、若い人たちがアイデアにあふれ楽しめる街づくりが長年の夢。その第一歩となるオープンファクトリーの開催は大学生の頃からの夢でした。

伊豆川 剛史　氏
伊豆川飼料㈱　取締役
静岡を代表する水産加工業と農業の循環を支えるため、高級ツナ缶「とろつな」シリーズを自社開発。あふれるマグロ愛で『マグ活』をＸで発信している。

小林 大輝　氏
クリエイティブディレクター
東京芸大、ミラノ工科大学で学び、地元静岡でも活躍。ファクハクのクリエイティブな部分を支えているディレクター。

村田 浩康　氏
村田ボーリング技研㈱　社長室長
「人を大切にする経営」について学び、父と幹部と社員と共に「いい会社」について問う日々を続けている。好きな言葉は“慈悲寛大自己反省”。

阪口 瀬理奈　氏
ふじのくに ICT 人材育成プロデューサー
関西出身　2018 年静岡へ移住。DX 分野の支援や政策提言を行う。工場とカメラが好き。ファクハクの事務局兼広報担当。コラボ PJ の立役者。

BASEMENTS

取り組みを支える屋台骨

第１回ファクハク参加企業

(株) アイエイアイ、アオイネオン (株)、青木農園、(株) 青島歯車製作所、伊豆川飼料 (株)、(株) エクタス、(株) 岳南木工商会、栗田産業 (株)、(有) 静岡中央魚類、駿府の工房 匠宿、(有) セイシンメタルプロ、染織ユトリ、大日工業 (株)、東海テクノ (株)、東名鍛工 (株)、長澤瓦商店 (株)、ナガハシ印刷 (株) 日本ニューノーズル (株)、人宿藍染工房、(株) 平垣製作所、HORSEHEAD LABS(株)、前田工業 (株)（一社）3rings、村田ボーリング技研 (株)、(株) 山崎製作所

OTHERS

ともにあゆむ

SPECIAL THANKS

特別協力：静岡産業振興協会　静岡デザイン専門学校
協賛：アイエイアイ、明治安田生命、静岡鉄道、静清信用金庫、清水銀行、Habilis、大日工業、しずおか焼津信用金庫、村田ボーリング技研、遠藤科学、青島歯車製作所、伊豆川飼料、SP メディカルクラスター
後援：静岡県産業振興財団、静岡商工会議所、静岡市
地域応援団：ファクキャス（当日ボランティアスタッフ）

TRIGGER & STORY

誕生秘話

静岡市はその地の利を活かして、第１次産業から第３次産業まで多彩な産業が集積している。家具などの木工、プラモデルなどの樹脂加工、金属加工や食品加工など様々なものづくり工場が市民生活や産業の基盤となっているが、ものづくりを身近に感じている市民は多くない。

地域の魅力の一つとして、ものづくり現場を発信することの必要性を感じていた６人が、引き寄せられるように集まり、民間任意団体の実行委員会としてスタート。他地域の先行事例に学びつつ、徐々に想いに賛同するメンバーが増え、地域行政等も後方支援に入ってくださり、2023 年 11 月、開催にこぎつけた。

TOPICS

初年度は、金属加工業、産業機械メーカー、飼料・肥料製造、クラフトビール工場、柑橘類農園、鋳物や瓦、藍染めの工房など、まさに静岡の縮図のような多種多様な 25 社が工場を開いた。ほとんどの会社が初めて一般のお客様を迎える経験になったが、来年の開催にむけて非常に大きな後押しとなる、喜びや発見に満ちた声が集まった。

参加企業から寄せられた声

「歯車好きの小学生の男の子が参加。工場に入ると目を光らせて歯車の機械や、歯車本体を写真に撮ったり、触ってみており興奮しておりました。この様な方に参加して頂き、弊社のスタッフも嬉しくなり、最高のファクハクになったと思っております。」

「ある熟練職人が、普段のもくもくと仕事をする姿とは違い、いきいきと人に教える姿を見ることができ、経営者としても大変にうれしく、また今後の社員育成に関するヒントももらえた。」

「一般向け工場見学のスキームができ、自社単独でも工場見学のイベントの開催に繋がりました。」

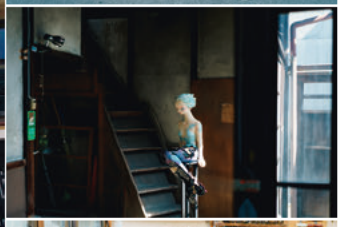
※ファクハク当日の様子／右下：開催前に商業施設前で行ったプレイベントの様子

2012 年〜

富山県高岡市

市場街（高岡クラフト市場街）

市場街
TAKAOKA CRAFT ICHIBAMACHI



CORE VALUE

ものづくりのまち高岡、産学官連携でつながるまちづくり

EVENT DATA

開始年　：2012 年
開催回数：12 回
開催期間：9 月下旬頃 / 3 日間（2023 年）
コンテンツ数：56（2023 年）
来訪者数：約 22,530 人（2023 年）
主催　：高岡クラフト市場街実行委員会

FEATURES

工芸都市高岡から贈るクラフトイベント

「ヒト」、「食」、「マチ」と結びついて、新たな魅力を生み出す、工芸都市高岡が贈るまち一体型のクラフトイベント。開催期間中には、「工芸都市高岡クラフト展」を中心に、高岡の伝統産業職人や作家によるアート・クラフトの展示・販売、ワークショップ体験、地元のグルメを楽しめる飲食メニュー提供など高岡市にまつわる様々なコンテンツが企画・開催される。

10 周年を迎えた 2021 年には、イベント名を「高岡クラフト市場街」から「市場街」に変更して開催している。

FUTURE

継続して開催することを目指す

2012 年から継続して開催する中で、市民にも市場街のイベントそのものやイベントにかける想いが浸透してきている。また、市場街が楽しいから富山県内の大学に進学したという学生も出てきている。市場街は、まちづくりの意味合いも大きく、継続して開催することを大切に考えている。若い人も意欲的に活動に加わってくれていて、頼もしく感じている。

今後も継続していくことを大切に、高岡市の地域性や規模にあったコンテンツ作りに力を入れていきたい。

受賞アワード

2018 年度　（公財）日本デザイン振興会主催「グッドデザイン賞」　受賞
2022 年度　（公財）日本デザイン振興会主催「グッドデザイン賞」　受賞
第 27 回　（一財）地域活性化センター主催
「ふるさとイベント大賞・大賞（内閣総理大臣賞）」　受賞

INNOVATION

様々な取組との連携・相乗効果の創出

2010 年頃まで、高岡では様々な取組が個別に行われていた。それら取組をまとめていったほうが対外的にも分かりやすくなるとの考えがあり、市場街でも、これまで市内を中心に様々なイベントとの連携を深めてきた。2016 年には「金屋町楽市（現在の「ミラレ金屋町」）」というイベントと会期を合わせるため、開催時期を 10 月から 9 月に変更している。他にも、2017 年〜 2018 年には銅器団地オープンファクトリー、2018 年に開催された「日本遺産サミット in 高岡」とも連携してきた。直近の 2022 年には、「工芸都市高岡の秋。2022」と題して、「市場街 2022」「工芸都市高岡 2022 クラフト展」「ミラレ金屋町」の 3 つのイベントが同時開催されている。

加えて、富山、石川、福井の北陸三県を舞台に開催される「北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI」でも、会期を合わせてプロモーションを行っている。

数ある取組の連携の中でも、高岡伝統産業青年会が主催する「高岡クラフツーリズモ（年度によって名称が異なる）」がある。高岡クラフト市場街が始まった 2012 年から、開催期間を重ねて開催してきた。高岡クラフツーリズモは、職人の工房や工場をめぐり、ものづくりの現場の見学や製作体験ができるツアーである。2020 年からは「クラフツーリズモ TV」として、オンラインにも活動範囲を展開している。

こうして、毎年秋には、様々な取組やイベントと連携することで、相乗効果を生み出し、結果、高岡市のまち全体の盛り上がりに寄与している。

●事務局連絡先
高岡クラフト市場街　実行委員会
E-mail　ichibamachi@gmail.com
公式ホームページ　https://ichibamachi.jp
記録集「高岡クラフト市場街 11 年の軌跡」 https://book.ichibamachi.jp

ONE TEAM

実行委員長

TREND SETTER

KUNIMOTO KOUTAROU

國本 耕太郎 氏

漆器くにもと　代表

高岡クラフト市場街実行委員長

高岡で 100 年以上の歴史を持つ漆器問屋の四代目。工芸の技を活かし、ワンストップでものづくりができる高岡のものづくり窓口として様々なプロダクトを生み出す。

2019 年には工芸×アウトドアをテーマとした新会社も設立。30 歳で帰郷して家業を継いで以来 20 年間、仲間達と共にものづくりとまちづくりに奔走している。高岡伝統産業青年会 OB。

企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

副実行委員長
有田 行男 氏
富山大学 芸術文化学部 准教授

デザイン担当
羽田 純 氏
株式会社 ROLE/ 代表

関連イベント企画・運営
藤田 和耕 氏
高岡伝統産業青年会 会長（2022 年度）
株式会社平和合金 社長

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

高岡市長
角田 悠紀 氏

主催者である高岡クラフト市場街実行委員会の大きな特徴は、産学官が連携している点である。「官」を代表する高岡市は、市民による挑戦を応援するという角田市長の思いのもと、実行委員会の一員として「市場街」をともに盛り上げている。

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS
富山大学芸術文化学部のプロジェクト授業

富山大学芸術文化学部では、「教員が特定の社会的課題を挙げて、問題発見及び解決までの過程、手法をグループワーク等の他者との協働等を通じて実践的に学ぶ授業」をプロジェクト授業として定義。
2016 年度から「高岡クラフト市場街」への学生の関わりを「プロジェクト授業」として位置付けている。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

1986 年より続く歴史ある「工芸都市高岡クラフトコンペティション」。ここで開催される展示会を軸に、高岡のまちをクラフト関連のものづくりやイベントで特長づけるべく、生まれたのが「高岡クラフト市場街」であった。2012 年の開催当初はクラフトコンペティション付近に催しを行う等コアなコンテンツが多かったが、年毎に食のコンテンツやまち歩きが加わり、裾野を拡げていった。2016 年からは、イベントを教育の場にしていこうと、富山大学のプロジェクト授業として組み込んでいる。若い世代が関わることで関係する年齢層が広がり、より活力あるイベントに成長している。

TOPICS

オンラインコンテンツへの挑戦

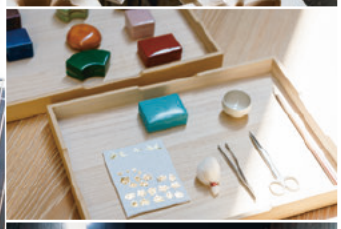
新型コロナ感染症が拡大し、現地でのイベント開催が難しい状況となったが、逆境に負けず、2020 年以降「オンライン配信」という新たなツールの活用にチャレンジしている。オンライン配信のみでは、物販の販売や飲食での収益を上げにくいため、「高岡」のプロモーション、ブランディングを目的に「市場街 TV」と称する YouTube 配信チャンネルを立ち上げ、伝統産業をエンターテイメントとして捉えた番組の制作と配信に取り組んでいる。その他、音楽ライブ番組「市場街ナイト」、職人の手作業を映し続ける「定点観職」など、職人や町人の協力を得ながら、実行委員会や富山大学芸術文化学部が中心となり、高岡ならではのコンテンツが多数誕生している。

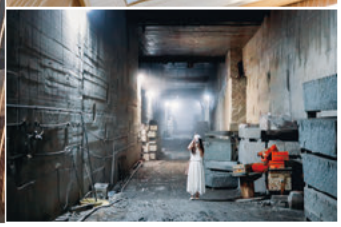
（写真）市場街 TV、定点観職、高岡伝統産業青年会が企画するイベント等

2021 年～

石川県小松市

GEMBA モノヅクリエキスポ





CORE VALUE

小松のモノヅクリの原場が見れる

EVENT DATA

開始年　：2021 年
開催回数：3 回
開催期間：11 月（2023 年）
参加企業：48 社（2023 年）
来訪者数：約 7,000 人（2023 年）※関連施設来場者含む
主催　　：こまつものづくり未来塾

FEATURES

多様な産業のものづくり GEMBA（原場）イベント

小松市では伝統工芸である色絵陶磁器「九谷焼」をはじめ、織物、鉄鋼、石材、農業、酒、和菓子、木工など多様な産業のものづくりが、長い年月を経て発展してきた。GEMBA モノヅクリエキスポは、その小松の文化や産業に触れながら小松のものづくり GEMBA（原場）の知恵や技術を知り、体験できるイベント。2023 年は、日本を代表する伝統工芸事業者から世界シェアを誇る巨大メーカーまで、３８社が企画する４７プログラム（工場見学、ワークショップ等）が開催された。

FUTURE

小松市ならではの産業観光プログラムを目指して

北陸新幹線が 2024 年に延伸、新幹線小松駅が開業することを好機と捉え、小松市として、いかに産業観光に取り組んでいくかを模索すべく、３回のテストマーケティングに取り組んでいる。小松市ならではの魅力ある産業観光プログラムを提供できるよう、2023 年は更にバージョンアップした企画を検討予定である。 また、まだ出会っていない小松市内の事業者のうち、我々の描くコンセプトに共感し、想いが合う事業者がいれば参加を積極的に呼び掛けていきたい。

受賞アワード

2022 年　全国産業観光推進協議会・公益社団法人日本観光振興協主催
「第 14 回産業観光まちづくり大賞」 金賞受賞
2023 年　全国商工会議所きらり輝き観光振興大賞　優秀賞受賞
第７回ジャパンツーリズムアワード　入賞

INNOVATION

「こまつものづくり未来塾」の活動から生まれる、協業の兆し

GEMBA モノヅクリエキスポは、第 14 回産業観光まちづくり大賞にて金賞を受賞するなど、地域に大きな影響を与えている。その成果の裏には運営主体である「こまつものづくり未来」の活動がある。こまつものづくり未来塾は、2019 年に開催した、産業観光関係の事業者が中心の「南加賀産業観光ワークショップ」から始まり、2020 年には九谷焼関係者を中心としたオープンファクトリー「GEMBA」プロジェクトが始動。その後、九谷焼産業以外の事業者も参画し「こまつものづくり未来塾」が 2021 年６月に発足。

また、未来塾では、活動の大きな軸として、有識者や外部講師を招いた、会員制の交流ビジネスサロン「GEMBA サロン」を定期的に開催。異業種交流による協業や新たな事業創造を目指している。

こうした活動を継続した結果、2022 年のプログラムでは、酒造メーカーと九谷焼事業者がコラボして、絵付けした酒器でお酒の飲み比べを行う、といった体験プログラム「九谷焼作家ものの酒米で愉しむ GEMBA 限定地酒と九谷焼のタベ」が生まれた。結果として、横のつながりが深まる有意義な機会となった。 GEMBA サロン等では、様々な業種の事業者が参加していることから、全体的に上気も向上しており、新しいコラボ商品が生まれそうな兆しもある。

●事務局連絡先
こまつものづくり未来塾　実行委員会事務局
〒923-8650
石川県小松市小馬出町９１番地（小松市交流推進部観光交流課）
TEL　0761-24-8076

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

OGURA HISAHIDE
小倉 久英 氏
小倉織物株式会社 代表取締役
こまつものづくり未来塾実行委員長

小倉織物株式会社は、明治 28 年創業、100 年以上続く老舗の織物会社である。

そのシルクジャガードは世界でも愛されている。小倉氏は兼ねてより、小松市内の祭り等に積極的に参加するなど、地域の発展を願い、活動してきた。地元地域からの信頼も厚い。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

こまつものづくり未来塾 副委員長
宮本 淑博氏
宮創製陶所株式会社 代表取締役

こまつものづくり未来塾 委員
白榮 洋和 氏
ダイエー株式会社 専務取締役

こまつものづくり未来塾 委員
酢馬 慶太 氏
IRON WORKS KORU 代表

こまつものづくり未来塾 委員
大西 俊則 氏
大西石材 代表

こまつものづくり未来塾 委員
松井 優太 氏
ユゼン合同会社 代表取締役

（2023 年 12 月現在）

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

小松市交流推進部観光交流課

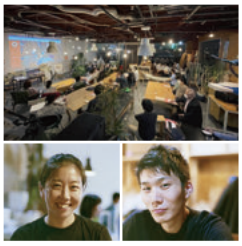
地域おこし協力隊　2 名

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS
EATLAB 株式会社

総合窓口や体験プログラムの取材・記事執筆を担当。同社は、小松市に深く密着した活動を展開。市内でコワーキングスペースを運営し、地域でのネットワークも幅広い。



TRIGGER & STORY

誕生秘話

小松市は、観光地・金沢市と一大温泉地として知られる加賀市に挟まれている。交通の要所でもあり、様々な工場や職人が存在することで伝統工芸が現在まで受け継がれている。小松製作所をはじめとしたモノづくりのまちでもあり、こうした地域資源を活川することで、観光の目玉となるような産業を模索していた。

2020 年度の南加賀産業観光ワークショップ等にて先進地（燕三条工場の祭典や RENEW 等）の視察を実施し、観光産業への学びを深めた。「学ぶだけ」だった状態から、2021 年は行動に移す時期とするべく、2021 年 6 月にこまつものづくり未来塾を発足。同年 11 月に【第 1 回】のオープンファクトリーの開催に至った。

TOPICS

2023 年の開催コンセプトひらけこまっ！「ひらいて、みよう、こまつのすごいモノヅクリ」

2023 年の開催コンセプトは「ひらいて、みよう、こまつのすごいモノヅクリ」このコンセプトのもと、GEMBA モノヅクリエキスポ 2023 では、「当社の製造力を活かして新しい商品を一緒につくれないか」や「うちの工房の後継者にならないか」といった課題に対応する、計 47 のプログラムを展開。プログラムを通して、ものづくり企業が自ら消費者、デザイナー、メーカーなどに自社の技術や製品をプレゼンテーションできる場を作り出す、あるいは企業と消費者が直接つながることで化学反応を発生させ、新たな収益源を確立させることを目指している。

（写真）工場見学・ワークショップ体験の様子

2014 年〜

岐阜県関市

関の工場参観日

CORE VALUE

切り開こう、工場の新しい未来

EVENT DATA

開始年　：2014 年
開催回数：10 回
開催期間：11 月頃
参加企業：50 社（2023 年）
来訪者数：約 4,600 人（2023 年）
主催　　：関市
企画運営：関の工場参観日実行委員会

FEATURES

世界三大刃物の産地で開催する工場見学

世界 3 大刃物の産地として名高い岐阜県関市で行われる、刃物産業をはじめとした「ものづくりのまち・関市」の工場を広く開放するイベント。

メインコンテンツである工場見学やワークショップでは、迫力のある機械や職人の熟練の技を間近で見ることや、多種多様なものづくりを実際に体験することができる。さらに、イベントのインフォメーション会場となる「せきてらす」では飲食が楽しめるマルシェや、工場が作った製品を購入できる「SEKI SELECT STORE」も展開。そのほか、複数の工場を巡る企画としてバスツアーやスタンプラリー、ものづくりやまちづくりをテーマとしたトークイベントなども実施している。

FUTURE

全国から来てもらえるようなイベントに

今後の目標は、まだ「関の工場参観日」を知らない人に、イベントや関市の企業を知ってもらうきっかけを作り、市内外から足を運んでもらうこと。そのため、プレイベントの開催や、市外のイベントへの出店、参加企業と協力した SNS などでの情報発信を行っている。

メイドイン関の製品は広く世界に出荷されている。しかし、その製品が関市の工場で作られていること、また最終製品に至る前の段階の部品製造や加工などいわゆる B to B の工場が関市のものづくりを支えていることが、まだ関市民にも十分には知られていない。ものづくりのすばらしさを市民にしっかり伝え、関市のシビックプライドの向上につなげたい。

受賞アワード

2022 年　「第 14 回 産業観光まちづくり大賞」奨励賞　受賞

INNOVATION

毎年新たなコンテンツや広報に挑戦

2023 年に 10 回目の開催を迎えた「関の工場参観日」。毎年新たなコンテンツや広報を実施し、イベントの魅力の向上や、関市のものづくりの周知を図っている。

特徴的な取組の 1 つが「工場夜話」。工場で働く人をゲストにしたカジュアルなトークイベントだ。会場の「せきてらす」で観覧できるだけでなく、YouTube でライブ配信も行っている。オンラインコンテンツを行うきっかけとなったのは、2020 年のコロナ禍でオンライン開催に踏み切ったこと。現在では現地に足を運べない方にも工場参観日を楽しんでもらうコンテンツとなっている。

2022 年からはプレイベントとして夏に実行委員会が企画する「工場 FES」も開催。ワークショップ体験を中心としたイベントで、11 月の本イベントを PR している。夏休みの期間中とあって多くの親子連れが訪れた。

2023 年の試みとしては、「せきてらす」を工場参観日仕様に装飾。メインビジュアルに使用している蛍光グリーンと「切る」をイメージした直方体で会場中を彩るとともに、工場のユニフォームの試着ブースやフォトスポットを設け、参加者が写真を撮ったり、SNS で発信したくなる仕掛けを作った。さらに、参加企業をはじめ、誰でも参加できるカジュアルなレセプションを開催。関市長と歴代実行委員長をゲストに迎えたスペシャルトークイベントも実施し、飲食を楽しみながら参加企業同士の交流が図られるとともに、これまでとこれからの「関の工場参観日」を語り合う機会となった。

●事務局連絡先
関の工場参観日実行委員会（関市役所産業経済部商工課）
〒 501-3894
岐阜県関市若草通 3 丁目 1 番地
TEL 0575-22-3131

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

SHIMADA AYUMI

島田 亜由美 氏

株式会社杉山製作所 代表取締役
関の工場参観日実行委員会
初代委員長 / 第 10 回委員長

“鉄の可能性”を理念として「鉄家具」アイアン建材「FiT」や店舗什器「KEBIN」といったブランドを立ち上げ、誇りの持てるモノづくりを大切に鉄製品の製造をしている。ものづくりのまち・関市を市内外に発信していこうと、関の工場参観日の発足に関わり、委員長退任以降も実行委員会に所属。第 10 回の関の工場参観日では再び実行委員会の委員長を務めた。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

長谷川 智広 氏

丸章工業株式会社 代表取締役社長

参加工場の有志等で結成される「関の工場参観日実行委員会」で歴代最長の委員長を務めた。

関の工場参観日実行委員会

参加事業者の有志や市役所、リトルクリエイティブセンター、広報担当者などにより組織。イベントの企画や企画の方向性、具体的な事業について話し合う。

株式会社リトルクリエイティブセンター

「関の工場参観日」の企画・運営やデザインに携わり、事業所や市役所と意見を交わしながら、より求心力の高い全国規模のイベントへの実現を図る。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

関市役所 商工課

「関の工場参観日実行委員会」のとりまとめや参加事業所との連絡などを行う。参加事業所と共に、前例のない取組にも柔軟に関わる。

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

参加企業

刀や包丁、はさみといった刃物メーカーはもちろん、機械部品、金属加工、産業用機械、建築、印刷、食品、運輸など、多種多様なものづくりにかかわる 50 の企業が参加。(2023 年)

TRIGGER & STORY

誕生秘話

関市は日本一の刃物の産地として知られ、「ものづくりのまち」として発展してきた。しかし、若者の市内企業や地場産業への関心は低く、従業員の高齢化、職人の後継者不足、技術の継承が深刻な地域課題となっている。そこで、関市の誇る事業所の高い技術力や高品質な製品を、市民をはじめ多くの人々が直に体感でき、個性的な経営者や職人と接しながら製品の知識を深めることで、地元企業の魅力を再認識してもらうとともに、まちに誇りや愛着を持つ心を育む機会としたいと考え、「関の工場参観日」が始まった。

TOPICS

参加事業者や市役所職員などが本音で語り、共に考える

関の工場参観日では、「関の工場参観日実行委員会」という参加事業者の有志や市役所などが参加するチームが、企画や運営の中心を担っている。1～2ヶ月に 1 度開催される実行委員会では、企画の方向性や具体的な事業について、参加事業者や市役所職員などがそれぞれフラットな立場で知恵を出し合い、意見をかわしながら、イベントの実現を目指す。

(写真)「工場夜話」、会場の様子等。

2021 年〜

愛知県一宮市、愛知県津島市、岐阜県羽島市を中心とする尾州エリア

ひつじサミット尾州

CORE VALUE

着れる、食べれる、楽しめる。ひつじと紡ぐサステナブルエンターテイメント

EVENT DATA

開始年　：2021 年
開催回数：4 回（内プレ開催 1 回）
開催期間：10 月下旬頃 /2 日間
参加企業：36 社（2023 年）
来訪者数：約 24,000 人（2023 年）
主催　　：ひつじサミット尾州 実行委員会

FEATURES

世界三大毛織物産地「尾州」を体感

「天然のエアコン」とも呼ばれる機能性を持ち、炭素排出や海洋汚染の面でも環境負荷の少ないサステナブルな素材、ウール。ひつじサミット尾州は、そんなウール生地の産地「尾州」（びしゅう / 尾張地方の古い呼び名）で工場見学やワークショップ、ショッピングや美味しい飲食など、「着て、食べて、楽しみながら」その持続可能性を体感できる、サステナブルなエンターテイメントイベント。

尾州の繊維事業者に留まらず、地域に根ざした企業や飲食店はもちろん、地域外のウール関連事業者（羊飼いやカーペットメーカー等）も参加し、世界三大毛織物産地と言われる「尾州」を様々な視点から体感できる。

FUTURE

一過性のイベントを超えて、産地コミュニティへ進化

使い手と作り手が繋がる目的で始まった産業観光イベント「ひつじサミット尾州」であったが、3 年にわたる企画準備や相互工場見学を通して、作り手同士の信頼関係が強まり、年に一度のイベント開催だけに留まらず、経営課題を共有し、互いに高めう心理的安全性の高い産地コミュニティへと進化してきた。

具体的には、経済産業省の支援も活用して「尾州・繊維産業 DX 推進コミュニティ（通称：ひつじ DX）」を立ち上げ、経営者だけでなく現場社員も含めて企業の壁を超えてデジタル活用や事業変革についてディスカッションを行い、日々の IT ツールと毎月の交流会を通してプロジェクトの進捗を共有することで、「製造」「販売」「管理」の全ての面で参加各社の DX を大きく進めた。

今後もこの大きな流れを継続し、尾州産地を未来へと紡いでいきたい。

受賞アワード
2023 年　第 10 回繊研天然繊維特別賞

INNOVATION

自分たちの産地に閉じず、他地域との交流や協賛パートナーとの連携を強化

3 年目となる 2023 年は、「ひつじカンファレンス with POTLUCK CARAVAN」と題して、地域活性化リーダーに全国から集まってもらい、地方創生をテーマにトークイベントを開催した。本イベントには北海道から九州まで 100 名が参加。ロフトワーク創業者の林千晶氏、ナイトタイムエコノミー協会理事で立教大学の客員教授も務める永谷亜矢子氏、九州こゆ財団の齋藤潤一氏、「こんまり」プロデューサーの川原卓巳氏など第一線で活躍するリーダー 20 名に登壇いただき、尾州地域の若手人材と相互交流する機会を創出した。

また、カンファレンス開催に際して JR 東海と三井不動産（東京ミッドタウン八重洲）とコラボし、新幹線「ひかり」を一両貸切にして東京駅から岐阜羽島駅まで「移動もコンテンツ化」するという、全国初となる先進的なチャレンジを行った。非日常体験となり、参加者の満足度も大変高かった上に、東京を中心とした関東圏からの集客にも寄与し、尾州ウールの全国への認知度拡大に繋がった。

上記に加え、初期からの協賛パートナーである瀧定名古屋、豊島、モリリンといった繊維商社との連携を強化し、「ビジネスデー」と題して、本イベント開催前に若手社員向けのミニ・オープンファクトリーを開催した。平日でかつ人数を絞ることで具体的で専門的な内容を伝えることができ、今後のビジネス展開への繋がりも期待している。

●事務局連絡先
三星毛糸株式会社　未来創造室　ひつじサミット尾州事務局担当
〒 501-6228
岐阜県羽島市正木町不破　色字堤外 898
hitsuji.summit@gmail.com

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

IWATA SHINGO
岩田 真吾 氏
三星グループ 代表
ひつじサミット尾州 代表発起人

1981 年生まれ。慶應義塾大学法学部卒業。三菱商事株式会社、ボストン・コンサルティング・グループを経たのち、2009 年三星毛糸株式会社・三星ケミカル株式会社に入社。2010 年に三星毛糸株式会社、2016 年に三星ケミカル株式会社の代表取締役社長に就任。毛織物産業、尾州産地の未来に危機感を持ち、ひつじサミット尾州を発案。賛同する 10 名の発起人とともに、産地の発展に貢献している。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

2022 年度実行委員長
宮田 貴史 氏
宮田毛織工業株式会社 部長

2022 年度実行委員長
伴 昌宗 氏
伴染工株式会社 専務取締役

実行委員会メンバー

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

クリエイティブディレクション
浅野 一平 氏
プランニングオフィス・ラグーン有限会社
代表取締役社長

会計担当
三嶋 啓一郎 氏
三嶋公認会計士事務所

ビジネスデー担当
木村 将之 氏
中隆毛織株式会社

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

株式会社マクアケ 共同創業者／取締役
坊垣 佳奈 氏
＜マクアケプロジェクト＞
参加事業者の新商品デビューのプロジェクトサポートなど、ファクトリーブランドの立ち上げを支援。

株式会社 LEO 代表取締役 CEO
なごのキャンバス 企画運営プロデューサー
粟生 万琴 氏
ZIP-FM との共同制作番組「Startup [N]」にてナビゲーターを務める。7 週連続ひつじサミット尾州参加事業者をゲストに紹介。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

コロナ禍により繊維業界も多大なダメージを受けていた。外出を控え、在宅ワークが増える中、スーツやおしゃれな服を着る人も減る等の要因で、売上は 5 割減に。仕掛け人の岩田氏は、自分たちだけが良ければいいという考えではなく、産地の事業者同士助け合う必要性を大きく感じていた。産地全体の活性化に繋がる、大きなムーブメントを起こしたいという想いを募らせていく。跡継ぎ仲間 2 人を呼び、ジンギスカンを食べながら自身の考えを伝え、一緒に取り組まないか尋ねた。断られたら一人でも進めるつもりでいたが、快諾するとともに「絶対他にもやりたい人がいる」と勇気づけてくれた。他の事業者にも声をかけ、想いに賛同する 11 名の発起人が集まり、ひつじサミット尾州に向けた取組がスタートした。

TOPICS

「ひつじ」に込めた思い

「ひつじサミット尾州」の「ひつじ」には、ふわっとゆるやかに包み込む想いが込められている。イベントでは、北海道から羊飼いを呼び、トークショーも開催。そこでは、丸焼きした羊をさばきながら、食育について学んでもらう時間も設けた。他にも、東京からジンギスカン屋に来てもらうなど、元々関わりのなかった畜産系や飲食系の人達とも「ゆるいつながり」を持つことが出来た。対象を絞るのではなく、「ゆるくつながる」ことが大切だと考えている。また、色々な年齢層にひつじ年の人がいるので、数年後となる「ひつじ年」は大いに盛り上げたい、そんな想いも込められている。

（写真）工場見学・ワークショップ体験の様子、地域飲食店でのコラボメニュー等

2017 年～

三重県三重郡菰野町

こもガク

CORE VALUE

こものの未来を考え続けるために もっとこものを学ぶこと

EVENT DATA

開始年　2017 年
開催回数：8 回
開催期間：例年 10 月頃 / 2 日間
参加企業：59 社（2023 年）
来訪者数：約 6,000 人（2023 年）
主催　：こもガク祭実行委員会

FEATURES

もっと菰野を学ぶ場「こもガク」

菰野町の未来を学び続けるために、もっと菰野を学ぶ場が「こもガク」。新しく菰野町に住む人が増える中、本当の菰野町を知らない人が増えている。古くから住んでいる人たちと、新しく入ってきた人たちとの関係を深めるため 、また菰野町の深さをもっと知ってほしいと開催。主体的に町のことを考える人を増やしたい！という想いがある。2022 年は、オープンファクトリーの他、こもガク塾、ファーマーズマーケット、こもガク食堂を主なコンテンツとして開催。

FUTURE

皆が誇りを持つまち菰野町を目指して

体験やものづくりの現場紹介を通じて、地域のことや事業内容を知っていただきたいという想いは、参加事業者の共通した想いであり、将来、若い世代の就労につながればという願いもある。最終的には各事業者が力をつけ、町民もこの町を誇りに感じ、それを町内外に向け発信する事で菰野町に関わりをもつ人が増えることを目的とする。菰野町には、他の地域のようにわかりやすい産業があるわけではない。それでも、より菰野らしい「こもガク」を、やり方を模索しながら、これからもっとうまく伝えられるようになればと考えている。

●事務局連絡先

こもガク祭実行委員会事務局（菰野町商工会）

TEL 059-393-1050

INNOVATION

「こもガク祭」で終わらない

「こもガク」での取組がきっかけで、様々な変化が生まれている。参加事業者がそれぞれの事業内容について理解を深め、異業種間での交流やコラボ商品の開発やコラボイベント、様々な情報交換なども行われるようになってきた。

また、メディアへの露出増加、地域外からの集客の増加により、売上増加につながったり、オープンファクトリーを通じて企業への理解を深めた結果、新卒者採用に至ったケースも生まれている。

事業者自身の変化も大きい。例えば、2020 年のオンライン開催をきっかけに初めてオンラインに取り組んだ事業者が、自社の事業に取り入れ、オンラインワークショップの定期開催、オンラインショップの開設、SNS による積極的な発信など新しい動きが加速している。

他にも、こもガク塾でのワークショップを通して、オリジナル商品の可能性を見出し、商品企画・販売スタートに至った事例もある。もともとは BtoB ビジネスを展開する企業であったが、こもガク塾にて、新幹線のパーツを制作するワークショップを開催。ワークショップ開催をきっかけに、オリジナル商品の可能性を見出し、子どもでもパーツを組み立てられる金属模型キットを開発、販売をスタートした。「こもガク祭」開催期間以外にも、徐々に日常への波及効果が増えつつある。（右図）

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

YAMAGUCHI NORIHIRO

山口 典宏 氏

有限会社山口陶器　代表取締役

株式会社菰野デザイン研究所　代表取締役

地元の大手化学メーカーで会社員を経験した後、2003 年萬古焼の窯元である家業の（有）山口陶器に入社。2010 年代表に就任した後、今までの萬古焼にない現代的なデザインや新しいライフスタイルの提案に挑戦するなど新分野を開拓し、2014 年オリジナルブランド「かもしか道具店」を立ち上げた。また産地を残すために産業観光の必要性も感じ、地域事業者の有志と共にこもガク実行委員会を立ち上げ「こもガク祭」を開催。委員長就任中は「こもガク×大日本市博覧会」を収めるなど、活動の場を広げながら現在も地域の一番星として産地を次世代に残すための活動に力を注ぐ。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

稲波　伸行 氏

株式会社 RW 代表取締役 /
株式会社菰野デザイン研究所 取締役

菰野町生まれ。大学卒業後フリーランスとして独立し、2008 年 RW 創業。2012 年より株式会社 RW として法人化。企業や事業の価値の再定義に伴走し、ミッション・ビジョンの構築や新規事業の立ち上げ、事業の運用までサポートしている。

広報担当

堀 麻里子 氏

（株）菰野デザイン研究所

デザイン制作担当

森屋 律子 氏

（株）菰野デザイン研究所

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

歴代実行委員長

2 年毎に選出される実行委員長。前年度の委員長が 1 年、次年度の委員長が 1 年副実行委員長として現委員長を支える。

菰野町商工会

商工会会員や出店者との連絡・調整担当

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

地元有志の実行委員メンバー

地元の事業者でもある有志メンバーで構成。こもガク祭閉幕の都度解散し、翌年より新結成される。数年前より名古屋の芸大生もボランティアとして参加。地元企業とのコラボ作品や、学生独自目線でこものを表現した学生の取組みを発表する場にもなっている。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

菰野町には湯の山温泉があり、観光地ではあるものの " 泊まり場 " にとどまっており、町内に魅力的なコンテンツがあってもそれぞれが点となっており、線でつながっていないという事の課題認識があった。また菰野町の人口が増加する中で、人間関係が希薄な点も課題であった。その一方で、魅力ある事業者の存在等、町のポテンシャルも感じていた。「どうすれば菰野町の魅力を感じてもらえるか。菰野町へ新しく来た人にも町を知ってもらいたい。」そうした思いから、2016 年に実行委員会が発足、2017 年に活動がスタートした。

TOPICS

開催スタイルの変化

2022 年からは、メイン会場を菰野町町民センター / 体育館に集結する形とし、本部からオープンファクトリーや現地参加必須の塾を案内するスタイルに進化。会場でプチ体験、PR をすることで、事業所でのプログラムやこもガク塾への参加を促す。また、町内の事業者の訴求に注力するため、参加事業所を「菰野町内」に限定した。

（写真）：工場見学、ワークショップ、こもガク塾等の様子

2015 年〜

福井県鯖江市、越前市、越前町

RENEW

CORE VALUE

来たれ若人、ものづくりのまちへ。

EVENT DATA

開始年　：2015 年
開催回数：9 回
開催期間：例年 10 月頃 / 3 日間程度
参加企業：94 社
来訪者数：延べ 3 万 1 千人（2023 年度）
主催　　：一般社団法人 SOE

FEATURES

持続可能な地域づくりを目指す工房見学イベント

「RENEW（リニュー）」は、福井県鯖江市・越前市・越前町で開催される、持続可能な地域づくりを目指した工房見学イベント。

2015 年に福井県鯖江市河和田地区で始まった産業観光イベント。会期中は普段出入りできないものづくり工房の見学を通じて、作り手の想いや背景を知り、体験しながら商品の購入を楽しむことができる。現在は鯖江市・越前市・越前町の 7 つの産地、半径 10km 圏内で開催、国内最大規模のオープンファクトリーイベントに成長している。

FUTURE

越前鯖江エリアを日本一の産業観光地域に

2022 年は、持続可能な地域をつくるという目標に向け、次のステージに進んだ大きな転換期であった。越前鯖江エリアを日本一の産業観光地域にするという新たな目標のもと、2022 年 7 月に RENEW 実行委員会を法人化し、越前鯖江エリアの産業観光地域づくりを担う、「一般社団法人 SOE」に進化を遂げる（SOE：Sustainability of ECHIZEN）。通年型産業観光推進、宿泊施設の運営、各種スクールの運営、RENEW の運営等を担い、将来的には移住促進や二次交通の整備も目指していく。

受賞アワード

2019 年 総務省ふるさとづくり大賞 総務大臣表彰（団体部門）
2019 年 日本デザイン振興会 グッドデザイン賞受賞
2020 年 総務省ふるさとイベント大賞優秀賞（地域活性化センター会長表彰）
2020 年 国土交通省地域づくり表彰最高賞（国土交通大臣賞）
2021 年 第 11 回地域再生大賞（東海・北陸ブロック賞）
2021 年 FBC かがやき基金　かがやき大賞
2023 年 ふるさと名品オブ・ザ・イヤー地方創生賞

INNOVATION

「若くて元気な産地」が着実に浸透

RENEW 開催をきっかけに、越前鯖江エリアには 35 社の新規店舗がオープンし、日本一のファクトリーショップ集積地となっている。産地企業の機運が醸成されるとともに地元民の郷土愛も高まり、産地での意識に変化が生まれている。また 50 名の雇用を創出したことも大きな成果である。

最近では年によって、全国のプレイヤーを集める「まち / ひと / しごと」をはじめとしたプロジェクトや、ものづくりに携わる企業とものづくりを志す若者が出会い、互いを知り未来への関係性を育む「産地の合説」も開催しており、これら取り組みをきっかけとする移住者は 10 名以上にのぼる。

また、2020 年にはサポートチームとして「あかまる隊」を結成し、現在も 80 名近くが参加している。半数は県外のサポーター、学生が大半だが、社会人も含まれるなど、RENEW をきっかけにつながった人と人の輪は、着実に広がりつつある。

広域の観光を推進する新たな取り組み

RENEW は「更新する」という意味から名前をつけているため、毎年新しい取り組みを続けている。2023 年は、開催地 3 市町のタクシー営業圏域解除の特例を全国で初めて活用した「RENEW タクシー」の導入により、主に県外客の観光の足を円滑化する取り組みとなった。また、ふるさと納税払いシステムを活用した「チョイス Pay」を今年初めて導入し、お買い物やお食事、体験などのお支払いに 1 ポイント 1 円として利用できる『体験型ふるさと納税』を鯖江市で実験的に実施した。

●事務局連絡先
一般社団法人 SOE
〒916-1223
福井県鯖江市片山町 7-10-4
TEL　0778-78-9967

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

NIIYAMA NAOHIRO

新山 直広 氏

TSUGI LLC.（合同会社ツギ）代表
RENEW ディレクター
一般社団法人 SOE 副理事

1985 年大阪府生まれ。2009 年鯖江市に移住。応用芸術研究所を経て、鯖江市役所在職中の 2013 年に TSUGI を結成。地域特化型のインタウンデザイナーとして、地域や地場産業のブランディングを行う。また、産業観光イベント「RENEW」の運営をはじめ、めがね素材を転用したアクセサリーブランド「Sur」、福井の産品を扱う行商型ショップ「SAVA!STORE」など、デザイン・ものづくり・地域といった領域を横断しながら創造的な産地づくりに取り組む。一般社団法人 SOE 副理事。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

RENEW 実行委員長
谷口 康彦 氏

有限会社谷口眼鏡 代表取締役社長
福井県眼鏡協会 会長 / 一般社団法人 SOE 顧問

RENEW 立ち上げ期より「持続可能な地域づくり」を強力に推進してきた。

RENEW 事務局長
山田 美玖 氏

一般社団法人 SOE

1995 年愛知県出身。住宅会社勤務を経て、2021 年 RENEW をきっかけに福井県鯖江市に移住。

あかまる隊

県内外の約 80 名からなる、RENEW と産地のサポーターチーム。SNS の運営や工房見学ツアーのコーディネートなど、RENEW と産地を広く支える。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

RENEW 事務局
平田 藍莉 氏

RENEW 事務局
西山 ほゆ 氏

RENEW 事務局
佐野 響 氏

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

特別協力：福井県、鯖江市、越前ものづくりの里 プロジェクト協議会、めがねのまち鯖江元気再生協議会、株式会社中川政七商店

協賛：越前漆器協同組合、一般社団法人福井県眼鏡協会、福井県和紙工業協同組合、越前打刃物産地協同組合連合会、越前焼工業協同組合、越前指物協同組合、鯖江商工会議所、福井銀行、福井信用金庫、福邦銀行、越前市商工会、株式会社土直漆器、株式会社 Hacoa、株式会社漆琳堂、株式会社ヤマト工芸、株式会社サカエマーク、有限会社谷口眼鏡、株式会社ボストンクラブ、株式会社乾レンズ鯖江支店、株式会社キッソオ、TSUGI

協力：公益財団法人ふくい産業支援センター、越前市、越前町、JR 西日本福井営業支店、楽天トラベル

後援：日本商工会議所

TRIGGER & STORY

誕生秘話

約 200 の越前漆器工房が集積する「うるしの里」福井県鯖江市東部の河和田地区。仕掛け人となる新山氏は、移住してきた際、衰退する漆産業の厳しい現実を目の当たりにし「このまちに足りないものはデザインだ」と考えデザイン事務所を設立。一方この地に住み、以前から自主的にまちの未来のための活動を行っていた谷口康彦氏も、まちの未来に危機感を持っていた。そして 2015 年のあるときに二人が出会い、新山氏が構想した活性化の方策「産業観光 RENEW 企画」に谷口氏が共感・賛同する。その後両氏は、地域の工房に地道に足を運び参加を呼びかけ、21 社の事業者が集まった。こうして二人の情熱とともに、第 1 回目の RENEW が始まったのだった。

TOPICS

RENEW/2023 特別企画

RENEW/2023 では、会期中に「まち / ひと / しごと -Localism Expo Fukui-」が同時開催された。「ものづくり・暮らし・食・教育・福祉・コミュニティ・IT・防災」をキーワードに、全国各地でアクションを起こすローカルプレーヤーが集うショップ型博覧会。展示・販売・トークイベント・ワークショップを通して、当事者から直に想いやストーリーを聞きながら、これからの地域のあり方、暮らしのあり方を捉え直し、これからの「生きる」について考えている。

（写真）工場見学・ワークショップ体験の様子等

プロフィール以外の写真：PHOTO by Tsutomu Ogino（TOMART:PhotoWorks）

2018年〜

福井県越前市

千年未来工藝祭

CORE VALUE

CoNEXTion（共につながる）

EVENT DATA

開始年　：2018年
開催回数：5回
開催期間：例年8月頃 / 2日間程度
参加企業：約163展 (2023年)
来訪者数：約12,000人（2023年）
主催　　：クラフトフェス実行委員会

FEATURES

「モノづくりのまち」越前から工藝の魅力を発信

越前市では、長い伝統と歴史を有する、越前和紙、越前打刃物、越前箪笥が、今もまちの文化・生活を支えている。千年未来工藝祭は、若者たちに、作り手の技や製品、人柄に触れ、工藝や手仕事を身近に感じてもらうとともに、次世代への継承のきっかけづくりを目指すイベント。

コア・バリューであるCoNEXTionは、「繋がり」という意味の“Connection”をもとに「共同で次の次元に動かそう」という意味が込められている。世界に誇れる「モノづくりのまち」越前市から工藝の魅力を伝えていく。

FUTURE

千年未来工藝祭をアジア一帯の中心的な工藝の祭典にする

2023年は、会場全体で163ブースが集合し、クラフト展示販売、ワークショップ、ローカルフード・ドリンク販売、国際工藝シンポジウムなどを実施し、多くの登壇者と共にディスカッションを行った。このことにより県外、海外からの来場者も増え、子どもから大人向けまで充実したコンテンツで開催出来た。今後も、日本をはじめ、台湾、香港、韓国との連携を中心に欧米との連携も進め、アジア一帯における中心的な工藝祭となるよう、取り組みを強化していきたい。

また、2025年の大阪・関西万博を1つの目標として、近畿経済産業局との連携も強化して、海外の方達に日本の工藝の聖地である越前を認知してもらえるように動いていきたい。

INNOVATION

参加企業間・産地間・消費者とのつながりが生まれる場

参加企業同士の連携として、打刃物のケースを箪笥屋が作るなど、業種を超えた事例が生まれている。従来、市内3産地（越前和紙・越前打刃物、越前箪笥）については、横の交流は少なかったが、千年未来工藝祭という場の存在により、新しいつながりが生まれている。

また、千年未来工藝祭は、B to Cを意識したイベントとなっており、一般の消費者やファンと触れる機会が生まれているため、職人たちの意識改革にも繋がっている。これは自社にアンテナショップを持っていても、一般客がふらりと立ち寄るような機会は少ないという地域課題を解決する機会ともなっており、千年未来工藝祭に参加することが、普段はかかわりの少ない客層に出会える貴重な機会となっている。

未来を担う若手の育成という点では、実行委員長は、若手職人から毎年交代で選ばれている。加えて、2021年からはじまった越前市伝統工芸三産地の若手職人が集まり、自らのアイデアで製作した作品を実際にユーザーに手に取ってもらう若手チャレンジプロジェクトも継続。お客さんの声が、産地の未来を担う若者の意識醸成や課題発掘の貴重な機会になっている。

●事務局連絡先

株式會社ヒュージ

〒915-0225　福井県越前市別印町2-51
Email:info@hudge.jp

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

UCHIDA HIROKI

内田 裕規 氏

株式會社ヒュージ 代表取締役

千年未来工藝祭プロデューサー

株式會社ヒュージ代表。2003年から活動を開始し、デザイン、ブランディング、リノベーションを軸に企業から行政案件までクリエイティブな思考で社会課題解決に取組んでいる。自社の取組として文化創造拠点「FLAT」、工芸を繋ぐ場「CRAFT BRIDGE」といったリノベーションによる拠点づくりのプロデュースをしている。

他に、越前市観光協会のインバウンド対応クリエイティブディレクション、越前市創造都市加盟戦略委員、越前鯖江デザイン経営スクール講師、北陸古民家再生機構理事など。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

実行委員長

戸谷 祐次 氏

Sharpening four　代表　伝統工芸士

委員の様々な意見を汲み取りながら、委員長として主体的に取り組み、当日は実行委員長としての任務に徹した。

副実行委員長

山口 真史 氏

山伝製紙株式会社

運営会議にて積極的に指揮を取り、開催準備や設営、オンライン配信など様々なコンテンツを実行に導いた。

副実行委員長

山口 祐弘 氏

ファニチャーホリック　代表

初年度から運営会議に参加し、出展者集めに尽力していただいている。自ら出展しながら出展者目線での意見も反映していただいている。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

クラフトフェス実行委員会 ワーキングメンバー

戸谷 祐次 氏 / 山口 真史 氏 / 山口 祐弘 氏 / 瀧 英晃 氏 /
清水 聡 氏 / 山田 伸一 氏 / 野村 一樹 氏 / 前澤 峻 氏 / 小柳 勇貴 氏

ともにあゆむ

OTHERS

越前市

「クラフトフェス実行委員会」の実行委員メンバーの一員。
伝統産業を始めとする地域産業の事業者向けに、「越前ネクストクラフト事業」を企画・運営。販路やモノづくりの思考法を学ぶ「越前ものづくり塾」等の開催を進め、伝統工芸の若手職人を中心に、新たな商品開発や販売チャネルの開拓に寄与。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

越前市では、地域産業の事業者間の連携強化や販路開拓を目指す場、またモノづくりの思考を学ぶ場として、「越前ものづくり塾」が開催されてきた。ものづくり塾により成果も生まれ始め、2015年にスタートした隣町の鯖江市のRENEWに、越前市内の工房も参加したり、首都圏等への展示会へ共同出展する中、産地及び自社のPRやブランドを構築する必要性が認識され始める。そうした中、内田氏にクラフトマーケットプロデュースの依頼があり、コンセプト・コンテンツを検討。「作り手の想いと技術を千年先まで繋げたい」という想いのもと、越前市内の3つの産地の若手代表等と市が手を取り合い、「クラフトフェス実行委員会」が新たに組織化され、2018年、第1回千年未来工藝祭開催に至った。

TOPICS

「国際工藝シンポジウム」の誕生

千年未来工藝祭は世界に誇れる「ものづくりのまち」越前市から、人、技、地域、過去から現在、そして未来をつなぐ。様々な点を繋ぎ、結び付けることがこの工藝祭の最大の目的であり、地域を越えて、人種を越えて手と手を取り合い叡智のアップデートをみんなで実現させる事がコンセプトである。新しく誕生したコンテンツ「国際工藝シンポジウム」は、手仕事の未来への共創をテーマに、工藝、手仕事、産業観光、商品開発、広報戦略、越境などの切り口で諸外国の様々な国の有識者や実践者によるディスカッションを行った。

それにより、国を越えて作り手同士が繋がり、新しい商品やサービスの創造といった様々なプロジェクトも生まれた。今後は香港、台湾から韓国、欧米へともっと繋がりを広めて行く予定だ。

（写真）開催の様子等

2016 年〜

京都市内よりスタートし、京都府全域へ拡大

DESIGN KYOTO / DESIGN WEEK KYOTO

CORE VALUE

京都の文化を
地域の担い手たちが進化させる

EVENT DATA

開始年　：2016 年
開催回数：8回
開催期間：オープンサイトイベントは 2024 年より地域別・ターゲット別に通年で定期開催予定
8月末頃にカンファレンスイベントとして「DESIGN WEEK KYOTO」を開催
参加企業：74 社（2023 年 12 月現在）
来訪者数：約 2,200 人（2022 年実績）
主催　：（一社）Design Week Kyoto 実行委員会
※ 2024 年より（一社）DESIGN KYOTO に改称予定

FEATURES

ものづくり現場での担い手との交流によって京都の文化を進化させる

京都府内各地のものづくりの現場で、国内外から訪れる多様な人々と担い手との交流を促進する「オープンサイト」によって新たな繋がりや価値を創出している。

2016 年に京都市で開始し、2019 年には亀岡市・宇治市が加わり、2021 年より丹後地域、そして 2022 年秋より京都府全域に拡大。2023 年からは通年・ターゲット別に実施する形に移行を進めている。担い手同士の交流および自分たちのビジョンや独自性・特徴・地域との関係性を掘り下げ、多くの人に伝えられるようになるためのワークショップ等を実施し、質の高い交流を促している。

2023 年からは、国内外のプロフェッショナル向けの深堀りツアーや研修プログラム、次世代向けに自社のものづくりの魅力を伝えるワークショップ等の造成にも注力している。

FUTURE

日常的に交流が行われているオープンサイト "3.0" へと進化

オープンサイトを年に1 回のイベントではなく、月に1 回など日常的なものへ移行させていく。これにより、次世代の子どもたち向けの地元企業への愛着の醸成や、I・U ターン者に向けた採用活動、関係人口創出、デザイナー・クリエイターとのコラボレーションなど、目的・ターゲット別のプログラム等を実施することを通じて、参加事業者および地域のさらなる発展・活性化を促進していく。

INNOVATION

「出会い」や「自信」から生まれるイノベーション

DESIGN WEEK KYOTO に参加することで、参加企業同士の業種を超えた会話や交流が生まれている。「なんかしよう！」をキーワードに、自主的に交流する機会を持つことを奨励している。そうした交流をきっかけに、「一緒になんかしよう！」というチームが芽生えている。

DESIGN WEEK KYOTO の醍醐味は、多様な出会いやつながりから始まる展開である。既存の組合や取引関係にとらわれず、新しい取り組みやチャレンジに積極的になることが特徴で、これまで、事業者同士の技術を掛け合わせた「漆と螺鈿（らでん）を施した分解できるコントラバス」、「美しい藍染の義肢を入れる正絹金襴の袋」など次々にイノベーションが生まれている。

さらには外部デザイナーとの連携による自社ブランドの開発など DESIGN WEEK KYOTO で得た「気づき」と「出会い」を形にすることで、そうした「経験」が「自信」に繋がり、自社全体のブランディングや認知度の向上につながっている。

こうした成功事例の積み重ねによって、参加企業の自主性も育まれており、さらなるイノベーションにつながる新たなサードプレイスとして機能する場となっている。

●事務局連絡先
一般社団法人 Design Week Kyoto 実行委員会

〒600-8846　京都府京都市下京区朱雀宝蔵町 34 Umekoji MArKEt 3 階
TEL　075-874-2718

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

KITABAYASHI ISAO

北林 功 氏

COS KYOTO 株式会社 代表取締役
文化ビジネスコーディネーター
一般社団法人 Design Week Kyoto
実行委員会 代表理事

「未来のために美しい自然環境と人々が笑顔で過ごせる社会を構築する」ために、地域をフィールドにした人材育成や文化交流プログラムの企画運営を手掛ける。

地域のオープンサイト実施企業が自社の思いを深堀り、他者に伝えられるようになるためのワークショップや、地域と異文化の人々の交流を促進できる『クロスカルチャーコーディネーター』と名付けた中間人材の育成にも取り組んでいる。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

YASUDA NOBUHIRO

安田 伸裕 氏

エリアリーダー
くすおか義肢 執行役員兼製造マネージャー
KYOTO gishi ＊ design Gishi Designer

KATAOKA YUKI

片岡 有紀 氏

エリアリーダー
有限会社 ビゴーレ・カタオカ
VIGORE 企画

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

プロジェクトマネージャー
内橋 伸介 氏

事務局リーダー
北林 佳奈 氏
COS KYOTO 株式会社
取締役

ともにあゆむ

OTHERS

DWK メンバーズ

年間を通じてモノづくりを軸として異分野の人々が交流し合い、お互いを高め合う会員制コミュニティ。

パートナー

京都信用金庫
京都北都信用金庫
Future Spirits
FormMailer
岡村勇毅公認会計士・税理士事務所

チアパートナー

TAKUMADESIGN

TRIGGER & STORY

誕生秘話

京都は、美食を支える農作物や歴史深い工芸をはじめ、先端的な工業や建築等、世界に誇る多種多様なモノづくりが根付いており、府内各所の担い手が豊かな文化と産業を支えている。しかし、それらの現場は一般には閉ざされており、外部の人が現場を知ることや分野を超えた交流はハードルが高いものであった。 2013 年、仕掛け人の北林氏はアメリカ西部にある創造都市ポートランドを訪れ、様々な人々が現場で交流する中で関係を深め、協働して新たなアイデアを生み出して実現していく様子を目の当たりにし、衝撃を受ける。「これこそ京都に必要な取り組みだ」と考え、2016 年に DESIGN WEEK KYOTO をスタート。「本質を守りながらも交わり繋がり合い、時代とともにアップデートする仕組み」を京都につくることが 京都の発展となることを信じて活動を続けている。

TOPICS

今後は毎年 8 月に国際カンファレンスとして「DESIGN WEEK KYOTO」を開催！

2023 年 8 月末に京都リサーチパークを中心とした会場にて、対話プログラムを中心に「DESIGN WEEK KYOTO Food & Fuudo 」を開催。今後は、それをさらに発展させて毎年 8 月に国内外のモノづくりの関係者が京都に集い、"SHOW" へと進化する OPEN SITE での交流と、テーマ別の対話プログラム、深堀りツアーなどの実施を通じて「Evolving "MADE IN KYOTO"」を考える年に 1 回の「祭」を開催していく。

（写真）オープンサイトの様子等

2015年～

大阪府大阪市大正区・港区・西淀川区

大正・港・西淀川オープンファクトリー

ものづくりの街 大正・港・西淀川

CORE VALUE

ものづくりの力を結集して、地域の課題解決へ

EVENT DATA

開始年　：2015年
開催回数：8回
開催期間：例年11月頃/2日間
※2024年・2025年は9月開催予定
参加企業：20社（2023年開催実績）
来訪者数：約100人（2023年開催実績）
主催　　：大正・港・西淀川ものづくり事業実行委員会

FEATURES

行政と民間が自ら「考動」する集合体

大正・港・西淀川オープンファクトリーは、エリアの人口減少を背景に、エリアの魅力を外部に発信するとともに、地域住民が自らのまちに愛着を持ってもらうことを目的にスタート。2023年からは西淀川区が新たに加わり開催した。行政主導で始まったものの、民間企業も同じ目線・熱量で共に企画実施可能な関係性が構築されている点、すなわち「行政色が濃いにも関わらず民間企業も『やらされ感なく』継続している」ことが非常に特徴的である。

さらにはまちの魅力発信を兼ねていることから、地元商店街等も訪問ツアー先に組み込み、地域一丸となって取り組んでいる。

FUTURE

多様な交流でさらなる飛躍へ！

本オープンファクトリーのスタートは、2015年の大正オープンファクトリーにさかのぼる。大正での取り組みがきっかけとなり、関西の他地域の新たな取り組みも生まれてきた。さらに、研究者、ベンチャー企業のアイデアをより早く具現化する為の外部資源を巻き込んだプラットフォーム「Garage Taisho,Minato」創出にも繋がっている。

2023年から新たに西淀川区が加わり、地域内での連携はもちろんのこと、それぞれの地域のネットワークを活かし、地域外ともさらに積極的に交流を図り、新たな「大正・港・西淀川」の魅力発信の手法を生み出していく。

●事務局連絡先
西淀川区役所
〒555-8501
大阪市西淀川区御幣島1丁目2番10号
TEL　06-6478-9774

INNOVATION

ローカル・カンパニー・プライドによる地域課題解決へ

主催者の大正・港・西淀川ものづくり事業実行委員会では、こどもたちを対象とした、拠点型ものづくり体験イベント「西淀川区ものづくりまつり」を2010年から、「大正ものづくりフェスタ」フェスタを2013年から継続して取組み、ともに8月に開催している。毎年4～5ヶ月かけて企画に取り組む中、「どうせなら現場（工場）も見せよう」という自発的な声からオープンファクトリーの取り組みに繋がった。現在までの参加企業は約50社で、区内の企業の関心も非常に高く、事業を通して企業間のネットワークも着実に拡大している。行政がツアーを企画し、参加企業が当日の体験・見学メニューを考える際、異なる参加企業同士でチームを組む。情報交換することで交流が生まれ、区内の企業間ネットワークが拡大していく。さらにオープンファクトリーを通して、自らを地域にアウトプットする出力先が出来たことで、徐々に「自分事」として活動するようになり、企業の地域に対する愛着（「ローカル・カンパニー・プライド」）も育まれている。

大正・港・西淀川オープンファクトリーの原点は「課題解決による地域貢献」である。本取り組みを通して業種・業界を超えた企業関係性が構築され、地域企業が悩んでいた若手社員教育の共同実施に繋がったり、コロナ禍での地域医療機関の困りごとを解決する商品開発を短期間で実現するなど、取り組みを継続することで生んだ「繋がり」が、結果的に地域課題を解決することが可能なイノベーションの苗床となっている。

・本事業は、２０２５年大阪・関西万博の「ＴＥＡＭ ＥＸＰＯ ２０２５」プログラム／共創チャレンジに登録されています。
・本取組が参画する「ＴＥＡＭ ＥＸＰＯ ２０２５」プログラムは、公益社団法人２０２５年日本国際博覧協会が運営する参加型プログラムです。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

KONDO TAKASHI

近藤 高史 氏

大阪市西淀川区 地域支援課 課長

2007 年、大阪市区役所初の工業担当係長に就任。西淀川区役所、大正区役所、港区役所勤務を経て、2022 年から西淀川区役所勤務。これまで、ものづくり企業と行政が連携する「西淀川区工業活性化研究会」、「大正・港・西淀川ものづくり事業実行委員会」を通じ、まちの活性化を公民連携の手法で進めている。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

大正・港・西淀川ものづくり事業実行委員会

大正区、港区、西淀川区のものづくり企業と区民との交流やものづくり企業のネットワーク形成とともに、区外へもこれら地域のものづくりの魅力を広く発信し、ものづくり企業の活性化を目指すため、民間企業、支援機関、区役所で組織し、オープンファクトリーをはじめとした事業執行の意思決定を行っている。

実行委員長

中村 和也 氏

中村工業株式会社 専務

機械化が難しく、人の力に依るところが大きい、直径 80mm を超えるような太径のロープ加工を得意とする中村工業（株）。同社は、主要メンバーとして、工場見学を積極的に受け入れ、同氏は工場見学の講師を務める等、子ども達にものづくりの魅力を伝えている。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

木幡 巌 氏

株式会社木幡計器製作所
代表取締役

南 仁 氏

有限会社南歯車製作所
代表取締役

山本 忠 氏

山忠木材株式会社
代表取締役社長

東 弘之 氏

鹿島化学金属株式会社
取締役副社長

ともにあゆむ

OTHERS

オープンファクトリー 2023 参加企業

大正区：株式会社木幡計器製作所、中村工業株式会社、
ヨリドコ大正メイキン＆大正るつぼん、紀洋木材株式会社、鈴木合金株式会社、
IKEA 鶴浜、株式会社プリコラージュ、山忠木材株式会社、
有限会社飛鳥鉄工所、大阪港湾局鶴町機械工場

港　区：有限会社南歯車製作所、成光精密株式会社

西淀川区：奥村機械製作株式会社、池永精機株式会社、ホクデン工業株式会社、
株式会社レーザーテック、株式会社ニッセイ・ニュークリエーション、
株式会社日昭電機製作所、株式会社三共合金鋳造所、末広工業株式会社
（順不同）

TRIGGER & STORY

誕生秘話

大阪の湾岸エリアは、紡績産業を中心としてまちが発展してきた。また、日本屈指の近代港を擁することで、重工業も大きく発展し、“ものづくりのまち”として全国にその名を馳せている。そうしたものづくりのコアとなる、匠の技、現代に受け継がれたものづくりの DNA を体感してもらいたいという想いから、2015 年に大正区でオープンファクトリーの取り組みが始まった。ものづくりの現場を見学する他、商店街や観光地を巡るプログラムも組み込まれた。2017 年から港区が、2023 年には西淀川区が新たに加わり、現在の「大正・港・西淀川オープンファクトリー」に至る。仕掛人の近藤氏を始め各地域の関係者による多大な尽力・想いにより地域が拡大してきた。

TOPICS

りびんぐラボ大正・港の発足

医療、工業、福祉の関係企業が連携し地域課題の解決をめざす「りびんぐラボ大正・港」のスタートは 2020 年 1 月。大正区は大阪市 24 区内で最も人口が少なく、高齢化も進んでいる。少子高齢化の顕著な大正区がこの課題を解決できれば、他の自治体でも活用できるひとつのモデルケースになるとして、「ものづくりのチカラ」で健康医療に係る様々な研究・実証を行い、未来の地域健康へフィードバックすることを目指す。

コロナ禍においても、地域医療機関が「被覆具」不足に困った際、本取り組みを通して 25 時間で企画・製造が実現し、解決を生んでいるなど、今後の成果も期待される。

（写真）工場見学の様子

2023 年〜

大阪府大阪市浪速区、西成区

大阪靴と皮革の祭典 O-Round(オーラウンド)

左上：A ダッシュ会場、右上：YOLO 会場、左下：高架下会場、右下：にしなり会場

CORE VALUE

発見！ 体験！
靴と革のまちを遊び尽くそう！

EVENT DATA

開始年　：2023 年
開催回数：1 回
開催期間：11 月（2023 年）
参加企業：76 社（2023 年）
来訪者数：約 3,026 人（2023 年）
主催　　：O-Round 実行委員会

FEATURES

靴と革のまちの魅力を多角的に表現

大阪市の浪速区・西成区にまたがる地場産業＝革靴・皮革産業を一つにまとめるイベント。地域一帯に 4 会場を設け、それぞれの地域の個性を生かしながら「靴と革のまち」を盛り上げた。大阪・新世界に隣接する YOLOBASE 会場では、みんなが楽しめる空間を演出。ＪＲ芦原橋駅界隈の高架下会場と A ダッシュ会場では、靴と革の学びの場を創出。靴メーカーが点在するにしなり会場では、オープンファクトリーをはじめ種々のイベントにより商店街全体が活性化された。

FUTURE

多様な魅力をたばねるコンセプトを

試行錯誤を重ねた 1 年目だった。「靴と革のまちを知ってもらいたい」という趣旨は共有されていたが、その表現手法としての「オープンファクトリー」を十分に活用する必要があった。しかし半面、そのことが思いも寄らないかたちで交流の輪を広げ、各会場の魅力を引き出す要因ともなった。

この取組は「まず 3 年は続けよう」という共通意識を持って立ち上がっている。次回は各会場の個性を活かしつつも、「オープンファクトリー」を軸に一貫性を保持したイベントにしたい。交流会・意見交換会を継続的に開き、あらゆる関係者とビジョンを共有し、ネットワークを築いていきたい。

●事務局連絡先
O Round 実行委員会 事務局（A´ ワーク創造館内）
〒 556-0027 大阪府大阪市浪速区木津川 2-3-8
TEL　06-6562-0410

INNOVATION

経済を教育や地域につなげる萌芽

大阪 靴と皮革の祭典「O -ROUND」は、浪速・西成の靴・皮革関連産業を「大阪の地場産業」として一つにまとめ事業者の存在をアピールすると共に、地域住民の生活文化にも関わっていくことを目指している。今回はその足がかりとなる事例を得られた。

A ダッシュ会場では、エスペランサ靴学院卒業後に起業した個人作家らによる合同受注会を催した。起業して間もない新人同士で交流し刺激を与えあう一方で、この時期だからこそ直面する諸課題を共有する場にもなった。先輩作家や他の出店者らからさまざまなアドバイスと励ましを受ける場面もみられた。

子どもから高齢者まで年齢に適した靴の選び方を指南する足育セミナーも好評を博した。靴選びに悩みをもつ顧客とその悩みを解消する専門家に加え、靴づくりの学びとの接点がうかがえた。

商店街内にある西成製靴塾を拠点にしたにしなり会場では、西成高校の靴づくり部（Nishinari Shoe Club）が靴磨きの実演を披露した。地元高校の生徒がイベントの参加を通じて出店者や商店街の店主と交流できたことは、今後の地域連携の取り組みのための良い判断材料になった。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

O Round 実行委員会代表
OYAMA　ITTETSU
大山 一哲　氏
株式会社ロカシュー
代表取締役社長
エスペランサ靴学院学院長
西成製靴塾塾長

1972 年大阪生まれ。エスペランサ靴学院卒業後、伊ミラノの留学を経て、現在、株式会社ロカシュー代表取締役。また、エスペランサ靴学院学院長、西成製靴塾塾長に就任し靴業界を担う次代の育成にも取り組む。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

O Round 実行委員会副代表
NOGUCHI　TAKAHIRO
野口 貴弘　氏
野口彦株式会社取締役社長
大阪靴卸協同組合組合理事長

1939 年創業の靴卸 3 代目社長。1971 年浪速区大国町生まれ。18 歳で渡英後、フリーランスで欧州製品の輸入業務に携わる。野口彦株式会社に入社後、オリジナルブランド「three generations」を立ち上げ、レザースニーカーの普及に努める。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

O-Round 実行委員会事務局長
高見 一夫　氏
A ダッシュワーク創造館 館長

O-Round 実行委員会副代表
大山 一松　氏
モデナ代表

ともにあゆむ

OTHERS

靴化Lab
大阪靴皮革産業 POP UP プロジェクト

- エスペランサ靴学院
- NPO 法人シューネクスト
- 西成製靴塾

浪速・西成にある上記靴づくりの教育機関が立ち上げた、靴・皮革産業の応援プロジェクト。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

2021 年 4 月、東京浅草にあった日本最初の靴学校・エスペランサ靴学院が大阪市浪速区に移転し、第 47 期を開始した。浅草と同様に、この地には近代以来製靴業と皮革業で発展してきた歴史がある。付近には NPO 法人シューネクスト（芦原橋）や西成製靴塾（西成区鶴見橋）といった靴づくりの教育機関もあり、産業振興と教育を掛け合わせた地域連携の機運が高まっていた。

2022 年 10 月の A-ROUND の視察に大いに触発された、後の実行委員会メンバーは、大阪 浪速・西成でも靴と皮革の祭典を行うことを決意、翌年 11 月に A-ROUND の助言を得ながら O-Round を開催する運びとなった。

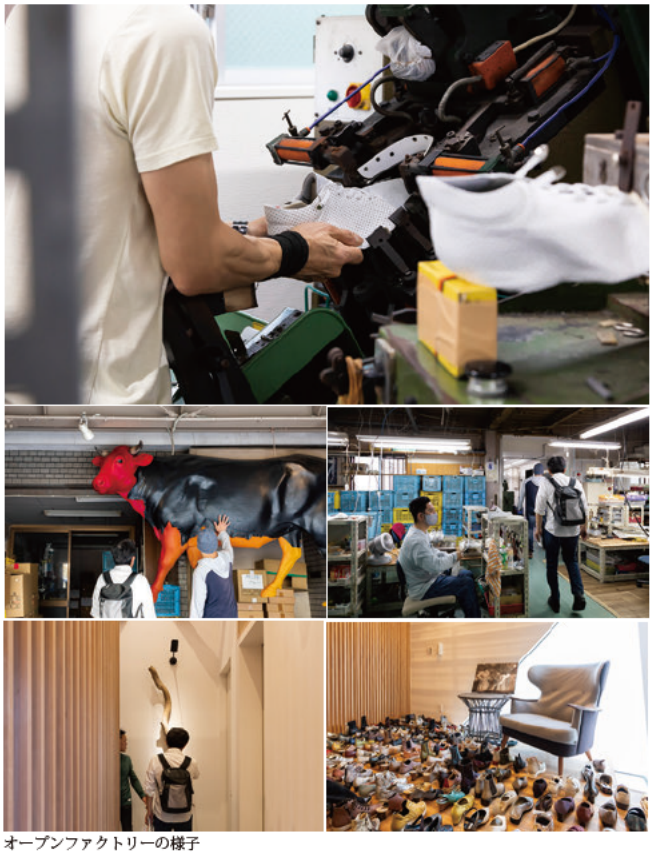
TOPICS

オープンファクトリーで企業の魅力をつたえる

今年 4 月、梅田や難波といった繁華街ではなくあえて地元・西成の住宅街にギャラリー（店舗）を開業した靴メーカーがある。O-Round では工場とともにギャラリーも見学に開放し、この地にギャラリーを開設した理由、そのコンセプトとねらいを来場者にプレゼンテーションした。

来場者の反応に手ごたえを感じたメーカー社長は、早くも次回の取り組みに意欲を示している。メーカー自らが自社の魅力を直接に発信することの大切さを示している。

また今回の開催を経て、「やっぱり街を歩き、街を知ってほしい」という想いが強くなった。今後も「伝統的な皮革産業地帯」としての歴史を伝えるべく開催を続けていく。

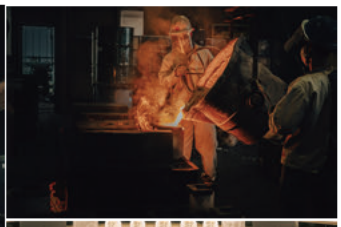


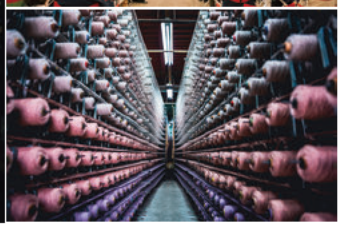
オープンファクトリーの様子

2020 年〜

大阪府八尾市、東大阪市、柏原市、堺市、高石市、和泉市、門真市、大阪市、大東市、四條畷市、三重県名張市

FactorISM





CORE VALUE

こうばはまちの エンターテインメント

EVENT DATA

開始年　：2020 年
開催回数：4 回
開催期間：例年 10 月頃 /4 日間程度
参加企業：83 社
来訪者数：2 万人以上（リアル参加者）
主催　　：まちのこうほうぶ
（FactorISM 実行委員会）

FEATURES

FactrorISM　アトツギたちの文化祭

「FactorISM(ファクトリズム)」は、「こうばはまちのエンターテインメント」を合言葉に、参加企業と来場者、地域一体型でつくるオープンファクトリーイベントである。ものづくりの現場を公開し、世界に誇る日本のものづくりを五感で体験、体感してもらう文化祭のようなイベントである。

4 年目となる 2023 年は「視線」をテーマに、参加企業と地域が連携して開催された。なお、FactorISM（ファクトリズム）は、Factory ＝こうば、ISM ＝主義・主張、Tourism ＝観光を組み合わせた造語である。

FUTURE

来たる 2025 大阪関西万博を見据えて

来たる 2025 大阪・関西万博を見据え、イベントの認知度をさらに高め、参加したいと考える企業やイベント来場者を増やしていく。

また、世界に向けても「こうばはまちのエンターテインメント」というムーブメントを広げていくとともに、中小企業のものづくり技術・技能を地域ブランドとして確立させ、海外に発信していく。これらを通じて、こうばで働く人、それらこうばがある地域の人々、それぞれが誇りをもって、こうば・まちで活躍し、持続可能な社会・経済システムづくりへの貢献に繋げていきたい。

TEAM EXPO 2025 共創チャレンジ登録

「FactorISM」実行委員会は、こうばやそこで働くつくり手、それぞれの想いを伝えることで、ものづくりという地域のアイデンティティを次代に受け継ぎ、持続可能なまちづくりや、ものづくりを新たなエンターテインメントとする「モノヅクリテイメント構想」を実現します。

INNOVATION

業種を超えた、新たなコラボレーションへの「刺激」

FactorISM は 2020 年開始以降、開催地域、参加企業数が年々拡大している。参加した企業からは、「普段他の企業の方と知り合う機会がなく、FactorISM を通じて知り合った他社のオープンファクトリーも見学できた」、「スタッフが試行錯誤して取り組んだこともあり、成長に繋がった」といった声や、「イベントをきっかけに、他のおもしろい企業を知るきっかけとなった。コラボ企画にも挑戦したい」のように新たな取り組みに向けて、モチベーションを高めている。

また、参加企業同士の交流に止まらず、「こうばのでんしゃ FactorISM in 近鉄電車」、「展覧会 in 大阪府立中之島図書館」の実現など、外部機関とのコラボレーションも増えてきている。

FactorISM は単なるイベントではなく、コミュニティである。年に一度の「FactorISM アトツギたちの文化祭」だけにとどまらず、通年で様々なものづくり体験プログラムを展開するとともに、大企業や異業種とのコラボレーション、地域を越えたネットワーク構築、大学生の職業観の醸成など、まちの未来を創造する活動へと深化を続けている。

●事務局連絡先
FactorISM 実行委員会
〒 581-0803　大阪府八尾市光町 2-60 リノアス 8F
TEL　072-920-7128 （株式会社みせるばやお）
email　machi@miseruba-yao.jp

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

MATSUO YASUKI
松尾 泰貴 氏
・株式会社友安製作所
ソーシャルデザイン部担当 執行役員
・FactorISM 統括プロデューサー

元八尾市職員。「みせるばやお」の立ち上げに尽力。ものづくりのまちである八尾を広く知ってもらおうと、子どもたちにものづくりの楽しさを伝えるワークショップや、企業間の交流を促進するためのイベントなどを実施している。地方公務員アワード 2019 を受賞。現在、友安製作所にてまちづくり事業を立ち上げ、民間人としてもまちづくりに邁進中！

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

FactorISM 実行委員会事務局（まちのこうほうぶ）

所属も業種も異なるメンバーが、「まちこうぼをエンターテインメントに変える!」を合言葉に、普段、私たちの生活を支え、暮らしを豊かにしてくれている日本のものづくりの素晴らしさ、面白さをもっとたくさんの人たちに知ってもらい、後世にバトンを継いでいきたいとの想いを一つに活動している。

実行委員長
太田 泰造 氏
錦城護謨株式会社

副実行委員長
友安 啓則 氏
株式会社友安製作所

門真支部長
北次 孝得 氏
北次株式会社

堺支部長
福田 康一 氏
株式会社河辺商会

八尾支部長
梶原 弘隆 氏
株式会社オーツー

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

幹事
山田 紘也 氏
株式会社ビーダッシュ
代表取締役社長

事務局長
野村 範仁 氏
N × N Design
代表

人材育成研修担当
寺田 昌樹 氏
株式会社電通関西支社
プロデューサー

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

株式会社河辺商会
錦城護謨株式会社
株式会社友安製作所
株式会社オーツー
シルバー株式会社
北次株式会社
株式会社一瀬製作所
近畿日本鉄道株式会社
シャープ株式会社
株式会社ミナミダ
第一生命
京都信用金庫
日新 EC パートナーズ

TRIGGER & STORY

誕生秘話

開催エリアとなっている八尾市には「みせるばやお」、門真市には「もりかど産業支援機関ネットワーク」、堺市には「さかいセカンドスタートアップ」というそれぞれの事業を通して市役所産業担当者と地域企業群との関係性が構築されており、当該市役所担当者達が繋ぎ手となって始まったのが FactorISM。※なお、当該担当者達は近畿経済産業局への出向経験を通して繋がりを有していた。

そして、お互いの地域で躍動する企業の可視化とエリアを越えた交流を実現するため「オープンファクトリー」という切り口で支援方法を考え、役所の垣根を越えた広域の実行委員会が立ち上がり、現在の礎となっている。

TOPICS

FactorISM のシンボルデザイン

FactorISM のシンボルデザインは、イベントのサブコピー、「アトツギたちの文化祭」の「アトツギ」に着目したものである。アトツギたちはリレーのバトンを渡された人と捉え、バトンを使ったシンボルで表現している。FactorISM のロゴにある 5 つのシンボルは、5 種類のバトンであるとともに、人の五感も表現している。「音の震え」、「味の刺激」、「手でふれた触感」、「視野」、「匂い」をイメージし、これらが毎年の共通テーマとなっている。参加企業が共通テーマのもと、それぞれの企画内容を検討・開催することで、イベント全体の統一感を生み出している。

（写真）工場見学・ワークショップ体験の様子

2021 年～

大阪府忠岡町、岸和田市、貝塚市、熊取町、泉佐野市、田尻町、泉南市、阪南市

泉州オープンファクトリー

CORE VALUE

泉州エリアの本気の「ものづくり」に魅せられる

EVENT DATA

開始年　：2021 年
開催回数：3 回
開催期間：11 月～ 12 月頃／ 3 ～ 4 日間程度
参加企業：39 社（2023 年）
来訪者数：約 1,100 人（2023 年）
主催　　：泉州オープンファクトリー実行委員会

FEATURES

体験を通して知る泉州に根付く多様な産業

開催エリアとなる泉州地域には、泉州タオル・ワイヤロープ・泉州水なすなど、高い技術力で魅力的な商品を生み出す多様な製造事業者や農家が存在する。普段はあまり馴染みのない地域の製造工場や、地域に当たり前に流通する農産物が作られる農園を一般公開し、日常生活や地域産業を支える製品・人・技術に直接触れられる体験をオープンファクトリーイベントとして開催。「ものづくり」の工場見学やワークショップなどの体験、製品の実演や販売、歴史文化の体験ツアーなどを開催することで、泉州に根付く多様な産業を地域内外の方々に発信する。

FUTURE

繋がりの輪から新しい価値の創造へ

初回となる 2021 年は、貝塚市と泉佐野市で開催したが、翌年 2022 年では、開催地域が近隣の市町にも拡大し、泉州地域として開催した。

泉州オープンファクトリーの目的は、地域の企業・街・人の魅力を多くの人に知ってもらうこと、また訪れた人たちとの交流をきっかけに、人と人、企業と企業、地域と地域の繋がりの輪を世界中に拡げていき、その中で新しい価値を創造すること、そして主催者自身も泉州の魅力を再認識することを掲げている。これら目的を達成すべく、「泉州地域産業の魅力をまるごと体感する」イベントとして、一層の進化を目指す。

●事務局連絡先
泉州オープンファクトリー実行委員会
〒 597-0083　大阪府貝塚市海塚 1-1-23 ポートフォリオ内
E-mail　info@senshu-of.com

INNOVATION

参加企業同士の交流から、さらに新しい交流の輪へ

泉州オープンファクトリーの開催をきっかけに、地域内外からの様々な参加者に見られることを意識し、工場内の整理整頓を推進したり、現場の社員が「参加者に説明できるよう改めて会社のことを調べ直す」など、人材育成につながる様々なインナーブランディング効果が生まれている。

また、イベント開催に向けて参加企業同士が協働したことをきっかけに、互いを知り、本業面での協業に繋がったケースも生まれた。ある BtoB 事業者が新事業としてこだわりの詰まったアウトドア新商品を開発したものの、量産品ではないことから梱包用紙箱の企画を依頼できるネットワークがなく困っていた。そんな中、泉州オープンファクトリーの参加企業の中に、小ロットでの紙箱企画製造が可能な企業がいることを知り、梱包用紙箱を手配することができた。

2023 年はテーマに「変貌」を掲げ、地域・企業・人がつどい、つながり、つくる、参加型の「共創コミュニティ」として、運営側の組織体制と企業側の主体性の強化を図り、異業種との交流によって、自社だけでは気づかなかった可能性の創造に繋げる機会や新市場を切り拓くポテンシャルを発掘するなどの新たな挑戦へのきっかけの場を創出。

また、定例会や懇親会を開催することで、参加企業同士の交流から、さらに新しい交流の輪が広がっている。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

ENSHO KOUJI

延生 康二 氏

株式会社ポートフォリオ 代表取締役
延生建設株式会社 代表取締役社長
泉州オープンファクトリー実行委員長

泉州オープンファクトリー実行委員会 実行委員長。大阪府貝塚市出身。2017 年に建設会社「延生建設株式会社」の代表取締役社長に就任。2020 年コワーキングスペース運営企業として、株式会社ポートフォリオを設立。2021 年 7 月、地元貝塚駅前の南海電鉄が所有する建物をリノベーション、カフェを併設したコワーキングスペース「ポートフォリオ」をオープンさせる。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

泉州オープンファクトリー実行委員会

開催地域を拠点とする異業種メンバーで構成される。普段公開されていない、中小企業の製造現場を見学・体感できるイベント開催に向けて取り組む。以下は特に中心となって活動してきた 5 名。

上野 智行 氏
株式会社ウエノ
専務取締役

副実行委員長
木岡 幸子 氏
日本紙工株式会社
営業部 企画開発室 主査

神藤 貴志 氏
神藤タオル株式会社
代表取締役

中野 壮人 氏
中野産業株式会社
取締役

前田 浩一 氏
一社）貝塚寺内町保存活用事業団 業務執行理事

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

事務局長
玉田 翔太 氏
株式会社スプリード
代表取締役

プロデューサー / 統括ディレクター
世並 誠 氏
ZERO 広告事務所 代表

エリアディレクター
井上 達也 氏
一般社団法人泉佐野シティプロモーション推進協議会

サポーター
渡辺 葉一 氏
ヒトツナギ 代表

サポーター
岩本 涼 氏
Rocks 合同会社 CEO

サポーター
森下 智司 氏
Rocks 合同会社 CEO

サポーター
風間 大樹 氏
株式会社 Wind 代表取締役

WEB 制作
福本 直洋 氏
福本企画 代表

事務局次長
草野 知子 氏
かえで書道教室 代表

事務サポート
中川 菜菜 氏
延生建設株式会社 秘書

ともにあゆむ

OTHERS

南海電気鉄道株式会社

同社では #BIZ TAG NANKAI（沿線企業魅力共創プロジェクト）の一貫として、自社 HP 内での泉州オープンファクトリーの取組紹介やイベントレポートの掲載、南海電車内広告の掲載を行うなど、オープンファクトリーイベントを応援している。また、同社が事務所・倉庫として長年使用していた施設がリノベーションされ、「ポートフォリオ」という拠点名で、地元企業である株式会社ポートフォリオが運営。「ポートフォリオ」は、泉州オープンファクトリーの拠点会場としても活用された。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

普段は目にする機会のない製造・生産現場を一般公開することで、地域や異業種企業とのコミュニケーションを図り、地域での認知拡大、インナーブランディング、商品・技術の潜在価値の発見に繋げたいという想いから泉州オープンファクトリーがスタートした。

参画企業の一社でもある延生金属株式会社に外部デザイナーが訪れ、「産業用帯鉄」を「これまでにないかっこいい建材」と捉え、某ホテルの照明パネルへの採用というインテリア業界に新たな販売チャネルを獲得した実体験が、上記の想いを大きく支えており、「予定調和のない出会い」の重要性を地域内に浸透させるべく、多くの地域内企業を巻き込み活動を広げている。

TOPICS

拠点会場と受け入れ体制の強化による効果

2023 年のプログラムでは拠点会場を貝塚と泉佐野の 2 箇所に設け、バスの発着場所としての機能だけではなく、参加企業による販売やワークショップなども実施することで、商品に触れてもらえる機会を創出。

また、過去の開催の移動手段はバスのみであったが、参加企業の工場などに直接訪れることができるように調整を試みたことで、より自由に複数企業の見学やコンテンツを体験することが可能となった。

（写真）工場見学・ワークショップ体験の様子

2023 年〜

大阪府枚方市、寝屋川市

不器用 FACTORY

CORE VALUE

“できない”を楽しむ、ものづくり体験

EVENT DATA

開始年　：2023 年
開催回数：3 回
開催期間：8 月、11 月（商業施設内開催）
　　2 月（工場見学型開催）（2023 年度）
参加企業：12 社（2023 年）
来訪者数：約 1,500 人（2023 年）
主催　：ひらかた地域産業クラスター研究会
　　（オープンファクトリー部会）、枚方市

FEATURES

地域一体で「日本一敷居の低いオープンファクトリー」を実現！？

「共創」をテーマに、地域の繋がりを活かし、企業の魅力発信強化とイベント集客難を克服。参加者同士が協力しながら無理なく持続できるオープンファクトリーを目指している。商業施設の協力やコワーキングスペース運営会社の支援により集客力を高め、企業の個性や魅力をクリエイターが抽出・表現しPR の不得手をサポート。地域住民に身近な商業施設「くずはモール」で、ポップアップ型のオープンファクトリーイベントを開催した。これは一人でも多くの人に地元のものづくりに触れる「小さな接点（窓口）」を創出したり、企業（工場）への興味や気づきを促すことで、参加企業、訪れる人双方にとって敷居を低くするためであり、結果として多くの人々が関心を持ってくれたことで、現地型のオープンファクトリーへと発展した。

FUTURE

ものづくり企業発！「産学公連携」で地域の魅力度向上へ！

共創の推進ツールでもある「コラボマスターズ」を活用し、大阪万博に向けたインバウンド需要にも焦点を当てることで、地域と企業、大学との連携をより深めていく。さらに、地域資源や企業の特色をカード内容に反映させることで、大阪・関西万博関連イベントやツアーなどでのカードの活用価値を強調。対戦型のゲーム性（カードバトル）も兼ね備えているので、地域文化や企業の魅力を「楽しみながら」来場者に触れてもらい、共創への気づきが生まれるきっかけとしたい。

INNOVATION

「共創を促進する」オリジナルトレーディングカード「コラボマスターズ」誕生！

地域の企業とクリエイターのコラボレーションから誕生した「不器用FACTORY」の「コラボマスターズ」トレーディングカードは、各企業の理念や提供価値をモチーフにした「ヒト・コトカード」と商品・サービス・取り組みなどの強みを表現した「モノ・バカード」の２種類がある。それぞれの企業の特性や点数を組み合わせる（コラボする）ことで「共創」への気づきを促進できるツールとなっている。イベントやワークショップに参加することで入手できるので、来場者に対しては、現場を回遊しながらカード収集ができ、楽しい体験機会への促しになるだけでなく、ものづくりの理解と共に企業認知を親子間で高める効果になる。企業と来場者のコミュニティ形成の先には、将来の雇用促進も期待されるので、地域活性化への貢献にもつなげたい。

さらには、カード内容を企業内（社員同士）で考えることで、自社ブランディングの意識醸成の効果も。現場を開放することで人材成長に繋がるオープンファクトリー開催の効果に加えて、不器用ファクトリー独自のトレーディングカードの特性を活かした「共創」の可能性を今後も探求していきたい。

●事務局連絡先
ひらかた地域産業クラスター研究会
〒573-1159　大阪府枚方市車塚１丁目１番１号（北大阪商工会議所内）
TEL　072-843-5151

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

ASHIDA　TOMOYUKI
芦田 知之　氏
アクテック株式会社 代表取締役社長
2021 年に 2 代目代表取締役社長に就任。
ひらかた地域産業クラスター研究会オープンファクトリー部会の会長として、イベントの立ち上げに関わる。

HARADA　TAKUYA
原田 卓哉　氏
香椎化学工業株式会社 取締役　副社長
スキンケアをはじめとした化粧品の製造・開発に取り組む同社の副社長。
ひらかた地域産業クラスター研究会オープンファクトリー部会の副部会長として、イベントの立ち上げに関わる。

TAKEMURA　KAORI
竹村 香織　氏
株式会社テイク　システムズ　代表取締役
2023 年二代目代表に就任。2022 年より新事業として初の BtoC 事業、メイカースペースのあるコワーキングスペース　テイク・ラボを運営。不器用 FACTORY ではものづくり企業の中心的役割として立ち上げ時より活動。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

SAHARA　KAZUYUKI
佐原　和行
バイカイデザイン株式会社
代表取締役

1975 年石川県生まれ枚方育ち。大阪デザイナー専門学校を卒業後、印刷会社～デザインプロダクションでの経験を経て、2012 年バイカイデザインを開業。「現場が動くクリエイティブ」をモットーに、クリエイティブディレクターとして活動中。2023 年からは、枚方市立地域活性化支援センター「ひらっく」にて、地域事業者のクリエイティブ活用をサポートする専門アドバイザーも兼務。不器用 FACTORY では、立ち上げ当初からトータルディレクションを担当。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

交久瀬 清香　氏
合同会社 PicnicWork　代表社員

平岩 愛理　氏
合同会社 PicnicWork 業務執行社員

上田 周功　氏
株式会社京阪流通システムズくずはモール

高田 研一　氏
北大阪商工会議所

ともにあゆむ

OTHERS

大阪工業大学 OSAKA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
思い出メーカー ダイコロ
ビィゴ!
TAKE LABO
未来と企業を結ぶ 北大阪商工会議所
枚方市 Hirakata City

TRIGGER & STORY

誕生秘話

2022 年に開催した、枚方産学公連携フォーラムの基調講演で「価値協創の時代における“サードプレイス”の重要性 手段としての地域一体型オープンファクトリー」をテーマに取り上げた。これを契機に、「飾らずにものづくりの魅力を伝え、地域との繋がりを創出し、それに貢献したい」という想いに企業が集い、初開催はのべ 12 社が参加。地域クリエイターや大学との連携体制も構築しながら、今後も持続して開催できるイベントを目指している。

TOPICS

新たに地元商業施設「くずはモール」のカードがコラボマスターズに追加される。これにより、カードを集める楽しみだけでなく、店舗で実際にサービスを受けることが可能となるなど、現実の世界でも活用できるようになった。この取り組みは工業と商業のコラボレーションを象徴し、さらなる展開を期待している。本イベントを通して「小さな成功体験」を次々と生み出すことで、地元商業と工業の結びつきが強化され、参加者にとってのイベントだけではなく、地域経済にも貢献する新たな機会になると見込んでいる。

実際、２度のポップアップ型オープンファクトリーの成功が、翌年２月の現地型オープンファクトリーの企画に繋がったことはその象徴ともいえる。

今後は現在の企業群の連携強化だけでなく、新たな関係者の関わりしろを作り出すことでさらなる多様な連携を創出し、地域全体の活性化を目指す。

不器用 FACTORY2023 の様子

2018年～

大阪府八尾市

みせるばやお

CORE VALUE

誰もがいつでも気軽にクリエイティブを

EVENT DATA

開始年	：2018年
開催回数	：常設
開催期間	：常設
参加企業	：130社（2023年10月末時点）
累計来訪者数	：約9.2万人（2023年10月末時点）
主催	：株式会社みせるばやお

FEATURES

ものづくりのまち八尾を世界に発信

「見せる場」と「魅せる場」という2つが名前の由来である。出会いが加速する場を創出することがメインテーマであり、「シェアリングから生まれるイノベーション」を目指している。

みせるばやおの機能としては、2つ。1つは、子どもたちがワクワクできるものづくり体験を提供すること、もう1つは企業間のコラボレーションを創出する場である。企業間連携においては、様々なコラボ企画や商品開発、イベント等を数多く生み出している。参画は会員制を採用しており、約3割は八尾市外の企業（関東圏や大手企業等も参画）で構成されている。

FUTURE

広域連携からさらなる「苗床」づくりへ

みせるばやおでは、関西を中心とする他地域のオープンファクトリーとの連携や交流を通じて、横のつながりを強化し、ネットワークのさらなる拡大を目指している。RENEWとのコラボレーションで、参画企業同士の交流勉強ツアーの実施やサテライト会場としてタイアップした実績も既にできている。

みせるばやおは常設されている拠点であり、他にはない特長を活かし、上手く広域に連携し、さらなる苗床づくりを目指すとともに、関西の魅力を積極的に発信していきたい。

受賞アワード

2019年 総務省ふるさとづくり大賞　団体表彰（総務大臣表彰）
2020年 国土交通省地域づくり表彰（特別賞 日本政策投資銀行賞）
2021年 イノベーションネットアワード （優秀賞）
2023年 第9回 ものづくり日本大賞（人材育成支援部門 優秀賞）

INNOVATION

ネットワークから生まれる圧倒的なコラボ実績

みせるばやおでは、様々な外部機関や会員企業間での交流によりローカルイノベーションが数多く生まれている。

1つの例が、木村石鹸工業×友安製作所による生活雑貨商品「LOMA」である。「LOMA」の例のように、企業がコラボレーションして生まれた商品も多い。みせるばやおに参加することで、従来は関わりがなく、存在さえも認知していなかった近隣企業との会話やネットワークが形成され、それがコラボレーション商品の誕生につながっている。こうしたローカルイノベーションが注目され、オープン当初から2023年3月末までに、のべ120件の視察や249件のメディア掲載、コラボ数は132件にものぼる。

また最近では、大学生とみせるばやお内の企業がコラボレーションしてワークショップイベントを開催するなど、学生とのコラボレーションの機会も増えてきている。

交流という観点では、みせるばやおでは、経営陣だけでなく、若手同士の交流も重視しており、多層的なネットワーク構築を目指している。企業同士が気軽に交流や相談ができる関係づくりを重視している。「あの会社にできるなら、うちの会社にも…」という良い競争心が刺激されて、参加企業のネットワークも着実に増えている。

●事務局連絡先
みせるばやお

〒581-0803　大阪府八尾市光町2-60 リノアス8F
TEL　072-920-7128

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

MATSUO YASUKI

松尾 泰貴 氏

・株式会社友安製作所
ソーシャルデザイン部担当執行役員

元八尾市職員。「みせるばやお」の立ち上げに尽力。ものづくりのまちである八尾を広く知ってもらおうと、子どもたちにものづくりの楽しさを伝えるワークショップや、企業間の交流を促進するためのイベントなどを実施している。地方公務員アワード 2019 を受賞。現在、友安製作所にてまちづくり事業を立ち上げ、民間人としてもまちづくりに邁進中！

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

みせるばやお理事・役員メンバー

2018 年 5 月 8 日に官民連携によりコンソーシアムである「みせるばやお」を立ち上げ。2020 年 8 月 3 日に事務局機能強化、持続可能なコミュニティづくりのため、コンソーシアムを残しつつ、株式会社みせるばやおを設立。

代表理事
株式会社友安製作所
代表取締役社長　友安 啓則 氏

副代表理事
KISSA ZEROICHI
代表　武内 春樹 氏

株式会社ビーダッシュ
代表取締役　山田 紘也 氏

理事
アベル株式会社
代表取締役社長　居相 浩介 氏

ボードゲームカフェ & ショップ inst
代表　泉谷 徹二 氏

ラピス株式会社
代表取締役　乾 真治 氏

株式会社タカヨシジャパン
代表取締役　髙島 小百合 氏

株式会社平井製作所
代表取締役社長　平井 隆之氏

藤田金属株式会社
代表取締役社長　藤田 盛一郎 氏

大阪糖菓株式会社
代表取締役社長　フロイスしおり 氏

株式会社たくらみ屋
代表取締役　森本 繁生 氏

監査
錦城瀧澤株式会社
代表取締役社長　太田 泰造 氏

株式会社みせるばやお 役員
木村石鹸工業株式会社
代表取締役社長　木村 祥一郎 氏

谷元フスマ工飾株式会社
代表取締役　谷元 亨 氏

株式会社友安製作所
代表取締役社長　友安 啓則 氏

株式会社オーツー
代表取締役　梶原 弘隆 氏

株式会社ビーダッシュ
代表取締役　山田 紘也 氏

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

みせるばやおマネージャー
稲垣 裕子 氏

みせるばやお　館長
荒木 宏介 氏

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

みせるばやお会員企業のみなさま

■法人会員（20 名以下）　38.5%
■個人会員（個人事業者）　24.6%
■法人会員（50 名以上）　22.3%
□法人会員（21 ～ 49 名）　14.6%

TRIGGER & STORY

誕生秘話

全国でも有数の中小企業が集まる産業のまち、八尾市。しかし OEM 企業が多く長年 PR の機会に触れてこなかったが故に、その高い技術力はなかなか認知されていなかった。また地域内に異業種交流団体はあったものの、近隣企業での連携に留まり、八尾地域外との交流を得るような機会がなかった。そこで、当時八尾市職員であり、かねてより八尾地域内の企業間連携に奔走していた仕掛け人の松尾氏が中心となり、2018 年に拠点兼プラットフォーム「みせるばやお」を設立。中小企業の新たなチャレンジ等を支援するとともに、ワークショップ体験等を通じて八尾地域の魅力を後世の子どもたちにも伝え、ものづくりの魂を次世代にも紡いでいる。

TOPICS

「まちのコイン（やおやお）」

2022 年 3 月までの半年間、株式会社カヤックとの協業で、八尾市に「まちのコイン」を導入する実証実験が実施された。

「まちのコイン」とは、株式会社カヤックが企画開発した、人と人とのつながりを可視化できるコミュニティ通貨である。実証実験を経て、八尾市、株式会社カヤック、大阪信用金庫の 3 者による連携協定も締結され、今後さらに活用できる場が広がっていく。

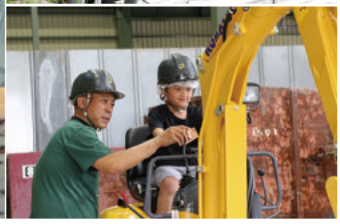
みせるばやおは、その中で、コミュニティ運営を担い、スタンプラリーやクイズラリーなどで「やおやお」を貯める、使う仕掛けづくり等、町中に広がるための取り組みを進めている。

（写真）ワークショップの様子等

2022 年～

大阪府河内長野市

ワークワクワク河内長野



CORE VALUE

河内長野には ワクワクする現場と人がいる！

EVENT DATA

開始年　：2022 年
開催回数：3 回
開催期間：8 月下旬、11 月下旬
参加企業：27 社（2023 年）
来訪者数：（夏）約 60 名、（秋）約 600 名（2023 年）
主催　　：河内長野市

FEATURES

河内長野のワクワクを知ってほしい！

大阪府の南東部に位置し、東は金剛山、南は和泉山脈に囲まれた自然豊かな河内長野市。ワークワクワク河内長野（以下、ワークワクワク）は、河内長野市内の仕事の現場を見学できるバスツアーや、イベント会場での会社紹介、製品展示、体験プログラムなどを通じて、河内長野の仕事（ワーク）のワクワクを直接「見て」「感じて」「知る」イベント。楽しそうなイベント名は、未来への思いを込めて参加事業者が命名。開催期間中には、レンタサイクルで河内長野を自由に周遊できたり、VR 技術を活用したバーチャル工場見学も開催し、河内長野のワクワクが溢れる内容となっている。

FUTURE

継続開催した成果と体制づくりの構築

昨年度に引き続き、今年度も開催したワークワクワクは製造業にとどまらない幅広い業種の参加企業数を１８社から２７社に増やし、新たな企業間の交流・連携につなげることができた。また、経営者間に加えて、担当者同士のつながりが深まった。さらに、参加企業自身の魅力発信を昨年度よりもブラッシュアップさせ、市民を中心とした多くの参加者に楽しみながら、自社をより知ってもらうことができた点も大きな成果であった。

また、今年度より運営委員会を立ち上げ、事業を継続して実施していくための体制づくりに着手している。参加企業による積極的な運営への関わりは、事業の自走化や他地域のオープンファクトリーとの連携等には不可欠であり、より良い運営体制の仕組みを検討するとともに、大阪・関西万博との連携の可能性や観光の要素を含めた新たな取組等も次年度以降も引き続き検討していく。

INNOVATION

ワークワクワク参加によって生じた社内外の変化

ワークワクワクを通じて参加企業に生じた変化として、まず参加企業同士の関係性がある。中には、実際のビジネスにつながったケースも生まれている。参加企業は、ワークワクワク開催に向けて定例会合・ワークショップに複数回参加。その中で、ある参加企業の社長が、苦労の末に会社を創業した経緯を語ったことがあった。そうした創業時の苦労、社長の想いに共感した他の事業者が、その企業から商材を仕入れることを決めた。普段はなかなか知ることのできない、企業としての姿勢や考え方をワークショップ等を通してより深く知ることができたからこそ、取引に至ったものである。

別のケースでは、敷地が隣接する２社の参加企業が、ワークワクワクに参加するまで、お互いに交流がない関係であった。その企業が自社敷地内にてイベントを開催する予定だったが、当日に雨が降り、屋根のない自社敷地でイベントが開催できずに困っていた。隣接する企業の工場の荷捌きスペースには屋根があり、同スペースを提供することにより無事イベントを開催することができた。これまで隣接していたもののお互いのことをほぼ知らなかった関係性から、気軽にコミュニケーションが取れる関係性が構築出来たことは非常に大きな成果である。

また、参加企業の内部にも少しずつ変化が生まれている。当初は付き合いでワークワクワクに参加した事業者もいたが、終了後は「参加してよかった」という声が聞かれるとともに、従業員が自主的に整理整頓、挨拶をするようになった等行動にも変化が生まれ始めている。

●事務局連絡先
河内長野市役所 環境経済部 産業観光課 商工・労働係

〒586-8501　大阪府河内長野市原町　丁目 1-1
TEL 0721-53-6075

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

TOCHINO　TAKASHI

栩野　貴至　氏

河内長野市　環境経済部
産業観光課　商工・労働係長

関西大学卒業後、金融機関を経て、２０１４年河内長野市入庁。税務課・固定資産税係を経て、現職。

河内長野市では、少子高齢化や人口減少等による事業環境の変化や、後継者不足、産業用地不足による市外への転出等を要因とした事業所数の減少が進んでおり、これらによる地域活力の低下等への対応が喫緊の課題となっている。

環境経済部　産業観光課では、商工業及び観光振興を切り口にこれら課題に取り組んでいる。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

ワークワクワク河内長野運営委員会

【メンバー】

株式会社瑞穂工作所　代表取締役	荒木 伸規 氏
株式会社 A'z Gr.and.Grow 代表取締役	香西 武志 氏
エイチ・ツー・オー　リテイリング株式会社 オープンイノベーション推進部	森本 瞭 氏
第一生命保険株式会社　河内長野営業オフィス	熊谷 悦子 氏
第一生命保険株式会社　河内長野営業オフィス	田之頭 由実子 氏
河内長野市商工会	原田 創至 氏
河内長野市商工会	下村 和之 氏

【事務局】

株式会社地域計画建築研究所	山部 健介 氏
株式会社地域計画建築研究所	山口 泰生 氏
河内長野市　産業観光課　商工・労働係	嘉悦 博仁 氏
河内長野市　産業観光課　商工・労働係	若松 雅宏 氏

【オブザーバー】

COS　KYOTO 株式会社　代表取締役	北林 功 氏

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

SNS 発信・受付・広報活動等
エイチ･ツー･オー リテイリング株式会社

SNS 発信・受付・広報活動等
株式会社エム・エフ・ケイ

SNS 発信・受付・チラシ配布・広報活動等
第　生命保険株式会社
河内長野営業オフィス

ホームページ・チラシ・ポスター制作
スタジオ オーヴァル

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

共催：河内長野市商工会
協賛：株式会社エイチ・ツー・オー商業開発、
南海電気鉄道株式会社、株式会社紀陽銀行、
株式会社りそな銀行、株式会社関西みらい銀行
後援：大阪府、近畿経済産業局
協力：桃山学院大学、
ものづくりビジネスセンター大阪（MOBIO）
ハローワーク河内長野

TRIGGER & STORY

誕生秘話

２０１９年１１月に発行された産業振興に係る提言書では、産業支援に係る課題に対する施策の１つとして、オープンカンパニーの施策が提言されていた。また、２０２０年以降コロナ禍により経営環境が急激に変化し、市として大きな危機感を持っていた。そうした中、２０２１年、近畿経済産業局から織田氏が市に出向。関西で広がりを見せるオープンファクトリーの具体的な話が共有され、オープンカンパニー（※）の構想が具体化していった。参加企業募集にあたっては、公募の他、事業者に訪問しながら粘り強く趣旨を説明。最終的には１８社が集まり、第１回開催を迎えることができた。（※）業種等を問わない会社・事業所等の公開や、参画企業間の連携強化、地元の町おこし等を含めた幅広い活動を「オープンカンパニー」という言葉として定義。

TOPICS

ワークワクワクの楽しみ方

ワークワクワク河内長野では、夏で全４、秋で全８のオープンカンパニーツアーを開催。いずれも午前もしくは午後の半日コースで、用意されたバスや車に乗り、河内長野市内の仕事の現場を訪問する。集合・解散場所は、河内長野駅から徒歩圏内のイズミヤゆいテラス河内長野に設置。公共交通機関で訪れる人にもアクセスしやすい。来場者が自由に見学先を選ぶフリー見学も充実させ、シャトルバスやレンタサイクルなどの移動手段を用意して、ツアー以外の来場者にも楽しんでいただく仕組みを取り入れている。

（写真）オープンカンパニーの様子

2023年～

大阪府大東市

だいとうおーぷんふぁくとりーこんたくと CONTACT

だいとうオープンファクトリー CONTACT

CORE VALUE

働く一人一人がアスリート
工場はアリーナ

EVENT DATA

開始年　：2023年
開催回数：1回
開催期間：11月（2023年）
参加企業：7社（2023年）
来訪者数：約1,103人（延べ）（2023年）
主催　　：大東商工会議所、大東市

FEATURES

地域とともに築き上げたオープンファクトリー

「地域のものづくり企業を知ってほしい」という想いを叶えるため、イベントの作り込みから地域の教育機関と連携。教育委員会を筆頭に、大阪産業大学ではゼミの研究の一環として、大阪桐蔭中学校高等学校コンサルティング研究では授業のなかで各企業の工場見学時の問題の解決、四條畷学園高校吹奏楽部は当日の公演を実施。

工場を「アリーナ」、現場の方々を「アスリート」と見立て、地域の教育機関、地域音楽パフォーマーと共に作り込む「ものづくり体育祭」として躍動する。

FUTURE

さらなる地域の連帯感の醸成

検討を重ねる実行委員会では当初より開催までのプロセス共有の重要性を念頭に運営し、毎回各企業参加による充実した議論を展開したことで地域内企業間での新たな連帯感が誕生。「オープンファクトリー」という言葉は製造業のイメージが強いが、今回参加の調剤薬局も含め次年度の開催に向けた幅広い熱い議論が繰り広げられている。今後も製造業だけでなく様々な業種の企業にも参画を募り、さらなる連帯感の醸成を育みたい。

●事務局連絡先
大東商工会議所　事務局
〒574　0076　大阪府大東市曙町3－26
TEL　072　871　6511

INNOVATION

地域教育機関との新たな繋がり

一連の準備から当日の見学者との接点をとおして、各企業の従業員一人一人が自身の職場・仕事を見せる、見てもらえることに大きな喜びを感じることができた。具体的な当日の見学ルートや説明方法の検討など各社でリハーサルを重ねるうちに従業員それぞれが自身の担当分野で自ら創意工夫を凝らすようになるなど、能動的な成長が大きく実感される。また、終了後には「次年度さらに良い取り組みにしたい」との声が各社従業員から上がるなど、熱量はイベント後も継続している。

これらは「だいとうオープンファクトリー CONTACT」を進めるなかでのチームビルディングとして行った参加企業の相互訪問の実施も大きく寄与している。各企業の経営トップが自社の特色や魅力、経営の進め方などをオープンに説明し、それぞれの企業が事業の相互理解とともに、各々の経営手法の違いに大きな刺激も受けた。

また、各企業の社長がゼミに出向いて学生に自社の説明を行ったり、社長自ら高校生とともに見学者への説明の仕方などを議論できたことは学校側、各経営者双方にとって非常に新鮮な経験で、四條畷学園高校吹奏楽部からは演奏時の環境により変化する楽器の配置に必要な器具の制作依頼にも繋がった。

地域のさまざまな連携とともに多くの見学者に足を運んでいただけたことは企業にとって大きなアピールの場になり、従業員にとっても大きな教育の場となった。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

KISHIMOTO　MASATOSHI
岸本 昌利　氏
大東商工会議所
専務理事

当所着任以前は機械メーカーで役員として経営に携わり、子会社では直接経営の舵取りも行ってきた。企業買収や企業合併、人事制度構築など人にかかわる経験を多くしてきており、今回の企業の活力向上への取り組みに生かせている。より多くの人との接点を働く人に持って頂き、そこでの成長を期待するとともに今後は近隣で行われているオープンファクトリーとも連携しながら、さらに大きなシナジーを生み出したい。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

LEADER
古川 治樹　氏
株式会社 京伸　代表取締役

SUB-LEADER
篠原 篤史　氏
株式会社 生駒　代表取締役

企画検討を進めるための「実行委員会」を牽引したリーダー、サブリーダー。委員会発足時はともに 49 歳の同年齢同学年。大東市での独自オープンファクトリーにこだわり続け、大きな推進力を発揮。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

Tomoko 氏
大東市在住のハープ弾き歌いミュージシャン
NPO 法人大東夢づくりコミュニティ代表理事

十川 ももこ　氏
大東市在住の演歌歌手
野崎参道商店街公認演歌歌手

大東市の地元パフォーマーとして、実行委員会への出席からチームビルディングとなる各企業相互訪問そして広報。さらには地域のマルシェ誘致から開催当日の公演まで、幅広い協力を得る。

ともにあゆむ

OTHERS

参加企業

- 株式会社京伸
- 株式会社生駒
- 株式会社アクセスライフ
- 植田油脂株式会社
- 共栄化成株式会社
- 株式会社マルイ
- 明星金属工業株式会社

イベントを支えた教育機関

- 大阪産業大学商学科 藤岡（芳）ゼミ / 鈴木ゼミ
- 四條畷学園高等学校吹奏楽部
- 大阪桐蔭中学校高等学校プロジェクトワーク 「コンサルティング研究」

TRIGGER & STORY

誕生秘話

大東商工会議所として抱える地域製造業事業者減少の悩みのなか、2022 年 12 月に実施された「枚方産学公連携フォーラム 2022」に参加した折に開かれたオープンファクトリーに関するパネルディスカッションに、近畿経済産業局がモデレーターとして、東大阪で「こーぼへ行こう！」を牽引する株式会社盛光 SCM 草場社長がパネラーの一人として登壇されるセッションに巡り合った。内容は非常に興味あるもので、翌週には近畿経済産業局に面談を求め、さらには年末の忙しいなか草場社長にお話をお聞かせいただき、熱い想いに触れたことで、当所での取り組みが始まった。

TOPICS

「ものづくり」を超えた様々な方々の支え

検討を進める実行委員会ではハープ奏者の Tomoko さんや演歌歌手の十川ももこさんにも最初から加わって頂き、実行委員会の雰囲気づくりとともにインスタグラムによる情報発信など様々な協力を得た。また大阪産業大学では集客の検討、大阪桐蔭中学校高等学校コンサルティング研究では工場見学時の様々なアイデアと協力、そのほか四條畷学園高等学校吹奏楽部の公演、御領地車保存会によるだんじり囃子、世界全極真大阪府兼田道場の演武、さらには野崎商店街の方々、JA 大阪東部、橋本ファミリーファームの協力など、地域全体で活気あるオープンファクトリーを作り上げた。

参加企業相互訪問

2018年～

大阪府東大阪市

こーばへ行こう！

CORE VALUE

モノづくりをもっとオープンに

EVENT DATA

開始年	：	2018年
開催回数	：	7回
開催期間	：	11月/4日間（2023年）
参加企業	：	正会員33社、準会員2社、賛助会員1社 （※2023年12月現在）
来訪者数	：	約9,000人（2023年）
主催	：	東大阪市
実施主体	：	こーばへ行こう！実行委員会 一般社団法人東大阪ツーリズム振興機構

FEATURES

「まちなかパビリオン」を目指して

東大阪市は製造業の事業所密度が全国1位であり、徒歩圏内に幅広い技術を持った町工場が存在している。そのような「モノづくりのまち」である東大阪でも、世の中の情勢や事業承継の問題などにより、年々事業所数が減ってきている。こーばへ行こう!は、東大阪の町工場が中心となってモノづくりの魅力や楽しさを発信するだけでなく、東大阪を活気ある豊かなまちとするため、地元商店街・個人店舗、スポーツチームや学生など地域全体でスクラムを組み活動している。そして2025年の関西万博に向け、更なる連携により東大阪市全体が地域に根差した「まちなかパビリオン」となることを目指している。

FUTURE

工場を人が集う交流の場に

こーばへ行こう！の「こーば」には、「工場」と「交場（交流の場）」という2つの意味がある。普段は関係者以外立入禁止の工場が開放され、入ることができない工場に入り職人の技術に触れ会話をする。子供から大人まで幅広い年代の人々が「こーば」に集い、ホンモノの職人と一緒にモノづくりを体験し、マルシェで飲食をする等、各会場の工夫を凝らしたコンテンツを楽しむ。これまでは遠い存在であった工場が、世代を超えて人が集まる交流の場となる。

●事務局連絡先

株式会社盛光SCM

〒577-0848

住所　大阪府東大阪市岸田堂西2丁目8番25号

TEL　06-6727-2855（代表）

INNOVATION

人との出会いや交流から新たな挑戦が生まれる

2018年に1社のみで始まったこーばへ行こう！は、2021年から参加企業を募り始め、2023年には計33社となり、初めて東西でエリアを分け2週にかけて計4日間の開催となった。参加企業が増えて開催規模が大きくなるにつれ、より企業間の交流や協力が重要となり、現在は有志のメンバーが集まり役員会を運営している。本業では出会うことのなかった企業同士が「東大阪や業界を盛り上げたい」という想いで繋がり、一緒に取り組む中で強い絆が生まれている。また開催までの定例会では、参加企業同士が自社コンテンツの発表や意見交換により互いに良い刺激を受け、各社のモチベーションの向上や企業間連携に繋がっている。2023年は地元高校2校が新たに参画し、会場のレイアウトや制作物へのアイデア出し等、企業と若い世代との交流も生まれた。学生が独自のポスター・チラシやSNSを活用した広報活動を行ったり、巡回バスでのガイドを担ったりと新たな取り組みも生まれている。また市内外の参加者との交流の一つとしてフォトコンテストを初開催した。

今後は各地方との連携も視野に入れながら、まずは東大阪の魅力を最大限に高めていくため、市内での新たな交流や協力関係を模索しながら挑戦を続け、各地域それぞれ強くなることで日本全体を盛り上げていきたい。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

KUSABA HIROKO

草場 寛子 氏

株式会社盛光 SCM 代表取締役
株式会社 COBA 代表取締役
こーばへ行こう！ 実行委員長

2009 年、株式会社盛光 SCM 3 代目代表取締役に就任。「これからのモノづくりは、技術向上だけではなく、企業ブランドの価値や業界の認知度も高めていく必要がある」という視点から、2018 年より「こーばへ行こう!」を開催。また、人・ブランド・業界づくりに特化した「株式会社 COBA」を 2024 年より本格始動。現在は工業だけではなく、他業界ともボーダレスな関係を構築し、3 つの役割（商業活性・地域連携・観光資源発信）にも力を入れることで地方経済を活性化する活動に精力的に取り組んでいる。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

こーばへ行こう！実行委員会

子どもたちは、東大阪の工場で何をつくっているのか知らないことが多い。閉鎖的だった工場を、もっとオープンに。モノづくりの楽しさを、市民と一緒に。住民も工業も商業も学校も役所も、境界線を取っ払って、みんなで遊ぼう！こんな思いから「こーばへ行こう！」が始まった。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

実行委員会正会員（50 音順）

（株）アオキ
（有）アートステージ
（株）イゲタ金網
大阪石材工業（株）
大阪府立東大阪高等職業技術専門校
（一社）大阪モノづくり観光推進協会
オージーケー技研株式会社
勝井鋼業（株）
（有）カワチ
（株）関西オカムラ
（株）協立化工業
共和鋼業（株）
（株）ＣＯＢＡ
サクラテック（株）
サントー試作モデル（株）
（株）繁原製作所
（株）盛光ＳＣＭ
（株）摂津金属工業所
（株）たくみ工芸
デジタル本工房
（株）TOAI（ジャンカラディープ布施店）
ノースヒルズ溶接工業（株）
野田金属工業（株）
畑ダイカスト工業（株）
フセハツ工業（株）
マツダ紙工業（株）
マツヤ産業（株）
（株）松よし人形
三島硝子建材（株）
（株）水野製作所
（株）森友商社（中国料理祥瑞楼）
レンズビーンズ
（株）ワーク

準会員（50 音順）

（株）JTB 大阪第一事業部
（株）T-WORKS

賛助会員

大阪シティ信用金庫

協力

学校法人エール学園
（公財）大阪観光局
（公財）大阪産業局（ＭＯＢＩＯ）
大阪商業大学
大阪府ウォーキング協会
近畿大学
近畿大学附属高等学校
工場を記録する会
ジャック製菓（株）
樟蔭高等学校
ＨＯＳ（株）
全日本プラシ工業協同組合

TRIGGER & STORY

誕生秘話

住工混在のまち東大阪市。長年騒音や臭いの課題等を抱え、次第にシャッターを閉めて操業する状況を打破したのは、「こーばへ行こう!」だった。当初は 19 年ラグビー WC に向けた「モノづくりのまち東大阪」のブランディングとして、近畿大学と東大阪市、商工会議所の三者が協力してスタート。次第に出会いの「交場」として町工場と地域住民の関係構築、観光や地方創生を視野に入れた現在の企画が出来上がった。連携企業として、地域やモノづくりに熱い想いを持つ地場企業代表の草場氏に依頼。草場氏も他地域でのオープンファクトリーに刺激を受けていたところであり、産学官の連携が実現した。モノづくりの最盛期の活気を新たな形で取り戻すためにも「住工共生」を今後とも目指して行く。

TOPICS

工場で開催！ Co-Bar イベント

工場をより気軽に、より身近に感じてもらうため、2023 年は 8 月から 10 月まで月一回、最終金曜日に会場（盛光 SCM、協立化工業、サクラテック）を替えて、普段は立入禁止の工場が交流の場（交場：こーば）として Co-Bar を開催。それぞれの工場の特性を生かしたステージ上でのライブやマジック等のエンターテイメントや縁日、そしてバーやマルシェなどを展開し、非常に賑わった華やかなイベントとなった。

（写真）工場見学・ワークショップ体験、Co-Bar の様子等

2023 年〜

兵庫県神戸市

開工神戸 -KOBE OPEN FACTORY-

CORE VALUE

ものづくりを切りひらけ

EVENT DATA

開始年　：2023 年
開催回数：2 回
開催期間：1 月 / 2 日間
参加企業：33 社
来訪者数：約 6,500 名
主催　　：KOBE OPEN FACTORY 実行委員会

FEATURES

工場（こうば）を開く。人がつながる。

「開工神戸（かいこうこうべ）」は、神戸市内にあるものづくり企業の工場・工房を公開し、見学やワークショップを実施するイベント。

「開工」は、オープンファクトリーをそのまま日本語にした「工場を開く」と、諸外国との交流の中から独自の文化を発展させてきた港町神戸の「開港」、“めぐり会うこと”を指す「邂逅（かいこう）」の 3 つの言葉が由来。普段は人を招き入れることのない仕事現場を公開し、様々な立場の来場者と交流することで、企業は自社製品や仕事に対する生の声や気づきを得ることができる。来場者にとっては地域産業のポテンシャルを体感できる場となる。

FUTURE

神戸市全域を会場に。

第 1 回目・2 回目の開催は、神戸市の中でも、古くからものづくり産業が盛んな長田区を中心に開催。一方で、神戸のものづくり企業は長田区以外にも多数ある。市北部に位置する北区や西区には複数の工業団地があり、南部の海上に浮かぶポートアイランドや六甲アイアンドには多くの工場が集結している。2024 年度以降は、市内各地への展開や大阪・関西万博との連携を視野に入れ、地域産業全体の活性化・高付加価値化につなげていきたい。

●事務局連絡先
KOBE OPEN FACTORY 実行委員会
〒 651-0021　神戸市中央区　宮町 3 丁目 1-16　　星ビル 2 階
（株式会社神戸デザインセンター内）
Mail contact@kaikohkobe.com

INNOVATION

企業・クリエイター・学生など多様なプレイヤーが立場を越えて活躍する場に。

オープンファクトリーの開催は、決してゴールではない。開催に向けて、企業・クリエイター・学生・支援機関など多種多様な人材が活動をともにすることで、自然とつながりが生まれてコミュニティができる。

企業とクリエイターが交流することで、型どおりに製造することを事業の主軸としていた企業が、自社製品を新たに販売し、製造卸や製造小売などに業態を多角化させたり、企業と学生が出会うことで、大企業しか知らなかった学生が、ものづくり中小企業の魅力を知って、就職先として志すきっかけになったり、オープンファクトリーの開催後も良い影響が見込める。

神戸は、明治時代から港を中心に発展し、造船、鉄鋼といった重工業にはじまり、機械金属、化学、エネルギー関連などの日本を代表する製造関連の企業が多数立地している。さらに、欧米の文化や産業が流入したことで、洋服・靴・洋家具・洋菓子・パン・コーヒー・真珠加工等の独自の地場産業も発展してきた。

新しいものを積極的に取り入れる受容性から、様々なイノベーションが生まれてきた神戸の地で、「開工神戸」が新たな共創や地域産業の付加価値向上につながるきっかけになることを期待している。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

IFUKU　MOTOHIKO
伊福 元彦 氏
KOBE OPEN FACTORY
実行委員会 実行委員長
伊福精密株式会社
代表取締役社長

NAGAI NOBUAKI
長井 伸晃 氏
神戸市企画調整局調整課
課長（SDGs 推進担当）
Forbes JAPAN スモール・
ジャイアンツ イノベーター

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

KOBE OPEN FACTORY 実行委員会
開催初回のコンセプトメイク、企画の段階から関わっている神戸市内企業が中心となり実行委員会を結成。神戸市内で活躍するクリエイター達が事務局を担い、企業の想いをカタチにする。

MAEKAWA　TAKUJI
前川 拓史 氏
副委員長
織り株式会社 代表取締役

NAKASAKA　KAORU
中阪 薫 氏
副委員長
株式会社神戸熔工

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

KOBE OPEN FACTORY 運営事務局

山下 和希 氏
株式会社
神戸デザインセンター
執行役員

立花 成基 氏
阪急阪神マーケティング
ソリューションズ株式会社

岩本 順平 氏
一般社団法人 DOR
代表

ともにあゆむ

OTHERS

YOUTH TEAM

江副 真文 氏
一般社団法人 SAZARE
代表理事

学生スタッフ
県内各地から集まった大学生スタッフの皆さん
誘導から各工場の案内まで、
運営に欠かせないメンバー

TRIGGER & STORY

誕生秘話

業種や立場を越えて、神戸の企業が協力しあい、魅力的なプロジェクトが日々生まれるようなコミュニティを作りたい。それがオープンファクトリー開催のきっかけだった。中小企業の経営者や、大手企業の開発部門、スタートアップ、支援機関がごちゃ混ぜになりながら切磋琢磨する環境が生まれるには、開催に向けて皆が協力して一致団結できるオープンファクトリーは最適のイベント。開催にあたって、主役となる企業をはじめ、事務局を務めるクリエイティブメンバー、ボランティアとして携わる学生など、普段は関わることのない人々が参画し、自然と良好なコミュニティが生まれつつある。

TOPICS

2024 年、規模・内容ともに拡大

2023 年 3 月 4 日、「開工神戸」を初開催。15 社が参加し、約 3,000 名の方に来場いただいた。

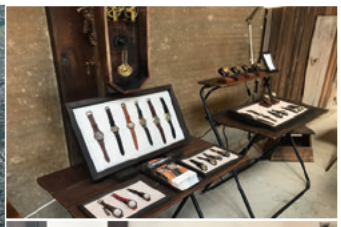
2024 年の開催は、同じ長田区を中心としながらも、参加企業数が倍増。会場が広範囲に拡がることによる移動の不便さを解消するため、回遊バスを走らせる。さらに、ものづくり企業や神戸・長田の魅力をより知っていただくために、パネル展示や周遊ツアーを実施。2025 年の大阪・関西万博を見据えて、ホームページの多言語対応など、インバウンド観光コンテンツとしての造成も試みる。規模・内容ともに充実を目指し、「開工神戸」の更なる発展に挑戦する。

（写真）2023 年 3 月開催の様子

2021 年〜

兵庫県丹波篠山市

CRAFT VILLAGE



CORE VALUE

工芸を身近に感じる 5 日間
広がれクラフトの輪

EVENT DATA

開始年　：2021 年
開催回数：4 回
開催期間：5 月頃（春開催）10 〜 11 月（秋開催）
参加企業：32 社（2022 年秋）
来訪者数：約 1,200 人（2022 年秋）
主催　　：丹波篠山クラフトヴィレッジ製作委員会

FEATURES

つくる人・物・場所にふれる場

市内には 850 年の歴史を誇り、60 の窯元がしのぎをけずる丹波焼の他、木工、ガラス、革、陶芸など数多くの工芸家が活躍している。他の地域のオープンファクトリーは「産地」の活性化を目的としていることに対して、丹波篠山には移住する工芸家も多く、「新しい産地」が生まれ始めていることが特徴。

CRAFT VILLAGE では、丹波篠山の作家たちが出店する「王地山クラフトマーケット」と普段は見ることのできない工房を見学できる「オープンスタジオ」が開催され、つくる人・物・場所にふれる場となっている。

ものづくりをする工芸家が心地よく手仕事に携わることができるよう、また、工芸について地域の人々が理解する、そんな地域を目指していきたい。

FUTURE

工芸品を中心とした好循環を目指して

初回開催は、2021 年秋。2022 年は季節の良い春・秋の 2 回開催を目指し、企画・開催してきた。

丹波篠山は移住者が多い町、すなわち多様な能力を持った人材の宝庫である。そうした多様な人材が集まる CRAFT VILLAGE は、今後さらなる多様な発展が期待される。

工芸品を使用する人が増え、工芸家同士も繋がり、ものづくりにとって良い里となっていく。そしてまた作り手が増えていく、そんな好循環を目指していきたい。

INNOVATION

試行的ガイドツアーから見いだす将来性と連鎖する拡張性

今回の CRAFT VILLAGE に併せて、様々な関係者をアテンドするツアーを、実行委員であり通訳案内士の田川氏の案内で開催した。

有識者、議会関係者、その他、外国人留学生など様々な視点からツアーを実施したところ、参加した方々にリアルを体感いただき、CRAFT VILLAGE を応援する意義を共有出来た。

またこの共有は訪れた事業者の方のお話から得られる刺激ももちろんであるが、参加者同士が移動途中の行程で「ここが良かった」「ここはこう思った」など意見を交わす時間があり、その互いの発見同士を共有することでより理解が深まることとなった。これらは、本気で CRAFT VILLAGE を楽しむ「ファン」が増える効果に繋がったと考えられる。

さらに、今回の取組に当たって市民の方々に大きな刺激を与えたことも印象的。自分たちが住む町への新しい気づきが生まれるなどシビックプライドが形成される効果を生み出した。

工芸家同士の交流にもつながり、創作意欲をかき立てるものともなっている。「互いを知るため」と小さく始まった取組は、まだまだ大きく進化する。

●事務局連絡先

丹波篠山クラフトヴィレッジ製作委員会

公式サイト　https://ts-craftvillage.com/
公式 Instagram　@ ts_craft.village

TS_CRAFT.VILLAGE

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

KAKO KATUMI
加古 勝己 氏
丹波陶磁の陶芸家
丹波篠山クラフトヴィレッジ製作委員会 代表

京都市出身の丹波陶磁の陶芸家。
京都・西脇・丹波篠山と活躍の場を移しながら数々の作品を生み出す一方、山の楽しさなど地域の魅力発信に尽力するキーパーソン。移住者が増えるまちで、ゆるやかなネットワークを求める声を「CRAFT VLLAGE」という形で実現した。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

中西 一矢 氏
SANROKU

田川 剛 氏
通訳案内士

竹内 保史 氏
王地山陶器所

仙林 寛実 氏
地元大好き丹波篠山っ子

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

林 健二 氏
般社団法人 TSUMUGI 代表理事

仙林 寛実 氏
地元大好き丹波篠山っ子

TRIGGER & STORY

誕生秘話

丹波篠山市では、丹波焼に代表される工芸や建築、農林業、祭礼など地域固有の文化や生活文化が持つ「創造性」に加えて、京阪神からの利便性や自然豊かな生活環境もあり、近年移住して工房を構える方々が目立つようになった。そうした中、訪れる観光客との交わりだけでなく、移住工芸家同士の交流、地域の人々との交流の必要性が高まっていった。

地域の人々に、どんな人が近所でものづくりをしているのかを知ってもらうとともに、現場の空気感や使い古された道具などを見てもらい、ものづくりの深さやおもしろさを知ってもらいたい。また、工房で作業する作家にも、自分の工房で販売する強みを理解してもらいたい。そんな思いがあり、「作り手」と「使い手」の思いが伝わるイベントとして 2021 年秋に「丹波篠山クラフトヴィレッジ」が企画・開催されることとなった。

TOPICS

コラボレーション商品「ワークエプロン」の製作

2022 年春、クラフトヴィレッジ製作委員会と 4 名の作家によるコラボレーション商品「ワークエプロン」の製作企画がスタートした。4 名の作家である agarito(デザイン・縫製担当)、居七十七（ボタン製作担当）、けせら工房（染色担当）、handmade shoes Nelio(レザーパーツ製作担当) の、それぞれの技術・強みを活かしたワークエプロンである。同年秋に完成し、10 月に開催された王地山クラフトマーケットにて 10 着限定で販売された。

（写真）開催の様子

2021 年～

奈良県大和高田市、広陵町、葛城市、上牧町、香芝市、田原本町

SG ストリート NARA

CORE VALUE

ものづくりの新たな価値を創造する アトツギ達の一大フェスティバル

EVENT DATA

開始年　：2021 年
開催回数：1 回（2021 年）
開催期間：6 月頃
参加企業：21 社（2021 年）
来訪者数：40 人（2021 年）
主催　　：（一社）サスティナブルジェネレーション

FEATURES

地域に関わる人たちとつくりあげる進化形オープンファクトリー

奈良県内の幾多の場所で数多の人々の魂が込められて、ひとつの製品が生み出されている。奈良のそんなものづくりを、つくり手自らが伝える場が、奈良初のオープンファクトリー「SG（サスティナブル・ジェネレーション）ストリート NARA」である。その特徴は、単なる「工場見学」ではなく、つくり手たちの“経験”と“誇り”が詰まった魂の声を、奈良県の学生たちが若さならではの好奇心で映像化する点である。それを地域住民を含むステークホルダー、社員とその家族たち、異業種のつくり手たちと共有していく、進化形オープンファクトリーである。

FUTURE

強みを編み込むことで生まれるイノベーション

参画企業の多い大和高田市や広陵町には「靴下」の製造ブランド企業が多く所在し、近年その知名度は全国に広がっている。また近隣の大企業やスポーツチームとの交流を持つ機関・企業など、それぞれが保有する技術・チャネルの強みを掛け合わせ、訪れる人々の数だけに注目するのではなく、参画企業同士を繋げ、編み込むことで生まれるイノベーション創出を期待し、次回開催に向けて準備を進めている。

INNOVATION

業種を超えた企業が繋がり、新しい価値観に出会える場

SG ストリート NARA の活動のベースは、SG NARA のコアな取組である「ツキイチ SG」である。「ツキイチ SG」は月 1 回、SG NARA 発起人企業が用意する場であり、発起人と参加者 15 ～ 30 人程度で実施する、2020 年度にスタートした小規模対話会である。

SG NARA には製造業・金融業・サービス業等様々な業種が集まり、ひとりでは思いつかないことや新しい価値観に出会えるきっかけの場になっている。

バックグラウンドも業種も異なる色々な人が、色々な角度から自分の考え方や想いに対して、意見を述べてくれる。時には悩み事も自由に話し合える場である。

例えばコロナ第一波時に、メンバーが受託した医療用ガウン 10 万枚の生産を、縫製業界関連メンバー 4 社が協力して納品した事例がある。

また、金融機関勤務のメンバーが、家族の起業にあたってツキイチ S G で相談したところ、何人ものメンバーから、マーケティングや資産調達等の実務のアドバイスや、起業の考え方、心の持ち方まで、様々な角度からの親身な助言を受け、新たなスタートをきることができた事例などがある。

コロナ禍等の影響を受け、2022 年秋頃まで活動を一時停止してきたが、関西のオープンファクトリー関係者が集まり、討論を繰り広げる会合への参加を機に、本格再開に向け再始動している。

●事務局連絡先
SG NARA 事務局
〒635-0834
住所　奈良県北葛城郡広陵町大塚 507（株式会社アクラム内）
E-mail　info@sg-nara.org

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

KATSUYA KIMIHIKO

勝谷 仁彦 氏

株式会社アクラム 代表取締役
SG NARA 代表発起人

東京都出身、奈良県育ち。大学卒業後、会計事務所にて 10 年間のコンサルタント業務に従事した後、2010 年、家業、株式会社アクラムを継承。2012 年代表取締役に就任。ファクトリーチームウェアブランド「スクアドラ」を立ち上げ、チームのチカラを発揮させる社会の実現を目指しながら全国展開する。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

SG NARA 発起人

『SG NARA』は、Sustainable Generation（持続可能な世代交代）で成長を図ることを究極の目的に、奈良で生きる経営者そして経営者でない人も含め「変わりたい」「何とかしたい」という「思い」「意思」を持つ全ての人のつながりの場を作っていくプロジェクト。

吉田 佳代 氏
梅乃宿酒造株式会社
代表取締役社長

南島 忠男 氏
株式会社ミナミシマ自動車販売
代表取締役社長

高木 美香 氏
株式会社高木包装
代表取締役社長

谷 英希 氏
株式会社ヴァレイ
代表取締役社長

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

ディレクター
村松 葉子 氏
有限会社ゲイル
代表取締役

オープンファクトリー発案者
秋本 大輔 氏
株式会社新田
工場長

企画・運営
中﨑氏・水上氏
SG NARA 事務局

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

小杉 一人 氏

広陵高田ビジネスサポートセンター KoCo-Biz（ココビズ）
センター長

文化服装学院デザイン専攻科卒業後、イタリアプラダグループなどで営業・販促を担当。その後、LVMH（モエ・ヘネシー・ルイ・ヴィトン）グループにて取締役を務め、2019 度までソニアリキエルジャポン株式会社の代表取締役を務める。約 23 年間にわたって世界的企業で事業の創業や再生に携わった経験を生かし、ブランドや物事の本質を常に見ながら、地域のものづくり企業が、新しい時代の事業を隆盛するためのサポートを献身的に行っている。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

ツキイチ SG の参加者が、コロナ禍でも地元の結びつきを広げるマルシェを実施したことについて情報共有があったことがきっかけである。そして互いの経験を共有する価値は、企業人だけでなく、地域にも知ってもらいたいとの考えから、他地域でも潮流が生まれつつあったオープンファクトリーについての提案が生まれ、具体的な実施に向けて検討がスタート。取引先に対する工場見学ではなく、これまで関わりのなかった業界・市場、そして消費者との接点を持つことで地域に新たな刺激をもたらすことを期待し、市町村はもちろん、地域金融機関ともタッグを組んで進められた。

開催のタイミングは当初 2021 年 3 月を予定していたが、緊急事態宣言発出に伴い延期となり、6 月開催となるなど初回から多くの苦労も経験したが、生まれた時間で地域近隣大学との連携を進めるなど、進化に繋げる対応力は SG NARA が培った交流力の賜物と言える。

TOPICS

こたつ会議内マルシェへの出展

梅田のグランフロントナレッジキャピタルにて定期的に開催されている「こたつ会議」。その名のとおり、こたつを囲みながら、公開討論を繰り広げる場である。2022 年 10 月に開催された「こたつ会議」では、マルシェも開催され、関西のオープンファクトリー SG NARA、RENEW、DESIGN WEEK KYOTO、FactorISM から 30 社を超える企業が出展。SG NARA のメンバーからは 7 社出展し、ワークショップや実演を行った。

（写真）月イチ SG・参加企業等

2022 年〜

和歌山県和歌山市、海南市、橋本市、紀の川市

和歌山ものづくり文化祭

CORE VALUE

ものづくりの未来を創る、体験と学び

EVENT DATA

開始年　：2022 年
開催回数：2 回
開催期間：12 月（2023 年）
参加企業：26 事業者
来訪者数：延べ約 5,000 人（2023 年）
主催　　：和歌山オープンファクトリー推進委員会
共催　　：和歌山県

FEATURES

ものづくり企業がつくる、体験参加型イベント

和歌山ものづくり文化祭は、「ものづくりの未来を創る、体験と学び」をテーマに、和歌山県北部の伝統産業等をはじめとする製造業が一堂に和歌山城ホールに集い、各社の技術をその場で体験し楽しめる、「ものづくり企業がつくる、体験参加型イベント」である。

体験型ワークショップや製作実演等全 22 ブースが並び、会場内には段ボールによる什器や大工によるゲート、参加事業者が提供する端材を使った巨大なアートオブジェも飾られた。

FUTURE

もの文× ○○！「産地・和歌山」を共創するコミュニティへ

2 回目にあたる 2023 年はものづくり企業からなる実行委員会と、金融機関・支援機関・デザイナー等多様なステイクホルダーが関わる事務局で組織的な運営を行った。EXPO 酒場和歌山店や和歌山市民図書館でのポップアップイベントなど、他団体と連携し通年で数々の企画を開催することで、通年で和歌山のものづくりの魅力を発信している。外部のステイクホルダーと連携することで、自分たちだけではできなかった新しい挑戦や情報発信が可能となる。今後も「もの文×○○」でさまざまなパートナーと響き合いながら産地を盛り上げていきたい。

●事務局連絡先

和歌山ものづくり文化祭 事務局

〒 641-0007
和歌山県和歌山市小雑賀 2 丁目 2 番 31 号 菊井鋏製作所内
TEL 080-5331-4495（菊井）

INNOVATION

初回開催で生まれた他地域や学生との連携

和歌山ものづくり文化祭 2023 では、12 月 2 日・3 日の 2 日間にわたり紀北エリアのものづくり企業が和歌山城ホールに結集し、各ブースでそれぞれの技術を使った体験ワークショップを開催。初回時以上に、ポップアップイベントや出展企業の交流機会を創出した。さらに年間を通じて県内や他地域との連携を図り、2023 年は EXPO 酒場和歌山店 with 和歌山ものづくり文化祭（7 月、和歌山城ホール）、小学生対象のものづくりイベント「なつやすみファクトリー」（7 月、和歌山市民図書館）、和歌山ものづくり文化祭チームでの千年未来工藝祭への出展（8 月、越前市）などを行った。

また、株式会社ミテモ 杉谷昌彦氏をアドバイザーに加え、出展企業の参加目的や伝えるべきことを深掘りする相談会を複数回開催し、出展を通じて自社のものづくりの価値や伝え方の磨き上げを行った。文化祭当日には、新山直広氏をはじめ鯖江・越前のオープンファクトリー RENEW をゲストに招き、トークイベントを開催。テーマごとに 4 つのセッションに分かれ、他地域の取組から産業観光やものづくりの可能性を学んだ。

さらに、学生との連携を目的に、和歌山県の移住定住推進課が有するプラットフォームを活用して、学生ボランティア「ミラスタ」を募集。「イベント全体の募集」ではなく「ブースごとの手伝い」という形で募集し、希望する学生には事前に工場見学を行った。これによって、学生にとっては興味のある企業・分野に応募でき、学びを得るとともに、仕事内容を知ることができた。事業者にとっては、採用に向けた PR の機会となった。

過去 2 回の和歌山ものづくり文化祭を通じて、これまで交流がなかった事業者どうしが繋がりを作ったことで、本業でも新しいプロジェクトが生まれ始めている。2023 年開催からはものづくり企業ではない行政・支援機関が運営に加わったことで共創の幅が広がっている。本業でない文化祭での出会いだからこそ、新たなイノベーションを生み出すための「砂場」として機能すると感じている。今後も、出展企業やステイクホルダーが学び合うコミュニティとして、関わる人とともに「もの文」が成長していくことを期待している。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

KIKUI KENICHI
菊井 健一 氏
有限会社菊井鋲製作所　代表取締役
和歌山ものづくり文化祭
実行委員長（全体統括）

大学卒業後すぐ、祖父の代から続く有限会社菊井鋲製作所に入社し、ハサミづくりの基礎から学ぶ。2016年、28歳で3代目として事業承継を行なう。他地域のオープンファクトリーイベントに触発され、地元和歌山市での開催を志し、実行委員会を立ち上げる。実行委員長として、2022年11月に「和歌山ものづくり文化祭」の開催に尽力。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

YAMAGA　YUICHI
山家 優一 氏
株式会社山家漆器店　代表取締役
「黒江るるる」 実行委員長

TSUJIOKA　DAIKI
辻岡 大樹 氏
合同会社ウッディーズ
代表／CEO

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

アートディレクター
大裕 神 氏
株式会社ハクシャ

事務局
吉田 圭吾 氏
和歌山県庁　企業振興課

事務局
太田 佳宏 氏
公益財団法人わかやま産業振興財団

事務局
西 政也 氏
きのくに信用金庫　地域支援部

事務局
長命 洋史 氏
株式会社リーディット

アドバイザー
杉谷 昌彦 氏
ミテモ株式会社　シニアディレクター
立命館大学デザイン科学研究センター客員研究員

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

きのくに信用金庫
地域支援部

- 蔦屋書店、和歌山市民図書館店でのポップアップストアの企画提案・協力
- デジタルサイネージ広告の掲出
- 当日の本部運営スタッフ支援　他

南海電気鉄道株式会社
まち共創部

- 南海和歌山市駅直結の複合施設「キーノ和歌山」のクーポン券の発行
- 南海線駅構内や南海電鉄公式SNSでの情報発信、和歌山バスでの告知物掲示　他

TRIGGER & STORY

誕生秘話

仕掛け人である菊井氏は、2021年に開催された日本工芸産地博覧会（大阪府内万博記念公園にて開催）に出展。その時、各地のキーパーソンが参加しており、「和歌山でも産地を盛り上げていかなければいけない」と強く感じたことが大きなきっかけである。今、産地のイベントをできているかどうかで2025年以降の様相は変わってくる、そんな危機感を持った。

同博覧会への参加は、ものづくりの価値を再考するきっかけにもなった。ものづくりの場面のどこを切り取り、どうしたらワークショップ参加者に喜んでもらえるか等様々な学びがあった。そうして学び、吸収したものを、和歌山でも取り組みたいと考え、第1回開催に向けた活動がスタートした。

TOPICS

官民が連携することで、持続可能な運営に

和歌山ものづくり文化祭では、今年度から和歌山県、きのくに信用金庫、公益財団法人わかやま産業振興財団、株式会社リーディットが事務局を構成し、運営体制を強化した。Web会議ツールの「ZOOM」やチャットツールの「Discord」などを活用することで、様々な組織のメンバーが情報をスムーズに共有できる体制を構築した。

運営についての課題は山積みであるが、一つずつ解消し、持続可能な運営を目指す。

（写真）会場・ワークショップ体験の様子

2020 年～

和歌山県海南市

黒江るるる

CORE VALUE

あるく*・みる*・つくる*
ものづくりの楽しさを体感！

EVENT DATA

開始年　：2020 年
開催回数：4 回
開催期間：11 月頃
参加企業：8 社
来訪者数：約 93 人（2023 年）
主催　　：黒江あるく・みる・つくる実行委員会

FEATURES

多様なものづくり体験やまち歩き提供の場

4 回目となる 2023 年開催では、2022 年開催同様、「紀州漆器まつり」と、同日開催をし、体験人数以上に数多くの方に黒江の町並みや職人体験などに触れていただけた。タンブリン作り、棕櫚たわし作り、竹あかり作り体験などの体験だけでなく、過去開催で人気のあった、プロタンブリン奏者の田島氏のライブなども盛り上がり、黒江周辺のものづくり企業を知っていただく機会となった。黒江るるるが開催される海南市黒江は、迷路のような家並みと職人の技が光る建物が今も残る町。町歩きも楽しめるようにと、謎を解きながら地域内をめ ぐるゲーム「るるる謎」も企画・開催されている。

FUTURE

他イベントとのタイアップで地域に賑わいを

2023 年はこれまで同様黒江の町並みに集結し点在した場所場所で体験や見学ができる黒江るるるを開催をしたが、やはりものづくり企業に直接伺いたいという意見も多数いただくようになっている。

今後は各工場などをオープンにすることで、オープンファクトリー的要素を強くしていきたいという意向もあり、2024 年以降は新しい「るるる」を魅せていければと考えている。

INNOVATION

刺激と触発を連鎖させるイノベーティブな地域

イベント開催をきっかけに、漆器産業と同様に和歌山の重要な伝統産業「棕櫚たわし」、隣町紀美野町で活躍する手漉き和紙、木製国産タンブリンのトップシェア企業、木製打楽器カホンなど、業界を超えた新しい繋がりができたことが、1 つの大きな効果である。

加えて、企業同士、また住民が企業について知ることができ、ローカルインナーブランディング形成に大きく寄与したことは、地域にとっては大きなイノベーションであった。実際、参加企業が知らなかった事業者等もあり、黒江の町の魅力再発見に、大いに期待できる取り組みである。

また日頃行っているものづくりについても、お客様に喜んでいただける大きなコンテンツの一つであるということを知るきっかけとなった。「こんなもので喜んでくれるのか?」といった疑念から、自分たちの技をもっと知って欲しいという意欲につながっている。

2021 年の「黒江るるる」の実施に際して活用した「クラウドファンディング」は、地域に新たな学びを与えた。クラウドファンディング実施後、古民家を修繕、保全に取組み、コミュニティスペースを作るために、クラウドファンディングに取り組むメンバーが生まれている。

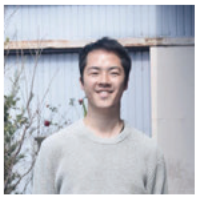
業種を超えて、互いに「あるく・みる・つくる」を共有し、様々なチャレンジをすることで刺激と触発を連鎖させ、イノベーティブな地域へと着実に進化を遂げている。

●事務局連絡先
黒江あるく・みる・つくるプロジェクト事務局
〒 642-0011　和歌山県海南市黒江 692
E-mail　yamagakinan@gmail.com （山家）

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



YAMAGA YUICHI

山家 優一 氏

株式会社山家漆器店　代表取締役
株式会社やまが　代表取締役
黒江るるる　代表

日本四大漆器産地の一つである紀州漆器を中心に工芸品を取り扱う山家漆器店の四代目。2023 年 10 月に法人化し株式会社山家漆器店へ。

紀州漆器の新たな可能性を模索するインテリア製品ブランド「KISHU+」の運営にも参画。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

発起人

池原 弘貴 氏

池庄漆器店　五代目店主

創業明治 9 年の漆器問屋で店舗は築 220 年の国の登録有形文化財に指定されている。7 年間町づくり団体 " 黒江の町並みを活かした景観づくり協定（通称：黒江 japan）" で代表を務め、地元住民とサポーターを巻き込みながら古民家や景観を活かした様々なイベント企画や活性化に尽力。

黒江ぬりもの館　代表
瀬戸山 江理　氏

まちづくり会社 株式会社楽善舎 代表
古民家カフェ黒江ぬりもの館 店主

和歌山市から海南市黒江に移住。海南市地域おこし協力隊（2018 年 10 月 - 2021 年 9 月）広報担当。仲間たちとともに『黒江』の魅力を発信すべく『黒江めった祭り』『こみちあるき』等の地域イベントを手がける。地域にある遊休不動産を活用したコミュニティスペース『黒江 tettote ～旧岩崎邸』を創造中。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

黒江 japan

黒江の町並みを活かした景観づくり協定（通称「黒江 japan」）は、2011 年に和歌山県景観条例知事認定第 1 号として認定された。紀州漆器で栄えた黒江の町並みを守り、育て、次世代に引き継いでいくことを目的に、空家の有効活用・町並み保全・地元住民を巻き込んだ様々なイベント開催など、地域に根付いた活動をしている。

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

協賛パートナー

池庄漆器店、黒江ぬりもの館、ケアチーム大河、株式会社小久保工業所、株式会社サンコー、株式会社仕事旅行社、タカラ製菓株式会社、東京医療保健大学ボランティアサークル Leverage:)、有限会社なかにし、早川工業株式会社、有限会社原見段ボール、古田組、株式会社星田建設、株式会社やまが

後援パートナー

近畿経済産業局、海南商工会議所、海南市教育委員会、海南市観光協会、和歌山県、海南市

コラボレーションパートナー

和歌山ものづくり文化祭

TRIGGER & STORY

誕生秘話

これまで 31 年間続けられてきた黒江地区で開催される大型イベント「紀州漆器まつり」が新型コロナ禍により中止に。これは漆器業者だけでなく、周辺飲食店においても深刻なダメージを経済・精神面共に与えることとなった。そのため、漆器業界やまちづくりに関わるメンバーが「出来ること」を考えたいと「黒江あるく・みる・つくるプロジェクト」を企画。参加者を限定する予約型ワークショップの形とすることで、感染リスクを抑えながらも、黒江の魅力を知ってもらう取組として企画されたのが始まりである。資金もクラウドファンディングで集め、目標金額を達成。

（写真）イベント・ワークショップ体験の様子

2018 年～

岡山県津山市、鏡野町、勝央町、奈義町、久米南町、美咲町

つやまエリアオープンファクトリー

つやまエリア
オープン
ファクトリー

CORE VALUE

工場・会社の魅力を発見！！

EVENT DATA

開始年　：2018 年
開催回数：4 回
開催期間：例年 7 月中・下旬 / 2 日間
参加企業：56 社（2023 年）
来訪者数：2,319 人（2023 年）
主催　　：つやま産業支援センター

FEATURES

地域の子どもたち向けプログラム

人材確保に苦慮している状況が続く中、地域の子どもたちに地元の中小企業（製造業）を知ってもらうことで、将来の地元就職につなげることを目的に、つやま産業支援センターと岡山県美作県民局が企画・開催。2018 年の初開催では合計 45 社・47 ヵ所の工場等を公開。モノづくり体験＋工場見学、市教育委員会と連携したバスツアー、金属加工企業体によるモノづくり企画ツアー、スタンプラリー、ノベルティグッズ等、充実したプログラムを開催した。

FUTURE

参画企業の多様化でさらに魅力あるイベントに

今後も小学生とそのお父さんやお母さんをメインターゲットとして開催し、親御さんも含めて地元企業の取組や魅力を知ってもらうことで、将来の就業につなげたい。2022 年はコロナ禍での開催であったため、規模を縮小しての開催となったが、開催できたことは非常に意義があると感じている。来年の開催時には、さらに参加者を増やしていきたい。そのため、これまで主に参画されてきた製造業の企業に加えて、サービス業、農業、林業等他の業種の事業者にも参画いただきたいと考えている。

INNOVATION

企業間連携と職場環境の改善

つやまエリアオープンファクトリーの体験プログラムの 1 つに、3 企業がコラボレーションする体験プログラムを企画した。1 つ目の企業で素材をつくり、2 つ目の企業で加工し、3 つ目の企業で仕上げをする形で、企業同士が連携した体験プログラムである。元々高いステンレス加工技術により共同受注している企業グループがあり、どの会社にどのような技術・機械があるというのをお互い知っている。そうした背景もあり、このような画期的な体験プログラムの開催が実現した。

個々の企業の動きでは、参画企業の内、それまで外部との交流がなかった企業が、オープンファクトリーをきっかけに、外部交流への参加を従業員に積極的に促すというような変化も生まれている。

また、夏場に開催するため、工場を訪れた小学生が汗びっしょりになっている姿を見た経営者が、「子どもたちに快適な環境で見学して欲しい」と工場内の環境改善を痛感。翌年度には空調設備を導入するなど、職場環境の改善にも役立っている。

受賞アワード

2020 年　第 9 回地域産業支援プログラム表彰事業（イノベーションネットアワード 2020）一般財団法人日本立地センター理事長賞　受賞

●事務局連絡先

つやま産業支援センター（津山市みらい産業課）

〒 708-0004
岡山県津山市山北 663 津山市役所東庁舎 1 階
TEL 0868-24-0740

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

NUMA YASUHIRO

沼　泰弘 氏

津山市産業経済部 みらい産業課 課長
つやま産業支援センター 事務局長

津山工業高等専門学校卒業後、IT 企業を経て 1996 年津山市役所に入庁。商工観光課、企業立地課、産業政策課など経て、2014 年に新産業創出課でつやま産業支援センターの設立に尽力。多年に渡り地域産業の振興、地方創生に関わる業務に邁進。

私自身を振り返ると、津山高専在学時も津山市の企業についてはほとんど知らないまま過ごし、同級生の９割は都市圏に就職しました。IT 企業から転職する際にも、企業情報がわからず民間企業ではなく公務員を選びました。だから、若い人たちが津山を出ていく、津山に根づかない、津山に戻ってこない、という事情もわかるのです。
自分の経験も踏まえ、人財育成の第一歩は地元の産業を知り、興味を持つことだと思い「つやまエリアオープンファクトリー」を企画しました。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

津山市副市長

乗村 功士 氏

岡山県美作県民局の課長職であった当時、沼氏とともにつやまエリアオープンファクトリーの企画構想を検討。圏域での開催を主導し、関係者への説明・調整、予算獲得にも尽力した。

つやまエリアオープンファクトリー主催

つやま産業支援センター

TSUYAMA BIZ
BUSINESS SUPPORT CENTER

つやま産業支援センターは 2015 年設立。地域企業のチャレンジを応援し、魅力的な雇用の創出、地域経済の活性化を目的に活動。企業との密接なネットワークを基に、つやまエリアオープンファクトリーへの参加企業を集めている。

つやまエリアオープンファクトリー共催

岡山県美作県民局

高校生を対象としたバスツアーを共同企画。津山市・真庭市、美作市、新庄村、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町及び美咲町を所管しており、つやまエリアオープンファクトリーの開催をサポートしている。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

株式会社 RELATION

市内ＩＴ企業。つやまエリアオープンファクトリー HP 製作担当。市内ＩＴ企業グループ「つやまＩＣＴコネクト」、市内クリエイター連携グループ「津山クリエイティブ人材ネットワーク（Ｃ‘ｓｎｅｔ）」会員。WEB による参加企業・参加者申込やリアルタイムでのイベント情報発信を実現。

kosael

市内のデザイナー。市内クリエイター連携グループ「津山クリエイティブ人材ネットワーク（Ｃ‘ｓｎｅｔ）」会員。2018 年のつやまエリアオープンファクトリースタート時に行ったデザイン公募でデザイン案が採用され、以降デザインを担当。

中鉄北部バス

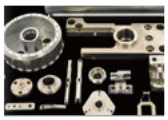
津山を中心に市内巡回バス、路線バスを運行している。つやまエリアオープンファクトリー開催日は参加者が無料で路線バスを利用できる。

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

津山ステンレスネット



ステンレス加工技術と最先端のロボット技術により、設計からメンテナンスまで一貫対応できる地域企業 11 社による連携グループ。
オープンファクトリーバスツアーに携わる。

バスツアー

津山ステンレスネット会員企業複数社をバスで回り、１つの製品を完成させるバスツアー。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

地域には製造業が多いにも関わらず、少子化の影響により、若い人材が不足していることが課題の認識にあった。地域の特に若年層に地元企業の存在・魅力を知ってもらい、就職時の選択肢の中に地元企業が入るきっかけとなるべく、津山市職員の沼氏がオープンファクトリーを企画した。初回開催にあたっては、ネットワークのあった企業を 1 社 1 社直接訪問し、趣旨やその想いを語り参加を呼びかけた。その結果、初年度でありながら、合計 45 社から賛同を得て開催することができた。

TOPICS

「プレイベントバスツアー」市内高校とのコラボ企画

津山市が抱える最大の課題は「18 歳の崖」。高校卒業を機に多くの 18 歳が進学・就職等で市外へ転出し、その後も津山市へ帰ってこない。

「18 歳の崖」を解消すべく、津山市内の高校と連携し、つやまエリアオープンファクトリーを通じて地域内企業を知ってもらい就職時に就職先の候補として選択肢に入れてもらうことを目的に「プレイベントバスツアー」として 1 クラス丸ごと 1 台のバスで移動する企業見学会を複数日に渡り実施した。2023 年は計 10 台のバスを貸し切り 740 名の高校生が参加してくれた。

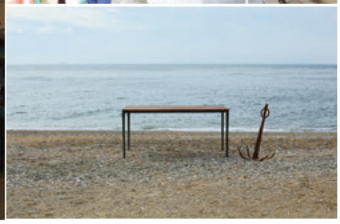
参加した高校生からは、市内にこんな企業があったことを初めて知った。こんなに良い会社が近くにあったなんて知らなかった等の感想をもらい、少しでも多くの高校生に地域内企業を知ってもらうため、今後も継続して実施していく。

（写真）工場見学、製作体験ワークショップの様子

2019 年〜

広島県府中市、福山市

瀬戸内ファクトリービュー



CORE VALUE

山海にとけこむ、産地に触れる。

EVENT DATA

開始年　：2019 年
開催回数：1 回（2019 年）
開催期間：11 月（2019 年実績）
参加企業：17 社（2019 年）
来訪者数：延べ 2,000 人弱（2019 年実績）
主催　　：SETOUCHI FACTORY VIEW 実行委員会

FEATURES

多様で特色あるものづくり現場の見学・体験

広島県南東部の備後地方にある府中市と福山市で開催するオープンファクトリーイベント。地元産業の 1 つである木工・家具を中心に繊維や鉄鋼、味噌なども含め、多様で特色あるものづくりの現場を見学、体験することができる。

2020・2021 年はコロナ禍で全体での開催は中止となったが、一部の参加企業が手を挙げ、マルシェや工場見学、オンライン配信などを実施。2022 年も全体でのイベントは実施は行わなかった。

FUTURE

「瀬戸内ファクトリービュー」名義でのコンテンツ拡大へ

活動の主体が NPO 法人であるため、運営に割ける人員は限られる。そのためイベントの規模を大きくするには限界がある。こうした事情もあり、オンライン配信等を取り入れていった。ただ、コロナ禍においてオンライン開催のオープンファクトリーも全国に広がってきており、ただオンラインというだけでは特色が出ない。大学のインターンプロジェクトと絡める等他にはない強みを活かしながら、様々な媒体に「瀬戸内ファクトリービュー」の名義でコンテンツを今後広げていくことを検討している。

INNOVATION

開催をきっかけとする活動・取組の発展

2019 年に実施した第一回 SFV（瀬戸内ファクトリービュー）を通して参画企業間の連携が強まり、共同で製品開発を実施した事例も出てきている。錨の製造をしている鉄鋼企業が家具メーカーとコラボレーションし、家具の部品製造に参入に至ったケースである。以前も実験的にはコラボレーションに取り組んだが、本イベントの活動を通じて、互いの事業について認識を深めるとともに信頼関係が構築され、実現に至った。

2021 年には、広島県福山市主催による「びんごデジタルラボ」に、SFV（瀬戸内ファクトリービュー）実行委員会もメンバーとして参加した。オンライン技術を使った工場見学がソフトバンクグループの「せとうち Tech LAB」から声がかかり、実施に至った。

コロナ禍で全体開催ができなかった時期にも、オンライン配信等で IT やデジタルテック を活用しながら活動を続けてきた。参画企業の中には、これまで職人の経験と技で製造していた分野に、IT を上手く活用し製品開発に取り組む企業もあり、参加企業同士で意見交換しながら、未来のものづくりの在り方も模索している。

その他の動きとしては、観光ツアーの企画会社と製造企業とのつながりが強化されたことにより、オープンファクトリーを観光と絡めていくべく、参加企業数社が活発に取り組んでいる。

●事務局連絡先
SETOUCHI FACTORY VIEW 実行委員会
〒 726-0005
広島県府中市府中町 754-2
https://fuchu-antenna.jp/

SETOUCHI FACTORY RADIO 山と海と工場 BINGO JAPAN

瀬戸内ファクトリーレイディオ

地方の産地に残る技と知恵をアーカイブ化するインターネットラジオ「瀬戸内ファクトリーレイディオ」を配信中

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

KOTANI NAOMASA
小谷 直正 氏
NPO 法人府中ノアンテナ 副理事長

NPO 法人府中ノアンテナ副理事長
広島県府中市出身。東京にあるメーカーに就職後、U ターンして地元府中市で、行政機関や地元プレイヤーとともに、公園づくりの実証実験、子育て支援、移住促進事業の企画・運営などを担当。ものづくりの家系で生まれ育った背景から、地域の魅力として地元のものづくりを発信できないかと日頃から考えている。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

若葉家具株式会社 社長
井上 隆雄 氏
若葉家具株式会社（1947 年創業）3 代目。広島県府中市にて家具を製造。箪笥造りから始まり、デザイナー家具・オリジナル家具・オーダー家具・家具調仏壇などの製造・販売を行う。

株式会社心石工芸 代表取締役社長
心石 拓男 氏
株式会社心石工芸（1969 年創業）2 代目。福山市柳津町の自社工場でソファの製造・販売・卸、張替修理を行う。

伝統工芸株式会社 代表取締役
服巻 年彦 氏
2014 年、伝統工芸株式会社 (1983 年創業）代表取締役就任。オリジナル木製家具・木製フレーム（額縁）の製造 / 卸販売を行う。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

総務担当
安田 剛 氏
NPO 法人府中ノアンテナ

配信担当
中西 充彦 氏
NPO 法人府中ノアンテナ

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS
株式会社タテイシ広美社 会長
立石 克昭 氏
瀬戸内ファクトリービュー 実行委員長
広島県中小企業家同友会 代表理事
府中市立府中明郷学園 学校運営協議会会長

1977 年創業、屋内外サイン・電光掲示板の企画・設計・制作・施工・メンテナンスを行う。

TRIGGER & STORY
誕生秘話

展示会やイベントなどで府中市および備後圏域の方々と関わる中で、仕掛け人である小谷氏は、府中市の企業が一般向けの発信に弱いところがあるという点を感じていた。そこで、職人の技術継承と地域活性化の好事例として挙がっていた福井県鯖江市の『RENEW』を訪問。現場の規模感や景色など、自分たちの地域に通じるものもあり、大きな影響を受けた。一方で、府中市には木工業者が多いが外部との交流が少なく、メーカー間のコラボ等の連携もなかった。そうした中、横の連携を深める方法を、若葉家具の井上社長をはじめとした府中家具組合の青年部が模索していた。そんな時、NPO 府中ノアンテナと府中家具組合の中心メンバーが話す機会があり、2 団体の意見が一致。会議を重ね、「瀬戸内ファクトリービュー」の開催を決定するに至った。

TOPICS
瀬戸内ファクトリービュー RELAY ！

2020 年、コロナ禍で全体開催が難しい中、地域の伝統産業である木工事業者と味噌事業者の 5 社が手を挙げ、「リレー（RELAY）」の形で、月替わりで工場見学やワークショップを行う「瀬戸内ファクトリービュー RELAY !」を開催した。コロナ禍の社会情勢下においては、オンラインでの情報発信の重要度が増していたものの、参加企業内でも温度差があった。そのため、参加企業がこのリレーイベントでオンライン配信にチャレンジすること自体が大きな目的でもあった。最初に配信した DENTO（伝統工芸株式会社）のオンラインイベントにも、次の順番の松葉製作所さんに来てもらい、開催の様子を見ながら学ぶ場としても機能していた。

（写真）工場見学、ワークショップ、瀬戸内ファクトリービュー RELAY ！の様子

2019年

愛媛県新居浜市、西条市、四国中央市

えひめさんさん物語

①

②

③

④

CORE VALUE

三都を巡る、きらめくモノ・コトさがし

EVENT DATA

開始年　：2019年
開催回数：1回
開催期間：2019年4月20日～11月24日
参加企業：第1話　ものづくり物語
3社（工場のおしばい）
13社（アーティスト in ファクトリー）
18社（オープンファクトリー）
来訪者数：延べ80万8,093人（2019年）
※オープンファクトリー以外も含めたイベント全体での人数
主催　：東予東部圏域振興イベント実行委員会

FEATURES

東予東部圏域のものづくりの現場を体感

「えひめさんさん物語」は、愛媛県の東予地域の東部に位置する「新居浜市」、「西条市」、「四国中央市」を舞台に開催された、エリア初の地域振興イベント。第1話～第6話の物語形式で東予地域の魅力を発信していく取組であり、オープンファクトリー関連では、第1話「ものづくり物語」がある。普段見ることのできない工場内の見学やワークショップなど、東予東部圏域のものづくりの現場を体感できるとともに、アーティストとのコラボレーションも組み込まれた魅力あふれるプログラムであった。

FUTURE

地域主体でさらなる発展を目指して

2019年に開催されたえひめさんさん物語では、地域の資産に新しい風を吹き込み、未来に向かう新しい価値創造に向けた挑戦として、ものづくり、水、連なる山々、別子銅山の歴史や製造品出荷額日本一を誇る紙産業など、地域の資産とアートやアクティビティを大胆に融合させた。イベント終了後は、開催を通じて新たに発見・創造された価値を、引き続き磨き上げ、発信していくため、2022年度末までフォローアップに取り組んだ。今後は、地域主体の自発的な活動が精力的に行われ、地域がさらに盛り上がっていくことを期待している。

受賞アワード

2020年　第6回 JACE イベントアワード
イベントプロフェッショナル賞　受賞

INNOVATION

アーティストと協働した、「ものづくり物語」とその後

第1話「ものづくり物語」の象徴的イベントとして開催されたのが、「工場のおしばい」である。5/3は西条市、5/4は新居浜市、5/5は四国中央市にて開催した。工場の煙突や建物に人の顔の映像をプロジェクションマッピングで投影し、その顔が話し、お芝居を繰り広げるというユニークな取組。（来場者数6,700人）

また、期間中に「アーティスト in ファクトリー」も開催された（5/4、5/5、5/18）。普段はなかなか接点のないアーティストたちと工場が取り組む異業種コラボレーションイベント。アーティストの視点から、それぞれの工場の新たな価値の発見となる作品を作り上げ展示した。（来場者数6,100人）

さらに、4月～11月の期間を通じて、3市それぞれ6社ずつ、計18社が「オープンファクトリー」を開催した。（来場者数70,064人）

2019年当時の活動主体であった東予東部圏域振興イベント実行委員会はイベント終了後解散したが、取組の一部は、えひめさんさん物語フォローアップ協議会（事務局：愛媛県東予地方局商工観光課）が受け継いだ後、2022年度末までフォローアップとして、オンラインを活用した工場見学やアーティスト in ファクトリーなどに取り組んだ。

●事務局連絡先
愛媛県　東予地方局　地域産業振興部　商工観光課
※オープンファクトリー等の取組は2022年度末で一旦終了
〒793-8516　愛媛県西条市喜多川796-1
TEL 0897-56-1300　FAX 0897-56-1308
email tou-syoko@pref.ehime.lg.jp

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

NAKAMURA TOKIHIRO
中村 時広 氏
東予東部圏域振興イベント実行委員会
会長
愛媛県知事

東予東部圏域の各市で発達した産業や地域資産を活かして、圏域の魅力を県内外に発信し、交流人口の拡大と観光振興、定住・移住の促進による産業を支える人材の確保につなげ、圏域の一体的かつ持続的な発展を目指して開催。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

えひめさんさん物語総合プロデューサー
澤田 裕二 氏
UG WORK合同会社 代表
愛知万博やサラゴサ万博日本館のほか、2025年日本国際博覧会ではテーマ事業ディレクターを務めるなど、多くの博覧会や大型イベントの企画・プロデュース等を手がける。

えひめさんさん物語アートプロデューサー
松田 朋春 氏
グッドアイデア株式会社 代表取締役
プランナーとして企業とクリエイターのコラボレーション事業を幅広くプロデュースし、愛媛県下では「道後オンセナート」や「Imabari Color Show」などを手がける。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

東予東部圏域振興イベント実行委員会事務局
（現在は解散）

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

地元を中心とした企業のみなさま

えひめさんさん物語では、イベントの成功のために約150もの企業等が協賛・後援したほか、企業と連携して、えひめさんさん物語を盛り上げる商品の開発や販売を行った。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

企業が単独で実施してきた工場見学を、地域ぐるみのオープンファクトリーとして一体的に実施するのは県内初の試みであり、企業ごとの繁閑に応じた細かい調整、関係者間の意見のすり合わせはもとより、ものづくりの魅力をいかにして「物語」として伝えることができるかに苦心した。実現までには多くのハードルを乗り越える必要があったが、各企業が地域や業種の垣根を越えて、オープンファクトリーという目的のために一丸となることで成功に導くことができた。

TOPICS

アーティスト in ファクトリー

ユニークな取組のひとつに「アーティスト in ファクトリー」がある。
12組の様々なアーティストが一定期間ものづくり企業に滞在し、工場の新たな価値の発見となるアート作品を制作・展示するというもので、全国でも類のない取組である。アート作品や子供向けのワークショップが契機となり、地域住民と地元工場との新たな交流が生まれたことが評価され、第6回JACEイベントアワードにおいてイベントプロフェッショナル賞（2020年）を受賞。

⑤

⑥

⑦

⑧

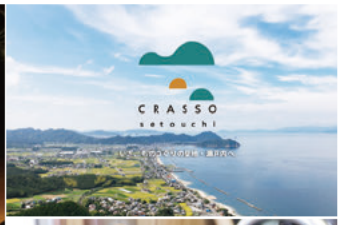
（写真）工場のおしばい、オープンファクトリー、アーティスト in ファクトリーの様子。
①、②、③、⑤、⑥、⑦　Photo:Hiroaki Zenke

2023 年～

香川県東部地域（東かがわ市、さぬき市、三木町）

CRASSO

オープンファクトリー　CRASSO



CORE VALUE

モノづくりに恋をする。
いざ、ものづくりの聖地・瀬戸内へ

EVENT DATA

開始年　：2023 年
開催回数：2 回
開催期間：毎年 2 回（5 月・11 月頃）
参加企業：25 社（2023 年）
来訪者数：来場者数：約 1,500 人（2023 年）
主催　　：CRASSO 実行委員会

FEATURES

四国最大級のオープンファクトリーイベント

CRASSO（クラッソ）は、香川県東部地域（東かがわ市・さぬき市・三木町）で開催される、四国最大級のオープンファクトリーイベント。2023 年 6 月に手袋、革製品、刺繍、印刷など地元 8 社でものづくりの現場を巡るプレ開催を行い、11 月には香川県東部地域を舞台に規模を拡大して開催。普段は見ることができない、地域に根付いた様々な「ものづくりの現場」を開放し、実際のものづくりの技術・技巧を見学・体験し、ものづくりを支える職人と交流しながら、製品に込められたものづくりの想いやスピリットに触れる。

各社が趣向を凝らしたワークショップでは、実際に自分でものづくりを体験することで、職人の技術の高さを実感できるとともに、ものづくりの楽しさを感じることができる。

FUTURE

ものづくりの聖地、瀬戸内の魅力を世界へ発信

ものづくりの現場で職人とふれあい、技術の高さを体感し、また地域を巡ることで自然に育まれた食、歴史、観光など、瀬戸内の魅力をたっぷりと味わってもらう。

職人による高度な縫製や加工技術を必要とする、日本一の手袋産地を中心に、地域の自治体や事業者との協同が生まれ、地域の魅力発信のための活動が活性化。

CRASSO の取り組みが瀬戸内全体に広がり、個々の企業が独自のこだわりと演出で、子供から大人まで満足できる充実したコンテンツを企画することで、瀬戸内の地域が「ものづくりの聖地」として、世界中の人々に認知してもらう夢を描いている。

INNOVATION

企業や社員の成長にもつながる、工夫やチャレンジ

CRASSO の開催をきっかけに、ファクトリーショップのリニューアルや新規オープンなど、企業の付加価値向上の動きだけでなく、イベントを通じて、社員同士や社長とのコミュニケーションが生まれて、社員の自主性・成長やモチベーションアップにもつながるなど、取組の効果が現れている。

初開催となった 2023 年度は、6 月と 11 月の 2 回開催。Vol.2 のメイン会場となった「瀬戸内リゾートベッセルおおち」では、総合案内ブースを設置して、スタッフがオススメするルートや観光スポットの紹介、地元のジビエ料理やクラフトビール等のグルメブース出店を行った。

また、国の事業と連携して、四国のこだわりの逸品を集めた「体感型イベント／つくり手の想いに触れる旅 ∞」や、四国のキーパーソンを集めた「トークイベント／Local X FORUM vol.3」の開催のほか、地域の二次交通の課題解決のために、メイン会場からものづくりの現場や近隣の駅、観光施設等への移動手段として、スマートモビリティを活用した、無料のオンデマンド交通（CRASSO 号）の運行実証をサポートするなど、地域のものづくりだけでなく、飲食店とのコラボ、四国の伝統工芸などを知ってもらうための様々な企画や工夫、チャレンジが取り入れられた。

●事務局連絡先
CRASSO 実行委員会事務局（タナカ印刷株式会社内）
〒769-2521　香川県東かがわ市大内 200-12
TEL　0879-25-0185
E-mail　crasso.setouchi@gmail.com
URL　https://crasso-setouchi.jp/

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

香川県中小企業家同友会　東讃支部長

TANABE　TOMOAKI

田部 智章 氏

株式会社タナベ刺繍

代表取締役社長

1972 年香川県東かがわ市生まれ。2020 年より瀬戸内地域の地場産業を担う中小衣料会社が連携する団体「セトウチメーカーズ」を結成。その代表を務め、アンテナショップへの出品やネット通販、自社ブランドの立ち上げなどに尽力。2023 年には瀬戸内地域をものづくりの聖地にすべく、香川県東讃地域を中心にオープンファクトリー CRASSO の取組をスタート。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

実行委員長

田中 克紀 氏

株式会社バリューアップシステムズ
代表取締役

事務局長

田中 英城 氏

タナカ印刷株式会社
代表取締役

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

CRASSO 実行委員会メンバー

実行委員長　株式会社バリューアップシステムズ　代表取締役　田中 克紀 氏
事務局長　タナカ印刷株式会社　代表取締役　田中 英城 氏
委員　株式会社タナベ刺繍　代表取締役社長　田部 智章氏
委員（東かがわ市担当）　生新株式会社　代表取締役　生島 佳典 氏
委員（さぬき市担当）　樫原工業株式会社　代表取締役　樫原 拓史 氏
委員（　木町担当）　株式会社グッドワーク　代表取締役　平井 陽介 氏
委員（飲食担当）　株式会社味道源　代表取締役　上原 養敏 氏
委員　東かがわ市わくわく課　片川 直樹 氏
委員　松田哲也税理士事務所　所長　松田 哲也 氏
委員　株式会社ディレクターズ　代表取締役　岸本 広宣 氏
委員　東かがわ市地域おこし協力隊　石丸　春花　氏

後援／四国経済産業局、東かがわ市、さぬき市、　木町、東かがわ市教育委員会、
さぬき市教育委員会、　木町教育委員会

TRIGGER & STORY

誕生秘話

コロナ禍をきっかけに地域のものづくりの現場を見せてもらい、職人の手仕事や技術力の高さに感動して、工場見学と産地観光を主体としたファクトリーツーリズムの企画を経営者団体の会合で発表。

また、オープンファクトリーの先進地となる福井県の「RENEW」を視察し、地方のイベントに数万人の観光客が訪れ、高齢の職人さんたちが若い世代に向けて、ものづくりの想いや技術を熱心に魅せている姿に感銘を受け、我々でもやりたいと経営者仲間で話し合った。

その後、先進地のキーパーソンを講師として招聘するなど、地域のやる気を高めていきながら、約 2 年をかけて準備を進め、国や自治体の協力のほか、ものづくり企業だけでなく飲食店の参加も得て、若い世代の経営者層を中心に、地域が一体となって実現した。

TOPICS

飲食店との連携によるオリジナルメニューの開発等

「CRASSO/2023vol.2」では、2 市 1 町が連携し、様々なものづくり企業のほか、地域の飲食店も数多く参加。ものづくりの現場だけでなく、地域の食文化も楽しめるように、訪問した土地ならではの料理を食べてもらいたいと、飲食店との連携によるオリジナルメニューの開発や、マップの制作、また共同のノボリ、ロゴシール、法被などをつくり、地域の一体感を演出。

2025 年度に開催される、大阪・関西万博や瀬戸内国際芸術祭のダブル開催を契機と捉え、2024 年 5 月頃に「CRASSO/2024vol. 3」の開催、11 月頃には「CRASSO/2024vol. 4」の開催を予定。Vol.3 では、地域の飲食店を中心にイベント企画予定。ものづくりの聖地として、地域のものづくりの現場や瀬戸内の魅力を国内・海外に向けて伝えていきたい。

（写真）工場・工房見学、ワークショップ体験の様子

NEXTRAD

CORE VALUE

磁器のものづくりに挑む

EVENT DATA

開始年　：2021 年
開催回数：3 回
開催期間：10 月下旬、11 月上旬に 2 〜 3 日間
参加企業：13 社（2023 年）
来訪者数：約 100 人（2023 年）
主催　　：NEXTRAD

FEATURES

有田焼窯元若手有志による企画イベント

日本初の磁器として誕生以来、400 年の歴史を誇る有田焼。その窯元若手有志 14 社の集まりである NEXTRAD の展示・体験イベントである。初年度の 2021 年は、工房見学（2 ヶ所、2022 年は 5 ヶ所）と有田焼の製造工程の展示をメインプログラムとして開催。展示会場では、それぞれの窯元が得意とする技術や製造工程を展示している。展示会場で基本的な製造工程の展示を見てから、工房に誘導するスタイルとした。さらに産業の持続可能性を広く伝えるため、産地の抱える課題や廃棄物問題など、SDGs への取り組みについてもパネル展示を行ない、作り手自らが積極的に発信している。

FUTURE

より深化した NEXTRAD へ

今後も継続して、NEXTRAD のイベントを開催していきたい。プログラム構成は大きく変えないものの、より深化した内容で見せていきたいと考えている。

また、この地域では、半径 5km 以内に原材料から最終製品まで製造する工房が揃うという特長を活かして、クラフトツーリズムのツアー先としての可能性にも取り組んでいきたい。少ない移動距離で全ての生産工程を見せることができる点は、他の地域にはない強みであり、ポテンシャルがあると考えている。

●事務局連絡先
NEXTRAD
〒 844-0026
佐賀県西松浦郡有田町外尾町丙 1217 番地　佐賀県陶磁器工業組合内
TEL 0955-42-3164
公式サイト　https://nextrad.jp/

INNOVATION

オープンにすることで生まれる新たな可能性

2017 年から、有田町クリエイティブアドバイザーでもある浜野氏参加のもと、月 1 回のペースで継続的に勉強会を開催している。メンバーは窯元の若手経営者および後継者で構成され、当初は勉強会ごとに座長を持ち回り、各社の取り組みや課題について議論してきた。個々の技術的・経営的な課題をオープンにすることで連帯感や結束力が生まれ、さらに議論を深める中で産地全体が抱える課題や方向性について皆で考えるようになった。

その解決方法として有田のものづくりの魅力を広く伝えるために、磁器の生産現場を紹介する展示・体験イベントを企画。オープンファクトリーも期間中複数回実施した。作り手であるメンバーそれぞれが有田焼のものづくりについて説明することで、参加者と作り手が産地の現状や課題を共有し、これからの磁器のものづくりを一緒になって考えていくことを目指した。

メイン会場には磁器の製造工程を実際に使用する材料や道具とともに順を追って展示。普段は公開していない製造現場を見学できるオープンファクトリーも作り手自らが案内した。製造工程の体験を実施した窯元もあり、機械を使った量産体制でありながら人の手による技術も多くあるということを参加者に実感してもらった。会場内には SDGs への取り組みを紹介・実践するエリアも設けた。廃棄物問題や二酸化炭素排出量の見える化、商品の検品基準に関する提案を行ったところ、産地の現状を知ることで人々の検品基準に対する許容範囲が拡大するというアンケート結果も得られた。

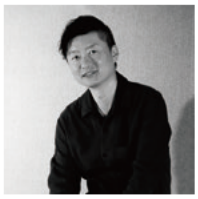
2022 年のイベント終了後、会場を提供頂いた佐賀県陶磁器工業協同組合からの依頼を受け、同組合ギャラリーにイベントで企画した製造工程の展示を常設することになった。若手からの問題提起が産地を少しずつ動かしつつある。

個々の課題や産地の現状をオープンにし、様々な人達と問題意識を共有することによって、持続可能な産業の構築に向けて産地をよい方向へ導けるものと考えている。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



FUJIMOTO KOUSUKE

藤本 浩輔 氏

有限会社藤巻製陶 代表

NEXTRAD 初代代表

大学卒業後、京都の窯元・有田の陶芸作家の下での修業を経て実家である有限会社藤巻製陶で家業に従事する傍ら、個人での作陶活動の中で産地外の様々な人達との出会いを通して、post crafts（仮）とでも言うべき次代の伝統産業の在り方に深く想いを巡らす様になる。また、地元の高校で教壇に立ち地場産業・伝統産業の啓蒙・PR 活動にも取り組む。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

NEXTRAD 現リーダー

前田 洋介 氏

有限会社皓洋窯 窯主

熟練した職人と共に、どこか、ほっとするような器づくりに励んでいる。

NEXTRAD 2 代目リーダー

徳永 弘幸 氏

株式会社徳幸 代表取締役社長

産地のデザイン力を向上させるべく様々なものづくりの案件に取り組んでいる。

NEXTRAD ファウンダー / アドバイザー

浜野 貴晴 氏

promoduction 代表

佐賀県窯業技術センター外部アドバイザー

有田町 クリエイティブアドバイザー

佐賀大学客員研究員

商品開発やブランディングなどの事業化支援や産地活性化事業に取り組んでいる。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

事務局

森 清伽 氏

佐賀県陶磁器工業協同組合

運営サポート

前田 真一 氏

有田商工会議所

ともにあゆむ

OTHERS

佐賀県陶磁器工業協同組合

メインプログラムの 1 つである、有田焼の製造工程の展示は、佐賀県陶磁器工業協同組合が所有する「有田窯元ギャラリー」にて行った。
NEXTRAD の親組合にあたる佐賀県陶磁器工業協同組合は、新しい取り組みにも非常に寛容。
NEXTRAD メンバーも、次の若手にそうした雰囲気を継承していきたい想いをもっている。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

事業規模や形態の異なる、13 名の伊万里・有田の窯元の若手経営者や後継者等で結成された「NEXTRAD」（現在は 14 名：2022 年 7 月時点）。その名には、次代（NEXT）の伝統（TRADITION）を考え、若手集団であるからこそ革新的（RADICAL）に取り組もうという想いが込められている。NEXTRAD の活動として、若手が集まり定期的な自主勉強会を開催していた。その中で、色々な人に産地に来てもらうためにはどうすればよいかという議論になった。現場を見てもらい、知ってもらいたいという思いがメンバーにあった。企画を練っていたところ、新型コロナ感染症が拡大し、企画は一時中断。それでも開催する構想は持ち続け、2021 年に開催に向けて本格的に活動を開始、初回開催に至った。

TOPICS

磁器のものづくりに関わる "13P" の挑戦

2021 年開催時には、" P " を頭文字とする 13 のキーワード（Porcelain 磁器 /Process 工程 /Polyethism 分業制 /Professionalism 専門性 /Peculiarity 独自性 /Planning 企画 /Prototype 試作 / Production 生産 /Pricing 価格設定 /Path 流通 /Promotion 販売促進 /Purchaser 顧客 /Partnership 協働）から有田焼について学んでいただける展示にも取り組んだ。有田焼の製造工程や各窯元の得意技術など、産地での磁器のものづくりを作り手自らが創意工夫しながら、紹介した。

（写真）展示会、オープンファクトリーの様子。

Ⅱ. その他 各地の取組について

本紙においては、「はじめに」に掲載しているとおり、3つの要件を満たすものを「地域一体型オープンファクトリー」として紹介してきたが、調査事業を進める中で、地域や企業が群となって推進するイノベーティブな取組も発掘してきた。
次ページ以降においては、そうした取組の中から、以下2事例を紹介する。

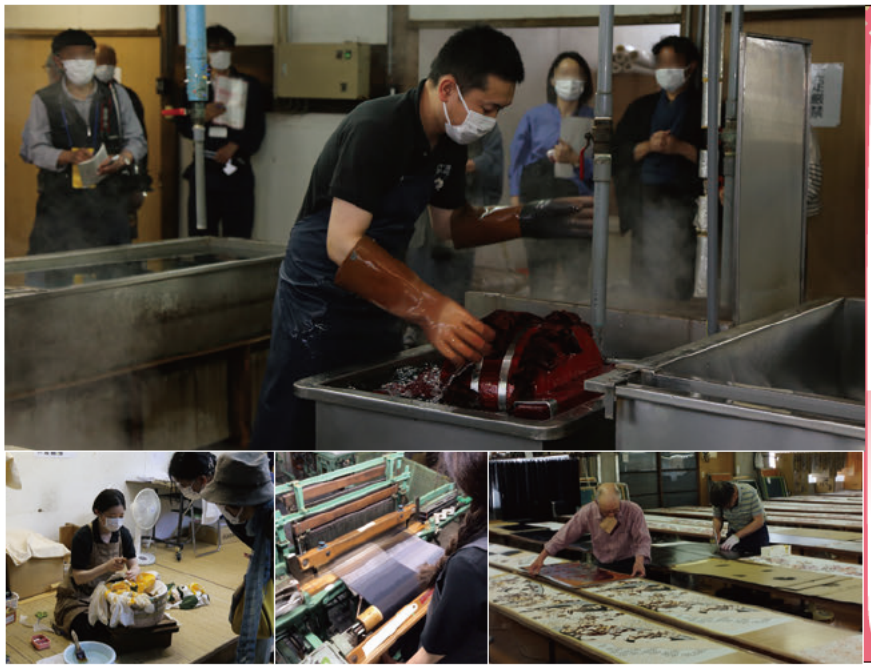
～職人探訪～十日町きもの GOTTAKU（新潟県十日町市）

OSAKA 町工場 EXPO（大阪府東大阪市ほか）

2018年〜

新潟県十日町市

〜職人探訪〜十日町きものGOTTAKU



CORE VALUE

知るともっと好きになる。

FEATURES

「きものの総合産地」を楽しむ

新潟県十日町市は、糸撚り、染め、織り、加工、メンテナンスなどのきもの工場が揃う「きものの総合産地」。「十日町きものGOTTAKU」は、普段は非公開のきもの工場の見学や、製造工程の一部を体験できる全国唯一のきものに特化したオープンファクトリー。全国でも珍しい一貫体制で製造する企業が存在し、きものづくりの工程を一気に見学できる。2023年は、9社のきもの関連企業が参加。生地からきもの完成までの各工程で伝統を引き継ぐ職人の技を存分に楽しむことができるほか、金彩加工体験等のワークショップも評判が高く、多数の女性来場者で賑わいをみせた。

FUTURE

着物ファンづくりと持続可能な自走に向けて

コロナ禍により中断しブランクが生じたため、感染対策にも配慮しながら、2022年は規模をおさえて再スタートした。2023年からは、各社の製品を一同に展示し、来場者同士が交流できるコミュニティスペースの設置やきもの着用者への特典など、新たな取り組みを行なった。

民間の力を束ねつつ、企業と来場者、また来場者同士をつなげ「きものファン」との輪をひろげ、産地の活性化を図る狙いだ。

INNOVATION

訪れるユーザーのナマの声が、職人を刺激

きもの産業が停滞するなかで、「職人」にスポットを当て、伝統産業であるきものをソトへ向けてPRすることを目指して開催されている「十日町きものGOTTAKU」。

これまで着物に触れてこなかった若い世代は、新鮮な感想を伝えてくれることも少なくない。それは職人にとっての新しい発見や誇りを生むことにもつながっている。十日町市民も普段、実際の工場を見ることが少ないなかで、きもの産業も「つくるもの」から「みせるもの」へと、その可能性が拡がったと捉えられている。

また、若い人に向けたアピールは、GOTTAKUに参加した方が、きもの企業への就職を促す機会にもつながっている。

企業個社では、業界として先駆的な取組を積み重ねてきた十日町。オープンファクトリーを通じて、産業観光、次のビジネスへとつなげていく、新たな可能性を見出すことを目指している。

EVENT DATA

開始年	：2018年	参加企業：	9社（2023年）
開催回数：	4回	来訪者数：	348人（2023年）
開催期間：	5〜6月頃		
主催	：十日町きものGOTTAKU実行委員会		

●事務局連絡先

十日町きものGOTTAKU 実行委員会

十日町市役所 産業観光部 産業政策課
〒948-8501 新潟県十日町市千歳町3丁目3番地
TEL 025-757-3139

2020 年～

大阪府東大阪市ほか

OSAKA 町工場 EXPO

VR EXPO

仕掛け人

TREND SETTER

MEGURO MITSUAKI

目黒 充明 氏

MP Strategy 合同会社
代表

目黒氏は東大阪市出身。社会人としてのキャリアは、より豊かなビジネス・チャンスを求めて東京でスタートした。IT に強いコンサルタントとして外資系企業、ベンチャー企業、製造業などさまざまな職場を体験。

「東大阪は昔と全然変わっていない」

慢性的な人手不足で営業員不在の町工場に対して、DX の必要性を伝えながら、オンラインで手軽に工場見学ができる VR バーチャルツアー制作サービスを展開すべく、本取組を開始した。

CORE VALUE

バーチャル・オンライン・リアルで未来を切り開く、DX でモノづくりを世界に発信

FEATURES

普段見ることのできない世界を気軽に体感。

普段見ることができない町工場の空間を 360°バーチャルツアーや映像を使って、実際工場見学に来ているかのような体験を来場者の皆様に楽しんでいただくことで、「ものづくりのまち」を離れた場所でも体感してもらう取組。

バーチャル工場見学以外でも、VR クイズの用意など、町工場の魅力を大人から子供まで楽しく知ることができるコンテンツを提供している。

「未来の技術を体感できる」「最先端の技術を知れる」をテーマに、2022 年においては東大阪市が主催する「HANAZONO EXPO」の一環として取り組むことで地域を盛り上げた。約 2,500 人の子供、学生、大人の方に工場見学を VR で体験いただいた。

FUTURE

ものづくりの祭典へ

OSAKA 町工場 EXPO は、「バーチャル・オンライン・リアルで未来を切り開く、DX でモノづくりを世界に発信」をビジョンに掲げ、2025 年大阪・関西万博に向けて、町工場の技術をバーチャルツアーで世界に発信し、世界中の人達とモノづくりの素晴らしさを体現できる祭典にするプロジェクトを目指している。2023 年からは、リアルの工場見学・体験を実施予定。2025 年には、外国人をリアルの工場見学で 1,000 人を目標としている。

INNOVATION

互いに学び合い・刺激合う先に。

チームとしての活動意義は以下の 5 つを設定しており、この想いを成すために 2 ヶ月に 1 度の定例ミーティングを実施。

【活動意義】

- 小さな企業でも世界にアピールできる基盤をつくる。
- 小さな企業が自社の思い、自社の技術力、自社の社員の素晴らしさを DX で伝える。
- 世界のいろんな方と繋がる。
- 新たな文化が生まれ、新しい未来をデザインするための実証実験を実践していきます。
- いのち輝く世界を目指していきます。

そうした活動を通して、企業間交流が促進され、様々なイノベーションが創出されている。例えば、キッチントレーラーの開発案件を参画企業共同でチャレンジしたり、新事業としてアウトドア製品の開発、また時勢に合わせた抗菌高機能マスクケースの開発など、一社では踏み切れなかった取組が互いの刺激と触発から生まれている。

また取組を継続することで様々な行政やメディアから取材をいただくことが増え、「日本一明るい経済電波新聞 _MBS ラジオ」への出演や近畿経済産業局が主催する万博活用セミナーへの登壇、近隣大学（大阪商業大学）での授業など様々なご縁を紡ぐ機会へと繋がっている。

今後ものづくりの新たな可能性を見つけるべく、未来実証実験を行ったり、産学官連携の促進など、幅広い活動を通したイノベーションの創出が期待される。

EVENT DATA

開始年　：2020 年
開催回数：3 回 / 年
開催期間：例年 4 月・7 月・11 月 90 日間
参加企業：24 社
来訪者数：WEB サイト VR 体験 延べ 14,000 人
リアル VR ゴーグル・VR メガネ体験 3,000 人
主催　：OSAKA 町工場 EXPO チーム

●事務局連絡先

MP Strategy 合同会社
〒 501-3894　大阪府大阪市中央区難波 5-1-60 なんばスカイオ 27F
代表：目黒 充明

III．「Local X Forum」開催結果

1．Local X Forum とは

昨年度まで調査を通して、「地域一体型オープンファクトリー」がオープンイノベーションを体現する実例と紹介する一方で、目指すべき「ソーシャル・グッド」[1]は、「ものづくり」の観点に限らず、多様な観点が想定されることが明らかになった。

「地域の特性・個性を活かした多様性のある集団が群となってソーシャル・グッドに取り組むコミュニティ」がオープンイノベーションを促進するという仮説のもと、「地域一体型オープンファクトリー」の上位概念として、「Local X lab.[2]」 という名称で提唱したところである。

1　地球環境や地域コミュニティなどの「社会」に対して良いインパクトを与える活動や製品、サービスの総称
2　「X」は活用できる資源・地域の特性に応じて自由に設定できることを意味する

今年度は、「Local X lab.」における「X」に該当する要素は地域によって多様にあると想定されることから、各地の実例（ロールモデル）を発掘しつつ、これらを検証した。東日本エリアで 4 回、西日本エリアで 4 回の全 8 回、公開討論会形式でキープレイヤー同士が交流する場をセットし、その議論を可視化することで、「Local X」が VUCA 時代における国内の次代産業クラスター政策になる可能性について、検討を行った。

2．各回の概要

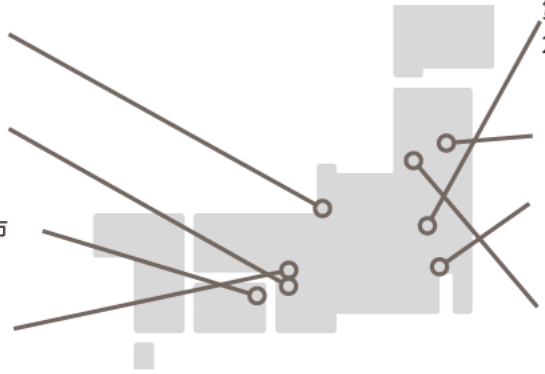
第 1 回
2023 年 8 月 27 日　福井県越前市

第 2 回
2023 年 10 月 26 日　大阪府八尾市

第 3 回
2023 年 11 月 24 日　香川県東かがわ市

第 6 回
2023 年 12 月 20 日　大阪府大阪市

【西日本】



第 4 回
2023 年 12 月 4 日　群馬県桐生市

第 5 回
2023 年 12 月 9 日　岩手県遠野市

第 7 回
2023 年 12 月 26 日　東京都渋谷区

第 8 回
2024 年 1 月 15 日　山形県新庄市

【東日本】

【第1回】　2023年8月27日（日）　14:45～17:00　@福井県越前市

■テーマ：「ものづくり」を活かした多角的イノベーションの可能性

■事例発表＆登壇者：

株式会社能作　代表取締役社長	能作　千春　氏
Konel. Kanazawa　Inc　代表取締役	宮田　大　氏
株式会社友安製作所　代表取締役	友安　啓則　氏
有限会社菊井鋏製作所　代表取締役	菊井　健一　氏

■ファシリテート：

京都橘大学　経営学部　教授	丸山　一芳　氏

【第2回】2023年10月26日（木）　13:00～15:10　@大阪府八尾市

■テーマ：「エリア」を活かした多角的イノベーションの可能性

■事例発表＆登壇者：

株式会社みせるばやお　代表取締役社長	木村　祥一郎　氏
株式会社京屋染物店　専務取締役	蜂谷　淳平　氏
映画『神在月のこども』原作・コミュニケーション監督	四戸　俊成　氏
FactorISM 実行委員会　統括プロデューサー	松尾　泰貴　氏

※松尾氏はパネルディスカッションより登壇

■ファシリテート：

株式会社日建設計　　吉備　友理恵　氏

【第3回】2023年11月24日（金）　13:30～16:00　@香川県東かがわ市

■テーマ：暮らしを変えるイノベーションへの挑戦
～今ある地域資源を活かした新たなアプローチ～

■事例発表＆登壇者：

株式会社タナベ刺繍　代表取締役社長	田部　智章　氏
合同会社シーベジタブル　共同代表	友廣　裕一　氏
株式会社 JAPANDEMIC COMPANY　代表取締役	山之内　圭太　氏
谷川木工芸　3 代目 (桶結師)	谷川　清　氏

■ファシリテート：

株式会社パソナ JOB HUB　ソーシャルイノベーション部長　　加藤　遼　氏

【第4回】2023年12月4日（月）　14:30～17:00　@群馬県桐生市

■テーマ：「選ばれる地域」が生み出すイノベーションの可能性

■事例発表＆登壇者：

台東デザイナーズビレッジ　村長	鈴木　淳　氏
株式会社 machimori　代表取締役	市来　広一郎　氏
辰野町　産業振興課　商工振興係長	野澤　隆生　氏
ふふふ　　オーナー	和﨑　拓人　氏

■ファシリテート：

京都橋大学　経営学部　　教授　　丸山　一芳　氏

【第5回】2023年12月9日（土）　13:00〜15:30　@岩手県遠野市

■テーマ：「地域の価値を活かした共創」が生むイノベーションの可能性

■事例発表＆登壇者：

株式会社富川屋　代表　プロデューサー	富川　岳　氏
一般社団法人イシノマキ・ファーム　代表理事	高橋　由佳　氏
株式会社京屋染物店　専務取締役	蜂谷　淳平　氏
FactorISM 実行委員会　統括プロデューサー	松尾　泰貴　氏

■ファシリテート：

青森大学　社会学部　准教授	石井　重成　氏

【第6回】2023年12月20日（水）　14:45〜17:00　@大阪府大阪市

■テーマ：「拡張性」を活かした多角的イノベーションの可能性

■事例発表＆登壇者：

江本手袋株式会社　代表取締役	江本　昌弘　氏
FactorISM 実行委員会　統括プロデューサー	松尾　泰貴　氏
一般社団法人 demoexpo　理事	岡本　栄理　氏
渋谷ブレンド株式会社　代表取締役社長	細目　圭佑　氏

■ファシリテート：

京都橘大学　経営学部　教授	丸山　一芳　氏

【第7回】2023年12月26日（火）　14:00〜16:30　@東京都渋谷区

■テーマ：「地域デザイン」を活かした多角的イノベーションの可能性

■事例発表＆登壇者：

合同会社 OULO　代表	赤松　智志　氏
シソーラス株式会社　代表取締役	荒井　雄彦　氏
合同会社シーラカンス食堂　代表	小林　新也　氏
有限会社セメントプロデュースデザイン　取締役	三嶋　貴若　氏

■ファシリテート：

京都橘大学　経営学部　教授	丸山　一芳　氏

OPEN FACTORY REPORT 2.0

【第8回】2024年1月15日（月）　14:30～17:00　@山形県新庄市

■テーマ：「地域の価値を活かした共創」が生むイノベーションの可能性

■事例発表＆登壇者：

吉野敏充デザイン事務所　代表	吉野　敏充　氏
ユキノチカラプロジェクト協議会　事務局	加藤　紗栄　氏
株式会社浜野製作所　代表取締役	浜野　慶一　氏
TSUGI　代表／SOE　副理事	新山　直広　氏

■ファシリテート：

青森大学　社会学部　准教授	石井　重成　氏

3．各回に紡がれた言葉

■「コミュニティ」のかたち　（「理念」にゆるやか集う）

・うまくワークするコミュニティの根源には、楽しさ・楽しみという部分と、サードプレイス的な場所（本業とは直接的には関わらない距離がある場所）であることが重要である。
・「何となく面白そう」という要素を含んでいることが、成功するコミュニティには共通して必要な要素かもしれない。本業に100%関係ないかもしれないが、将来的には何らかのフィードバックを得られることが多く、結果的に本業への還流が見られる。
・立場は違っても、同じことを考えている者が連携することが重要だと思っている。
・共通目的による信頼関係をもとに、新しい取り組みを進めていくことが大事である。「共体験」を生み出す装置が重要で、イベントよりも一歩進んだコミュニティが大事である。
・一緒にやりたいと思ってもらうためには、ベースプランが必要であり、様々な人が乗れる「余白」が必要である。マスタープランではなく、ベースプランとすることで一種の余白を作っている。音楽でいうジャズのように、即興で何かを作り上げることが面白い。
・参加者が増えることで、コア部分や参加者同士の関係性も変化している。そうした人を巻き込む中で、変化できる組織という柔軟性も必要である。
・収益性だけでなく、数値に見えないところも重要である。そこがないと継続していかない。

■「人」のちから　（「多様な」人たちが繋がる・繋げる）

・凸凹な人を集めて、そういう人たちが持っているものを活かしていけるような環境が大事。当たり前だったやり方で頑張っても新しいものは生まれない。
・本業でない人が外から入ってもらうことが大事である。部外者やよそ者が入ることで、新しい動きが生まれる。
・地方の場合、多くのコミュニティでは「地縁」が重要であり、地元のキーパーソンと上手く付き合っていく必要がある。個人的には「地縁」と「趣向」のハイブリッドのようなコミュニティが重要だと思っている。「地域内の人」と「外の人」がどう上手く連携するか、交じり合うかという点が重要だと思っている。
・地域から出て時間が経つと、地域の状況は変わっている。そうした時に、いわゆる「おせっかいな人」を介して、地域とつないでもらったことが非常に有難かった。
・「半分行政」で「半分民間」のような立場の人を巻き込むことが重要。人と人をつなぐオーガナイザーのような存在が重要である。
・まちのキーパーソンを多く知っている行政担当者に火をつけることで、面白い取り組みにつながっていく。

■イノベーションにつなげるために　（「やってみる」を「連鎖」する）

・外からの目や外部から刺激によって、内部の人が変わり、イノベーションが生まれていく。オープンファクトリーに参加している事業者でも、かつては新事業展開など新しい活動に消極的なことも多いが、消費者や外部の目によって、自分自身の仕事や価値を再認識するようになる。そこからイノベーションにつながっていく。
・今まで同じことの繰り返しで上手くいったりいかなかったりしてきたが、これからの時代においては、それは間違いで、もがきながら変化し続けるのが重要な時代になった。答えありきではなく、やっていく中で答えが見つかるパターンは多いと思う。
・イノベーションを生み出すには、「内発的動機」「独断と偏見」「心理的安全性」の３つが必要だと思っている。
・最初からイノベーションを目的に活動しておらず、それは結果的に生じたものである。イノベーションは結果論である。地域を良くしたいという緩やかな想いから始まっている。
・イノベーションは偶発的なものであるが、それを生み出すような小さなヒーローや成功体験を積んでいくことも重要である。
・コミュニティでのイノベーションには、「覚悟の連鎖」というものが必要である。私自身も地域移住を決意して、新しいことに取り組むという「覚悟」を決めたことで、地元もそれに応じてくれたというところである。ある人の覚悟によって、別の人も覚悟を決めるという連鎖である。
・何か起爆剤になるような取組（成功体験）を生むことが重要である。ケミストリー（化学反応）を起こすこと、各地の小さな化学反応をつなぎあわせることが大事。

OPEN FACTORY REPORT 2.0

Ⅳ．「知見融合会議」開催結果

1．知見融合会議とは

VUCA 時代における国内の次代産業クラスター政策としての「Local X」の多様な可能性を明らかするため、Local X というコミュニティに必要な要素や、コミュニティが魅力的かつ持続的に躍動するために何が必要かといった点について、フォーラムの開催結果をふまえて各地方経済産業局担当者が集い、検討するもの。

2．プログラム

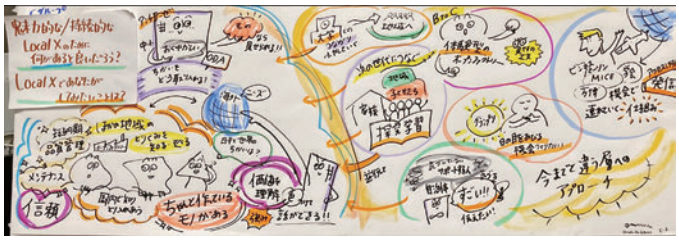
開催日時：2024 年 2 月 14 日（水）12 時～ 15 時
場所：ナレッジキャピタル　ザ・ラボ（アクティブスペース）
参加：地方経済産業局担当者＋有識者

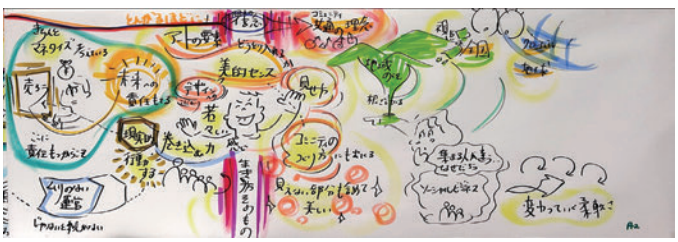
1　各局の取り組みを共有し Local X になり得る要素を抽出する（インプット）
- ナレッジキャピタル　ザ・ラボの見学ツアー
- 各局からのインプットトークとして、東北・関東・四国・近畿の各局より Local X Forum の開催報告

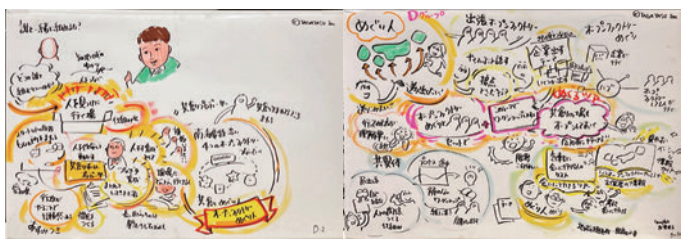
2　自身の体験に結びつけながら、Local X になり得る要素を深める（発散）
- ワークショップ形式にて、Local X になり得る要素やどのように活動を継続するか、また今後、参加者自身がどのように関わっていきたいか、といった点を検討

■ワークショップテーマ①
- Local X というコミュニティに必要な要素とは？
- Local X における共通点や、共通するエッセンスは何か？

■ワークショップテーマ②
- 魅力的な / 持続的な Local X のために何があると良いか？
- Local X を通じてあなたがしてみたいことはあるか？







［注］グラフィックファシリテーションは「株式会社たがやす」による

Ⅴ．集積のあり方の多様化

1．Local X= コミュニティを起点とするアプローチ

全国計 8 回のフォーラムにおいて、各地で様々な課題解決を体現する Local X のキーパーソンに登壇を頂いた。活動する地域や内容は異なるものの、それぞれに共通する部分は、従来のような課題解決自体を目的として集まった（集められた）集合体ではなく、「会いたい人」や「話したい人」が集まりコミュニティを形成し、そのうえで特定の目標を持って行動するという点に特徴がみられる。

2．次代の産業クラスターとしての Local X の可能性

また、こうしたコミュニティを出発点とするアプローチは、これまでの産業クラスターとは異なる次世代の政策展開につながっていく可能性がある。Local X というコミュニティを起点とするアプローチで政策検討を行った場合、従来までの産業クラスターとは異なる、新しい政策アプローチがみえてくる。従来型産業クラスターでは、特定の明確な目的のもとに、各種主体が集まり（集められる）、多くの場合は定量化された目標水準を達成するために、活動することが多い。特定の目的のもとに活動しているがゆえに、当初想定しなかったような変化（＝不確実性の増大）が生じた場合、各種主体が起点を効かせて、そうした変化に迅速に対応することは難しい。

一方、Local X のようなコミュニティ型（人と人のつながりを起点）では、活動理念への共鳴やあるべき社会・地域の姿を追求することが多く、参加者が互いを良く知る関係性を持ち、多様な能力を持った人材が集っていることで、不確実性にも迅速に対応することが可能となる。しかし、現在の一般的な行政の支援施策は活用が難しいことも予想される（※行政予算の組み立て上、前年度に要件設定されて準備されるため）。

	従来型産業クラスター（コンソーシアム型産業集積）	次代の産業クラスター（コミュニティ型産業集積）
始まり	目的	理念
目指す先	結果	ありたい姿
不確実性への対応	不向き	向いている
既存施策の活用	使いやすい	使いにくい

Local X のアプローチはこちら

3．コミュニティ型産業集積が躍動するために

行政の予算要求の形を直ちに変化させることは難しいこと、また従来の産業政策も依然重要（国家プロジェクトなど予算規模が大きいもの）であることから、Local X への支援体制を別途検討することが重要になる。

その一つの方向性となりうるものが、近年こうした主体との連携やコラボレーションを進めている「大企業」や「地域金融機関」といった存在である。社会・地域課題の解決が自社のビジネスや自地域の成長につながるといった「利益」を享受する主体は、支援主体になりうる可能性がある。こうした方向性は、日本企業の「価値創造経営」を促進し、社会課題解決を通じた成長戦略を策定することで成長期待を高め、持続的に企業価値を向上させるといった、近年の経済産業政策における「新機軸(※)」での議論とも合致するものである。

※経済産業省「経済産業政策新機軸部会」での議論など
https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/shin_kijiku/index.html

なお、連携当初から資金的提供を Local X に対して行うことは企業心理的にも容易ではないと考えられることから、大企業等が自社の持つ有形無形の資産（金銭以外）を Local X に提供するきっかけを作ることが、「敷居」を下げる取組として機能し、大企業等と Local X コミュニティの関係性の変化を促す可能性があるものと考察する。

Special THANKS

第１回　登壇者

株式会社能作　代表取締役社長　能作 千春 氏

富山県高岡市出身。神戸学院大学を卒業後、アパレル関連会社で通販誌の編集に携わったのち、2011 年に家業である株式会社能作に入社。2016 年に取締役に就任。2018 年に専務取締役に就任し、能作の“顔”として会社の PR 活動に取り組む。2023 年 3 月 20 日、代表取締役社長に就任。

Konel.kanazawa Inc .　代表取締役　宮田 大 氏

Konel は未来を実装する、越境クリエイター集団。「アートとテクノロジーを融合させ欲望を形にし、世界に問いを投げかけます」をキャッチフレーズに、国内外様々な大企業、クリエイターが複業的に交わり、アイデアを発信し、生み出し続けることで、社会の新たな価値の可能性を創り出すサードプレイスとなっている。

株式会社友安製作所　代表取締役　友安 啓則 氏

高校からアメリカへ留学、City University of Seattle にて M.B.A. を取得。2004 年に父が営む線材加工製造業の友安製作所へ入社し、インテリアの輸入商材を販売開始、2016 年代表取締役社長に就任。
ものづくり日本大賞を受賞した「みせるばやお」の代表理事をはじめ、全国初、広域連携による地域一体型オープンファクトリー「FactorISM」の副実行委員長を務める。クリエイティブを活用し、まちづくり事業を様々な地域でも多数展開。

有限会社菊井鋏製作所　代表取締役　菊井 健一 氏

1987 年 祖父の代から続く理美容ハサミ製造工場の家系の長男として生まれる。高校卒業後、京都大学工学部に入学。京都の土地柄、文化に触れるなかで「祖父の代から続くものづくりの伝統の灯を絶やしたくない」という想いが強まり、大学卒業後すぐ、有限会社菊井鋏製作所に入社。2016 年、28 歳で 3 代目として事業承継。

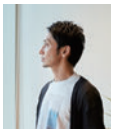
第２回　登壇者

株式会社みせるばやお　代表取締役社長　木村 祥一郎氏

1995 年大学時代の仲間数名と有限会社ジャパンサーチエンジン（現 イー・エージェンシー）を立ち上げ。以来 18 年間、商品開発やマーケティングなどを担当。2013 年に家業である木村石鹸工業株式会社へ入社し、2016 年 4 代目社長に就任。企業同士の共創を促進することで新たなイノベーションを起こすことを目的に株式会社みせるばやおを設立し、2020 年に代表取締役社長に就任。

株式会社京屋染物店　専務取締役　蜂谷 淳平氏

岩手県一関市で創業 100 年以上続く老舗染物店において、伝統と現代の感性を融合させた新たな商品開発・取組に挑戦し続けている。 2018 年東北初のオープンファクトリー『五感市』の初代実行委員長や「いわて県南エリア伝統工芸協議会」副会長を務める。2022 年には自然と共生する郷土文化の魅力を伝える「里山の縁日」プロジェクトを始動。



映画『神在月のこども』原作・コミュニケーション監督　四戸 俊成氏

2009 年 cretica universal を立ち上げ、映画・漫画・音楽等、様々な領域でのコミュニケーション・デザインを手がけ、2019 年にアニメーション映画『神在月のこども』を企画＆原作。島国の根と書く「島根・出雲」のロケーションとその文化を五輪イヤーに国内外へと届けるために制作し、2021 年に全国約 200 館でのロードショーを飾る。翌 2022 年に Netflix での全世界配信で初週 161 万人の鑑賞を記録し、Global Top8 を獲得した。

FactorISM 実行委員会統括プロデューサー
／株式会社友安製作所 ソーシャルデザイン部担当執行役員　松尾 泰貴氏

関西大学卒業後、大阪府八尾市に入所し中小企業の支援や産業政策等に従事。八尾市にて「みせるばやお」を立ち上げ、『地方公務員アワード 2019』を受賞。2021 年に友安製作所へ入社後は、一社員としての活動を超えて、様々なまちづくり活動に参画。大阪府広域に広がるオープンファクトリー「FactorISM」や和歌山県専門家、大阪市生野区、八尾市の公共事業のプロデュースを行うなど、様々なコミュニティを越境し、イノベーションを生み出すコミュニティを作り出す実践者。

第３回　登壇者

株式会社タナベ刺繍　代表取締役社長　田部 智章氏

1972 年香川県東かがわ市生まれ。1998 年に父の後を継ぎ社長に就任。「驚きと感動の刺繍で笑顔を創る」ことをミッションに掲げ、小ロットから、大量生産、ファッションブランドへの企画提案など幅広い刺繍の生産を行う。2020 年 12 月には瀬戸内地域の地場産業を担う中小衣料会社が連携する団体「セトウチメーカーズ」を結成。その代表を務め、アンテナショップへの出品やネット通販、自社ブランドの立ち上げなどに尽力。2023 年に瀬戸内地域をものづくりの聖地にするべく、香川県東部を中心に地域一体型オープンファクトリー「CRASSO（クラッソ）」の取組をスタート。

合同会社シーベジタブル　共同代表　友廣 裕一氏

1984 年大阪生まれ。早稲田大学卒業後、2016 年に合同会社シーベジタブルを設立。世界初となる地下海水を利用した海藻の陸上栽培モデルを確立。障がい者や高齢者の方々と共に、全国各地で高品質すじ青のりを生産するとともに、最近は海面での海藻栽培も各地で手掛けている。

株式会社 JAPANDEMIC COMPANY　代表取締役　山之内 圭太氏

1989 年松山市生まれ。2016 年醸造家として活動を開始。クラフトビール事業と家業のファッション事業を掛け合わせながら、地元に新しい文化を育てたいという想いで 2019 年に地元愛媛に U ターンし、アパレルのセレクトショップ DD4D（ディーディーフォーディー）内にクラフトビール醸造所を設置。自由で遊び心のある「挑戦」を続けている。

谷川木工芸　３代目（桶結師）　谷川 清氏

1984 年三木町生まれ。香川県の伝統工芸である讃岐桶樽を今に伝える、谷川木工芸の三代目。 高校卒業後、美容師を目指し専門学校に入学、介護職のサラリーマンを経て、2017 年に香川県認定の伝統工芸士である二代目の父親の跡を継ぐべく桶職人の道に入る。桶やおひつはもちろん、桶づくりの技法を活かして新たな商品を生み出し、2019 年には電子レンジで使用できる弁当箱「讃岐弁」シリーズがヒットしてふるさとチョイス AWARD2019 総合大賞を賞。歴史的な技法を守りながら、新たな技法や発想を加えることで、伝統を未来に引き継いでいる。

第１回座長　第４回座長　第６回座長　第７回座長

京都橘大学 経営学部　教授　丸山　一芳氏

博士（知識科学、国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学）。新潟市生まれ。松下電器産業株式会社（現パナソニック株式会社）、株式会社リクルートワークス研究所客員研究員、事業創造大学院大学准教授等を経て現職。経済産業省近畿経済産業局調査事業オープンファクトリー研究会委員（座長）など歴任。著書に『地域産業のイノベーションと流通戦略』千倉書房（共著）、『地域産業の経営革新』税務経理協会（共著）など。

第４回　登壇者

台東デザイナーズビレッジ　村長　鈴木 淳氏

株式会社ソーシャルデザイン研究所代表取締役。千葉大学工学部工業意匠科卒業後、カネボウファッション研究所勤務を経て独立。1998 年 NPO 法人ユニバーサルファッション協会を設立（現在副理事長）し、障害、高齢、体型などに関わりなくファッションを楽しめる社会づくりの啓蒙活動を行う。2004 年には日本で唯一のファッション・モノづくり系デザイナーの創業支援施設「台東デザイナーズビレッジ」の村長（インキュベーションマネージャー）を受託。クリエイターや小さな企業の事業コンセプトやマーケティングの指導を行っている。

株式会社 machimori　代表取締役　市来 広一郎氏

大学院で物理学を修了したのちビジネスコンサルティング会社に勤務。2007 年熱海に U ターンし、ゼロから地域づくりに取り組み始める。地域資源を活用した体験交流プログラムを集めた「熱海温泉玉手箱（オンたま）」をプロデュース。2011 年、民間まちづくり会社、株式会社 machimori を設立し、空き店舗を活用しゲストハウスを運営するなど、シャッター街となっていた熱海の中心市街地を再生している。

辰野町　産業振興課 商工振興係長　野澤 隆生氏

内閣府地域活性化伝道師。2001 年に辰野町に入庁し、50 以上の事業を立ち上げ。プレイヤー同士を有機的に繋ぎ、社会的事業を創出する支援を一貫して行う「まちづくりのカタリスト」。100 人を超える「まちづくりプレイヤーエコシステム」の醸成を実現。地域を持続可能にするため、関係人口、移住人口及び共に地域を創る共創人口・共創パートナー（企業）を増やし、官民連携・民民連携を推進。通称「はじまりのひと」。趣味はグルメ、温泉、サーフィン、バイク、海釣り。

ふふふ　オーナー　和﨑 拓人氏

大学卒業後、服飾専門学校でファッションを学び、都内でフリーのデザイナーとして活動。繊維産地とのつながりを深めて相互理解の高いものづくりがしたいと考え、2019 年に桐生市に移住。ファッションアトリエ兼ボードゲームカフェ「ふふふ」を立ち上げ、自身の制作をオープンなアトリエスペースで行いながら、ボードゲームカフェスペースを地元の人の交流の場とし、イベント開催するスペースとしても運営している。

第２回座長

株式会社日建設計　企画開発部門　イノベーションデザインセンター
吉備　友理恵氏

株式会社日建設計イノベーションデザインセンター プロジェクトデザイナー。株式会社日建設計 NAD 室（Nikken Activity Design Lab）に入社し、一般社団法人 Future Center Alliance Japan への出向を経て現職。都市におけるマルチステークホルダーの共創、場を通じたイノベーションについて研究実践を行う。共創を概念ではなく、誰もが取り組めるものにするために「パーパスモデル」を考案。主な著書に『パーパスモデル：人を巻き込む共創のつくりかた』（学芸出版社）など。近畿経済産業局をはじめ、多くの共創をテーマとするシンポジウム、セミナー等への登壇実績多数。現在は社内外をつなぎ、コラボレーションをデザインするイノベーションデザインセンターで活動し、本社内に 2023 年 4 月にオープンした共創の場 PYNT(ピント) の企画・運営も行う。

Special THANKS

第５回　登壇者

株式会社富川屋　代表　プロデューサー富川 岳氏

広告会社を経て 2016 年に岩手県遠野市に移住。『遠野物語』の魅力に戦慄し、民俗学の視点からその土地の物語を編み直し、文化の魅力を発信するべく、出版や商品開発などの様々なプロデュースワークと創作活動を行う。同時に、自ら郷土芸能「しし踊り」の舞手としても活動中。地域が抱える人口減少という課題に対し、地元の企業や仕事について、求職者だけでなく近隣住民や次世代を担う子ども達にも公開する「遠野しごと展」をプロデュース。

一般社団法人イシノマキ・ファーム　代表理事　高橋 由佳氏

宮城県仙台市出身。精神保健福祉士・職場適応援助者（ジョブコーチ）。日本ファンドレイジング協会准認定ファンドレイザー。LEGO SERIOUS PLAY 認定ファシリテーター。2011 年、こころの病を持つ人たちの就労・就学支援を行う NPO 法人 Switch を設立。2016 年には、「ソーシャルファーム」を理念とした就農支援の一般社団法人イシノマキ・ファームを設立し、農業を通して地域内外を繋ぎ、社会的に弱い人もそうでない人も対等に過ごせる場づくりを目指す。2022 年 7 月には石巻初の醸造所「ISHINOMAKI HOP WORKS」にてクラフトビールの醸造販売を行っている。

株式会社京屋染物店　専務取締役　蜂谷 淳平氏

岩手県一関市で創業 100 年以上続く老舗染物店において、伝統と現代の感性を融合させた新たな商品開発・取組に挑戦し続けている。 2018 年東北初のオープンファクトリー『五感市』の初代実行委員長や「いわて県南エリア伝統工芸協議会」副会長を務める。2022 年には自然と共生する郷土文化の魅力を伝える「里山の緑日」プロジェクトを始動。

FactorISM 実行委員会 統括プロデューサー
／株式会社友安製作所 ソーシャルデザイン部担当執行役員　松尾 泰貴

関西大学卒業後、大阪府八尾市に入所し中小企業の支援や産業政策等に従事。八尾市にて「みせるばやお」を立ち上げ、『地方公務員アワード 2019』を受賞。2021 年に友安製作所へ入社後は、一社員としての活動を超えて、様々なまちづくり活動に参画。大阪府広域に広がるオープンファクトリー「FactorISM」や和歌山県専門家、大阪市生野区、八尾市の公共事業のプロデュースを行うなど、様々なコミュニティを越境し、イノベーションを生み出すコミュニティを作り出す実践者。

第６回　登壇者

江本手袋株式会社　代表取締役　江本 昌弘氏

日本一の手袋出荷量を誇る香川県東かがわ市にある創業 84 年の江本手袋 3 代目。DJ 歴 35 年、各地で DJ をしながら、家業を継いでいる。元々は地場産業として「手袋産業」が栄えていたが、時代とともに多くのメーカーが海外に拠点を移行。その中で、『手袋職人の聖地をつくる』をビジョンにかかげ、地元生産にこだわって手袋を作り続けている。2018 年には自社ブランド「佩 - ハク -」を展開。OEM 受注依存から脱却し、ネット販売による販路拡大を行った。2020 年には東かがわの縫製メーカー 8 社で「セトウチメーカーズ」を結成。

FactorISM 実行委員会 統括プロデューサー
／株式会社友安製作所 ソーシャルデザイン部担当執行役員　松尾 泰貴氏

関西大学卒業後、大阪府八尾市に入所し中小企業の支援や産業政策等に従事。八尾市にて「みせるばやお」を立ち上げ、『地方公務員アワード 2019』を受賞。2021 年に友安製作所へ入社後は、一社員としての活動を超えて、様々なまちづくり活動に参画。大阪府広域に広がるオープンファクトリー「FactorISM」や和歌山県専門家、大阪市生野区、八尾市の公共事業のプロデュースを行うなど、様々なコミュニティを越境し、イノベーションを生み出すコミュニティを作り出す実践者。

一般社団法人 demoexpo 理事
／株式会社オカムラ　WORK MILL コミュニティマネージャー　岡本 栄理氏

大阪市出身。関西学院大学で社会学を学ぶ。株式会社オカムラでは経理、営業事務、秘書を経て 2017 年 6 月より WORK MILL コミュニティマネージャーに。「働く」をテーマにした共創空間・Open Innovation Biotope “Sea” を拠点に、全国の共創を創発するリーダーとして活動中。2023 年 6 月より一般社団法人 demoexpo 理事に就任。大阪・関西万博をきっかけに、まちを盛り上げたり、夢に挑戦する機会を作ったりしたいという思いで、全国各地で交流イベント「EXPO 酒場」の開催を行う。

渋谷ブレンド株式会社　代表取締役社長
／日本 GX グループ株式会社 取締役 CSO　細目 圭佑氏

慶應義塾大学理工学部応用化学科を卒業後、リクルートに勤めながらパラレルキャリアを実践。バイタルデータの可視化に取り組むヘルスケアテック Langerhans の創設をはじめ、幅広い事業開発やプロジェクト組成に従事する。2021 年には渋谷区との行政連携プロジェクト組織から法人化し、渋谷ブレンド株式会社を設立。渋谷を実証実験の場所と捉えながら、官民学連携のエリアマネジメントや企業の新規事業開発等を支援している。2023 年には日本初のカーボンクレジット取引所を開発・開設し、合わせて「渋谷ブレンドグリーンエナジー（現：日本 GX グループ）株式会社」を設立。

第７回　登壇者

合同会社 OULO 代表　赤松 智志氏

学生プロジェクトや地域おこし協力隊をきっかけに、富士吉田市に移住。HOSTEL SARUYA の共同創業や、NPO 法人かえる舎の共同設立、ふじよしだ定住促進センターのスタッフとしても 3 年間従事した後、2022 年 4 月に合同会社 OULO として独立。空き家再生、移住促進、イベント企画、地域教育支援、産業観光など、学生時代より 10 年以上にわたって富士吉田市のまちづくりに取り組んでいる。

シソーラス株式会社 代表取締役　荒井 雄彦氏

2004 年大阪でシソーラス株式会社の前身となる会社を創業しIT コンサルティング業を営む。2019 年長野県長野市に移住し「シソーラス株式会社」を設立。新規事業企画や業務改善のコンサルティング、クラウドサービスの企画・開発・運用などを行う。また 2019 年に同じくして、「(一社) 長野 IT コラボレーションプラットフォーム《NICOLLAP ニコラップ》」の立ち上げも行う。ニコラップでは地元企業とテクノロジー、クリエイター等のコラボレーションを促進し、社会課題解決に資する新規事業の立ち上げをコーディネートする役割を担う。

合同会社シーラカンス食堂 代表　小林 新也氏

兵庫県小野市出身。大阪芸術大学でプロダクトデザインを学び、大学卒業後は地元に戻って 2011 年に「合同会社シーラカンス食堂」を設立。デザインとイノベーションにより播州そろばん播州刃物をはじめとした伝統産業の職人の後継者問題に取り組んでいる。オリジナルブランド「MUJUN」をアムステルダムで立ち上げ海外販路を構築。2021 年には島根県の温泉津（ゆのつ）に誰もが職人になれる村「MUJUN Planet」をつくりはじめ「合同会社里山インストール」を設立する。里山パンク！憲章を掲げ、ものづくりに必要な材料や資材、燃料の自給率を上げる里山暮らしの再生を目指す。

有限会社セメントプロデュースデザイン　取締役
／クリエイティブディレクター　三嶋 貴若氏

1987 年大阪府生まれ。日本各地の地場産業や伝統工芸の産地にてブランド・商品開発から流通までプロデュースを行う。神戸市の老舗はさみ焼メーカー梅香堂の「Kobe Fruwa」の商品開発をはじめ、山梨県の甲州印伝ブランド「URUSHINASHIKA」など産地ブランドの立ち上げだけでなく、「企画・製造・販路」まで見据えながら継続したものづくりを目指す。2021 年より栃木県鹿沼市の主産業である木工や金属加工、さつき盆栽の事業者と共同で鹿沼発ブランド「KINOMA」を立ち上げ。地域のものづくり企業が提案するその土地の魅力を地元ホテルとも連携しながら発信している。

第８回　登壇者

吉野敏充デザイン事務所　代表　吉野 敏充氏

山形県新庄市出身。東京デザイン専門学校卒業後、SOFT ON DEMAND、SOD artwokrs を経て吉野敏充デザイン事務所を設立。地元産農作物などの販売を行うマーケット『kitokitoMarche』、山形県新庄・最上地域広域情報誌『季刊にゃー』の制作・発行、山形県の工芸品のリデザイン・販路支援プロジェクト『山から福がおりてくる』の運営、新庄の後世に残す食のプロジェクト『新庄いいにゃ風土／ SHINJO ii-nya FOOD』のプロデュースなどを手がける。

ユキノチカラプロジェクト協議会 事務局／ブランドマネージャー　加藤 紗栄氏

日本デザイン振興会にて国内地域振興事業を担当し、2015 年にデザインを活用した地域プロジェクトとして岩手県西和賀町の地域ブランド「ユキノチカラ」を自治体および北上信用金庫と共に立ち上げ。これをきっかけに西和賀町に魅了され移住、2020 年にユキノチカラ事務局へ復帰した。冬の活動の妨げとなる「雪」を西和賀町の豊かな食文化や雪遊びなどのアクティビティを生み出す大切な資源としてとらえ直し、地元の事業者や金融機関など複数のステークホルダーと協働して商品開発や魅力発信を行う。

株式会社浜野製作所　代表取締役　浜野 慶一氏

大学卒業後、都内の精密板金加工メーカーに就職。1993 年株式会社浜野製作所代表取締役に就任。都市部の町工場が直面する量産加工の厳しい環境から脱却するため事業構造を見直し、自社の強みを活かした様々なプロジェクトに挑戦。産学官連携としての電気自動車「HOKUSAI」、異業種連携としてアウトオブキッザニアによる工作教室、ベンチャー企業を支援する「Garage Sumida」、墨田区の多彩な町工場の技術や魅力を伝えるオープンファクトリー「スミファ」の実行委員長歴任など、その取り組みは多岐に渡る。「新たな先端都市型のものづくり」として国内外から大きな注目を集める。

TSUGI　代表／クリエイティブディレクター
／ SOE　副理事　新山 直広氏

鯖江市役所勤務を経て 2015 年に TSUGI LLC. を設立。地域特化型のインタウンデザイナーとして、地域や地場産業のブランディングを行う。産業観光イベント「RENEW」の運営をはじめ、越前鯖江地域の観光まちづくりを行う一般社団法人 SOE の設立や、これからの地域とデザインを探究する LIVE DESIGN School の開校など、近年ではものづくり・まちづくり・ひとづくりといった領域を横断しながら地域の活動に取り組んでいる。

第３回 座長

株式会社パソナ JOB HUB　ソーシャルイノベーション部長
加藤 遼氏

法政大学社会学部卒業後、人材サービスの営業に従事。その後、若者雇用・中小企業経営・東北復興・海外展開・観光立国・シェアリングエコノミー・地域複業・ワーケーション・地方創生テレワーク・地域の人事部・リカレント教育などをテーマに、企業・行政・NPO 連携による事業やプロジェクトの企画・開発・運営に取り組む。現在は、社内外の複数の事業やプロジェクトを通じて、個人が主役で才能をシェアする多様な働き方を応援する仕組みの構築、人や自然に想いを馳せる旅の創造等に注力している。「旅するようにはたらく」というコンセプトのもと、シェアリングエコノミー（共助経済）やサーキュラーエコノミー（持続循環型経済）の再構築を進めている。
総務省地域情報化アドバイザー・地域力創造アドバイザー、デジタル庁シェアリングエコノミー伝道師、東京都観光まちづくりアドバイザー、東北大学特任教授（客員）、愛媛大学講師、多摩大学大学院特別招聘フェローなどを兼任。

第５回 座長　第８回 座長

青森大学 社会学部 准教授　石井 重成 氏

経営コンサルティング会社を経て、東日本大震災を機に岩手県釜石市へ移住。多様な官民パートナーシップを手掛け、釜石市オープンシティ推進室長として、市の地方創生戦略を統括。2021 年 4 月より青森大学に着任。（一社）地域・人材共創機構代表理事、総務省地域力創造アドバイザー、デジタル庁シェアリングエコノミー伝道師、環境省地域循環共生圏プラットフォーム事業アドバイザー、福島県奥会津地域共創フェロー等、各地で地域ハンズオン支援や人材育成に取り組む。著書に『ローカルキャリア白書 - 未来の働き方はここにある』。

<制作・編集>　事業名：令和５年度 次代の産業クラスター政策としての「Local X Lab.」事業の発掘、磨き上げ実証事業
委託事業者：株式会社 地域計画建築研究所

<制作>　OPENFACTORY REPORT1.0　https://www.kansai.meti.go.jp/1-9chushoresearch/openfactory/R4fybooklet.pdf
委託事業者：株式会社ダン計画研究所

OPEN FACTORY REPORT 2.0

経済産業省近畿経済産業局　地域経済部地域連携推進課

〒540-8535　大阪市中央区大手前1-5-44

TEL: 06-6966-6013 ｜ MAIL: bzl-kin-openfactory@meti.go.jp

HP: https://www.kansai.meti.go.jp/1-9chushoresearch/openfactory/openfactory.html

（制作・編集）「OPENFACTORY REPORT 2.0」：株式会社地域計画建築研究所

「OPENFACTORY REPORT 1.0」：株式会社ダン計画研究所

2024年3月 発行

※掲載内容・画像の無断転載・複製を一切禁じます